

東京大学大学院新領域創成科学研究科
社会文化環境学専攻

2021 年度
修 士 論 文

住民の幸福感に基づく都市評価方法に関する研究
City Assessment Method Based on Well-being of Residents

2022 年 1 月 17 日提出
指導教員 出口 敦 教授

児玉 峻
Kodama, Shun

目次

第1章 序論	5
1-1. 研究の背景	6
1-2. 研究の目的	10
1-3. 既往研究の整理と研究の新規性	11
1-4. 各章の構成	12
1-5. 用語の定義	13
第2章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理	15
2-1. 幸福感の分類	17
2-2. 幸福感研究や幸福感調査の変遷	20
2-3. 幸福感研究の整理	24
2-4. 幸福感の規定要因の整理	27
2-5. 幸福感調査の整理	29
2-6. 小括	58
第3章 自治体による既存の幸福感調査の課題	59
3-1. 自治体へのヒアリング調査の概要	61
3-2. 自治体へのヒアリング調査の結果	62
3-3. 自治体による既存の幸福感調査の課題	64
3-4. 小括	67
第4章 幸福感に基づく都市評価方法の比較検討	69
4-1. 『QOL アクセシビリティ法』	71
4-2. 『ACTIVEQOL』による都市評価	76
4-3. 幸福感に基づく都市評価方法の比較検討	80
4-4. 小括	82
第5章 『ACTIVEQOL』による都市評価の要件	83
5-1. アンケート調査の概要	86
5-2. 結果の分析および考察	89
5-3. 『ACTIVEQOL』による都市評価の要件	116
5-4. 小括	119
第6章 結論	121
6-1. 各章の成果	122
6-2. 総括	124
6-3. 本研究の課題と今後の展望	125

第 1 章 序論

1-1. 研究の背景

1-2. 研究の目的

1-3. 既往研究の整理と研究の新規性

1-4. 各章の構成

1-5. 用語の定義

1-1. 研究の背景

1-1-1. 幸福感への関心

我が国では戦後から高度経済成長期にかけて、幸せ＝物の豊かさと捉え、物質的・経済的な豊かさを追求してきた。その結果、1968年にはGNP世界2位の経済大国となり、日本は世界でトップクラスの「豊かさ」を達成した。しかし、経済や工業が発展するにつれ、資源の枯渇、環境・生物多様性の破壊、貧富格差の拡大などの諸問題が発生し、物質的・経済的な豊かさが人々の幸福に結びついているかについて議論が行われるようになった（前野，2013¹；環境省，2012²）。実際、日本の一人当たりGDPと幸福度の推移は図1に示す通りで、GDPが50年余りで30倍になっているにもかかわらず、幸福度は横ばいとなっている。図の作成にあたっては、内閣府『国民経済計算（GDP統計）』³、総務省『人口統計』⁴、World Database of Happiness『Happiness in Japan』⁵を参考にした。佐賀市（2016）⁶によると、一国の幸福度とGDPの変化が乖離する現象はアメリカやヨーロッパ諸国などでも広く確認され、何が幸福度をもたらすのか、また、幸福度をどのように調査するのかについての研究が世界的に行われるようになった。

例えば、1990年にノーベル経済学者のアマルティアセンが、GDPに変わる新たな指数として、所得だけではなく健康と教育の3要素を指標とした『人間開発指数HDI（Human Development Index）』⁷を開発している。また、2001年に経済学者ブルーノフライによる『Happiness and Economics』⁸の中で、幸福度をはじめとした主観的指標がデータとして有用であることが主張されて以来、主観的幸福感SWB（Subjective Well-being）に関する研究が盛んになっている。

本研究において住民の幸福度に基づく都市評価方法について論じる上では、まずは上記のような幸福度に関する研究や幸福度調査の変遷および内容を整理することが必要である。

¹ 前野隆司，『幸せのメカニズム 実践・幸福学入門』，講談社，2013。

² 環境省，『環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書』，2012，<https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/zu/h25/pdf/1-2.pdf>

³ 内閣府，『統計表（国民経済計算年次推計）』，2021，https://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/data/data_list/kakuhou/files/files_kakuhou.html

⁴ 総務省統計局，『人口推計の結果の概要』，2021，<https://www.stat.go.jp/data/jinsui/2.html#series>

⁵ World Database of Happiness，『Happiness in Japan（JP）』，2021，https://worlddatabaseofhappiness-archive.eur.nl/hap_nat/nat_fp.php?cntry=6&mode=3&subjects=385&publics=41

⁶ 佐賀市，『佐賀市民の幸福に関する意識調査ダイジェスト』，2016，https://www.city.saga.lg.jp/site_files/file/2017/201704/p1bdlptb841jvcoho6ils11lah4.pdf

⁷ 内閣府，『国連開発計画「人間開発指数（HDI: Human Development Index）」』，2021，https://www8.cao.go.jp/kodomonohinkon/chousa/h28_kaihatsu/2_02_2_1.html

⁸ Bruno S. Frey，『Happiness and Economics: How the Economy and Institutions Affect Human Well-Being』，Princeton Paperbacks，2001。

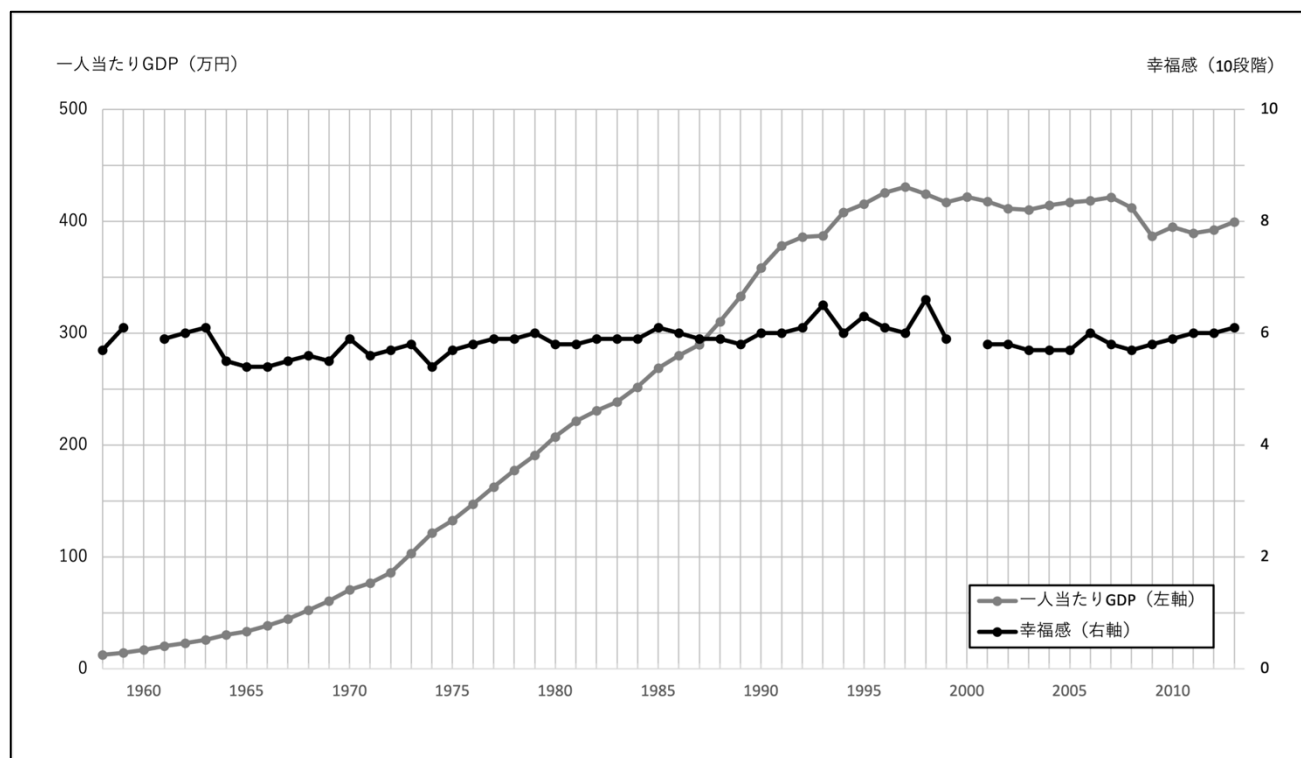


図1：日本人一人当たりのGDPと幸福度の推移

内閣府『国民経済計算（GDP統計）』³，総務省統計局『人口統計』⁴，World Database of Happiness『Happiness in Japan』⁵を参考に筆者作成。

1-1-2. 今後の都市計画における幸福度調査の重要性

幸福度への関心が高まる中，日本の都市計画分野においても，幸福度調査の重要性が今後益々高まっていくと予想される。

従来の都市事業では，公園や道路といった施設整備，市街地の拡張や抑制，緑地の保全などが実施され，その成果の多くは結果的に地図上に表記される対象であったため，緑被率，日照といったいわば空から都市を俯瞰することでデータ化できる量的指標や，費用便益分析などの経済的指標による事業評価が行われてきた（出口，2020⁹）。それに対して近年開発が進むスマートシティでは，IoTデータなどを活用して住民の幸福度を直接向上させるといった，従来の量的指標や経済的指標では評価しきれない取り組みが増加している。例えば，会津地域ではMaaSシステムにより交通サービス，施設，店舗の運休，混雑情報をリアルタイムに入手できる¹⁰ほか，加古川市ではIoTデバイスによって，子供や高齢者の見守りサービスを実施している¹¹。これらのような，物理的な都市整備を経ずに住民の幸福度に直接効果をもたら

⁹ 出口敦，スマートシティをめぐる文理の協創の取組と課題，文理の協創によって社会的課題に立ち向かう総合工学，pp. 44-49，2020。

¹⁰ 内閣府，スマートシティを通して導入されるサービス（前半），2021，https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/smartcity/02_ref1.scservice_1.pdf

¹¹ 内閣府，スマートシティを通して導入されるサービス（後半），2021，https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/smartcity/02_ref1.scservice_2.pdf

すソフト事業が行われる都市においては、量的、経済的指標による都市評価に代わって、住民の幸福感に基づいて都市を評価する仕組みが重要となる。

また近年では、国連が定める『SDGs (Sustainable Development Goals)』の前文で「No one will be left behind. (誰一人取り残さない)」が誓われる¹²ほか、内閣府が未来社会のコンセプト『Society 5.0』として、誰もが快適で活力に満ちた質の高い生活を送ることのできる「人間中心の社会」を提唱する¹³など、人々の多様な価値観への対応が社会的に求められている。都市分野においても、「緑が多い方が良い」、「経済的に豊かな方が良い」などの画一化された価値観に基づく評価に代わって、住民一人一人の価値観に応じて都市を評価する必要性が高まっており、住民の幸福感に基づく都市評価はこのような面からも重要であると言える。

1-1-3. 自治体による幸福感調査の課題

1-1-2 で述べたように幸福感に基づく都市評価の重要性が高まっている背景から、国内では、住民の幸福感調査を実施する自治体が増加している。例えば、荒川区は、『荒川区民総幸福度 GAH (Gross Arakawa Happiness)』という幸福感の調査指標を独自に開発し、2013 年から区民の幸福感を調査している¹⁴。また、熊本県でも、『県民総幸福量 AKH (Aggregate Kumamoto Happiness)』という調査指標が開発され、住民の幸福感調査が行われている¹⁵。

しかし、これらの幸福感調査では、政策の改善・立案に活用しにくい点や、行政による住民の価値観の画一化などの課題が指摘されている。森田 (2014)¹⁶は、「幸福度指標は代表性が高くコントロール性が低いという特性を持っており、政策の改善や立案に活用しにくい」と指摘している。コントロール性とは、斎藤 (2003)¹⁷によると「指標内容の実現手段をどのように想定できるか」を意味しており、森田 (2014) は更に、「住民の幸福度を測定できたとしても、幸福度をモニタリングするのみにとどまり政策の改善や立案に活用されなかった場合、幸福度指標の存在意義が問われる」と述べている。また、森田 (2014) は、「既存事例では指標 (項目) 選定が行政によって行われており、行政が住民の価値観を一方的に決定し画一化している可能性がある」とも指摘している。例えば、行政が幸福感調査の指標項目の一つとして『可処分時間の多さ』を定めたとしても、可処分時間が多い方が幸福であるかどうかは住民の嗜好次第であり、このような画一化された価値観に基づく指標項目を用いても住民の幸福感を適切に調査することはできない。

以上のように、自治体による既存の幸福感調査ではいくつかの課題が指摘されているものの、森田 (2014) は、幸福感調査の指標項目の構成を分析することによってこれらの指摘を行っており、実際に幸福感調査を実施する自治体がどのような課題を感じているのかについては別途確認しなければならない。

¹² 外務省, No one will be left behind. - 誰一人取り残さない, 2015, <https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000295122.pdf>

¹³ 内閣府, Society 5.0, 2021, https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/

¹⁴ 荒川区, 荒川区民総幸福度 (GAH) に関する区民アンケート調査, 2020, <https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a001/kouhou/kouchou/gahanke-to.html>

¹⁵ 熊本県, 令和3年度 (2021年度) 県民総幸福量 (AKH) に関する調査結果について, 2021, <https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/18/115202.html>

¹⁶ 森田修康, 自治体における幸福度指標の課題と方向性 ―指標作成アプローチと政策の改善・立案への活用方法―, 自治体学, 第27巻, 第2号, pp. 60-66, 2014.

¹⁷ 斎藤達三, 総合計画と政策評価, 地域科学研究会, 2003.

1-1-4. 住民の幸福感に基づく新たな都市評価方法

自治体による既存の幸福感調査について課題が指摘されている一方で、住民の幸福感に基づく新たな都市評価方法が研究者によっていくつか提案されている。例えば、林らは2021年に『交通・都市計画のQOL主流化』¹⁸の中で、従来の費用便益分析による事業評価に代わって、住民のQOL（生活の質）の変化から都市事業を評価する『QOLアクセシビリティ法』を提唱している。また、筆者が参画している日立東大ラボ（「超スマート社会」の実現を目指し、スマートシティとエネルギー政策について研究する産学共創の研究組織）のハビタット・イノベーションプロジェクト¹⁹では、住民の活動満足度に着目して幸福感を調査し都市を評価する、『ActiveQoL』による都市評価を提案している²⁰。

しかし、これらの方法が自治体による既存の幸福感調査の課題を解決できるかについての検討や、方法の実現に向けた具体的な要件についての提案は未だ行われていない。

¹⁸ 林良嗣 他, 交通・都市計画のQOL主流化 経済成長から個人の幸福へ, 明石書店, 2021.

¹⁹ H-UTokyo Lab., QoLによる都市評価, 2021, http://www.ht-lab.ducr.u-tokyo.ac.jp/research/city_qol/

²⁰ H-UTokyo Lab., 人中心のスマートシティの評価とQoL, 2021, <http://www.ht-lab.ducr.u-tokyo.ac.jp/wp-content/uploads/2021/10/5b6a7c4315a29b81340890b7402209ff.pdf>

1-2. 研究の目的

背景を踏まえ本研究では、幸福感に基づく都市評価を実現するため、幸福感に基づく新たな都市評価方法の有効性と実現に向けた具体的要件を明らかにすることを目的とする。また、以下の小目的を設定する。

- ① 幸福感に関する研究や幸福感調査の変遷および内容を明らかにすること。（第2章）
- ② 幸福感調査を実施している自治体へのヒアリング調査を通し、自治体による既存の幸福感調査の課題を明らかにすること。（第3章）
- ③ 既存の幸福感調査に基づく都市評価方法と、新たな都市評価方法を比較検討し、新たな都市評価方法の有効性を明らかにすること。（第4章）
- ④ 住民の幸福感に基づく新たな都市評価方法の実現に向けて、『ActiveQoL』による都市評価²⁰の要件を明らかにすること。（第5章）

1-3. 既往研究の整理と研究の新規性

幸福感に関する研究の歴史をまとめた研究はいくつか存在する。特に佐伯ら（2014）²¹は、19世紀後半から現在に至るまでの心理学分野および幸福学研究の分野の歴史を整理している。しかし、自治体により実施されている幸福感調査なども含めて幸福感研究と幸福感調査の変遷および内容を総合的に整理した研究はほとんど見られないため、本研究にて扱う。

幸福感調査に関する研究は国内外で盛んに行われているものの、幸福感を測定する上での問題点や幸福感尺度の紹介、開発、妥当性の検証についての研究が多くを占めている。自治体による幸福感調査に関する研究では、森田（2014）¹⁶が、幸福感調査の指標項目をいかに作成するか、幸福感調査をいかに政策の改善・立案に活用するか²の2点について考察しており、幸福感調査の指標項目の構成を分析することを通して幸福感調査の課題を指摘している。しかし、実際に幸福感調査を実施する自治体がどのような課題を感じているのかについて確認した研究はほとんど見られないため、本研究では自治体へのヒアリング調査を通して、幸福感調査の課題を明らかにする。

幸福感や満足度に基づく都市評価方法についての研究はほとんど存在しない。唯一、和川（2011）²²が「政策がどのような経路を通じて満足度に影響するのかに関する分析はほとんどなされて来なかった」とし、住民の生活満足度を政策に対する満足度により構造化する方法を検討しているが、2021年に発表された林らによる『QOL アクセシビリティ法』¹⁸や、日立東大ラボが提案する『ActiveQoL』による都市評価²⁰の有効性や要件について検証、提案している研究は存在しないため、本研究にて扱うものとする。

²¹ 佐伯政男ら，幸福感研究の最前線，感情心理学研究，第21巻，第2号，pp.92-98，2014.

²² 和川央，生活満足度を活用した政策検討の可能性 ―意識調査データに基づく生活満足度構造の分析を通じて―，公共政策研究，第11巻，pp. 85-96，2011.

1-4. 各章の構成

第1章では、住民の幸福感に基づいて都市を評価する重要性が高まっている背景を踏まえ、研究の目的を設定する。幸福感調査や幸福感に基づく都市評価などに関する既往研究から本研究を位置づけ、本研究で用いる用語を定義する。

第2章では、幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容を明らかにするため、幸福感の分類、幸福感研究や幸福感調査の変遷、幸福感研究の内容、幸福感を規定する要因、これまでの幸福感調査の内容について順に整理する。

第3章では、自治体によって実施されている幸福感調査について、既往研究では明らかにされていない自治体の実感を把握するため、自治体に対するヒアリング調査を実施する。その上で、第2章で整理した国内の幸福感調査の特徴も踏まえて、自治体による既存の幸福感調査の課題を明らかにする。

第4章では、2021年に開発された2つの幸福感に基づく新たな都市評価方法（『QOL アクセシビリティ法』¹⁸と『ActiveQoL』による都市評価²⁰）と既存の幸福感調査を比較検討し、新たな都市評価方法の有効性とそれぞれの特徴を明らかにする。

第5章では、第4章で有効性が明らかになった『ActiveQoL』による都市評価を実現するため、人々の活動満足度や幸福感の関係をアンケート調査で把握し、『ActiveQoL』による都市評価の要件を明らかにする。

第6章では総括として各章で得られた成果について整理し、幸福感に基づく都市評価が実現した際に自治体を目指す都市像についてと、実現のための今後の課題を指摘する。

1-5. 用語の定義

本研究では、以下のように用語を定義する。

- ・ 幸福感研究：幸福感に関する研究のこと。
- ・ 主観的幸福感調査：主観的幸福感（詳しくは2-1 参照）の調査のこと。
- ・ 主観的幸福感調査尺度：『SWLS (Satisfaction with Life Scale)』²³や『PANAS (Positive and Negative Affect Schedule)』²⁴など、主観的幸福感を調査する尺度のこと。
- ・ 客観的幸福感調査：客観的幸福感（詳しくは2-1 参照）の調査のこと。
- ・ 客観的幸福感調査指標：『人間開発指数 HDI (Human Development Index)』⁷や『より良い暮らし指標 BLI (Better Life Index)』²⁵など、いくつかの指標から客観的幸福感を推定する指標群のこと。
- ・ 指標項目：客観的幸福感調査指標において、幸福感を推定するために測定される一つ一つの項目のこと。

²³ Diener E. ら, The satisfaction with life scale, Journal of Personality Assessment, 第49巻, pp. 71-75, 1985.

²⁴ 佐藤徳ら, 日本語版 PANAS の作成, 性格心理学研究, 第9巻, 第2号, pp. 138-139, 2001.

²⁵ OECD, より良い暮らし指標(Better Life Index: BLI)について, 2021, <https://www.oecd.org/tokyo/statistics/aboutbli.htm>

第 2 章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

2-1. 幸福感の分類

2-2. 幸福感研究や幸福感調査の変遷

2-3. 幸福感研究の整理

2-4. 幸福感の規定要因の整理

2-5. 幸福感調査の整理

2-6. 小括

第2章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

本章では、幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容を明らかにする。

2-1 では、幸福感という概念の分類について、現在心理学の分野で提唱されている定説を紹介する。

2-2 では、幸福感研究や幸福感調査の変遷について、2-1 で紹介する幸福感の分類に基づいて年表を作成し整理する。

2-3 では、幸福感研究を分類、整理する。

2-4 では、幸福感研究にて明らかになっている、幸福感を規定する要因について詳しく整理する。

2-5 では、国内外で実施されてきた幸福感調査について整理した上で、国内の自治体による既存の幸福感調査の特徴を分析する。

2-1. 幸福感の分類

本節では、心理学分野において定説となっている幸福感の分類について紹介する。整理にあたって、前野（2013）¹、林ら（2021）¹⁸などの文献や、佐伯ら（2014）²¹、喜多島ら（2021）²⁶などの研究を参考にした。

幸福感の分類とその調査尺度および調査指標についてまとめたものが図2である。幸福感は、大きく主観的幸福感 SWB (Subjective Well-Being) と客観的幸福感 OWB (Objective Well-Being) に分けることができる（前野，2013¹）。

主観的幸福感は、各人の主観的な申告に基づき測定した幸福感のことで、主にアンケートによって調査される。主観的幸福感は主観的な申告に依存するため、回答者の気分や置かれた環境の影響を受けてしまうのではないかと懸念から、学問の対象にはならないと長らく考えられてきた。ところが1980年代に入ると、様々な調査尺度による再テストのデータから、主観的幸福感調査にかなりの安定性があることが確認されるようになり（佐伯ら，2014²¹；Watson D. ら，1998²⁷；佐藤ら，2001²³），研究対象として認識されるようになった。1990年代から社会・心理学分野で用いられるようになったQOL (Quality of Life) も主観的幸福感と類似の概念である。主観的幸福感は更に、認知的幸福感 (Cognitive SWB) もしくは生活満足度 (Life Satisfaction) と、感情的幸福感 (Affective SWB) に分けることができる。認知的幸福感もしくは生活満足度は、人生全体を振り返ったときの幸福感など、長期のタイムスパンでの幸福感である。用いられる調査尺度としては、『SWLS (Satisfaction with Life Scale)』²³や『WHO-QOL』²⁸が挙げられ、『SWLS (Satisfaction with Life Scale)』では、表1に示した5つの文にどれほど当てはまるかを回答する。感情的幸福感は、その瞬間に感じている感情など、短期のタイムスパンでの幸福感である。主に用いられる調査尺度『PANAS (Positive and Negative Affect Schedule)』²⁴では、表2に示したポジティブ感情とネガティブ感情のそれぞれ8項目について、どれほど当てはまるかを回答する。

客観的幸福感は、幸福感に関係がありそうな客観的指標項目（回答者の属性、経済状態、健康状態、活動傾向など）から間接的に推定した幸福感のことである。指標項目を測定し幸福感を推定するため、回答者の気分や置かれた環境に影響されることは無いものの、幸福感を直接測っているわけではないため、どれほど正確に幸福感を把握できるかという問題がある。そのため、指標項目を測定する前にそれらの項目が主観的幸福感とどれほど関係しているかを確認し、妥当性を担保することが望ましい。客観的幸福感を推定する上で望ましい流れは図3の通りである。まず、指標項目と主観的幸福感との相関を確認する。そして、相関があると認められた項目を測定することによって、幸福感を推定する。客観的幸福感の調査指標は、国連開発計画 (UNDP) による『人間開発指数 HDI (Human Development Index)』⁷、経済協力開発機構 (OECD) による『より良い暮らし指標 BLI (Better Life Index)』²⁵など、様々な団体によって開発されている。

²⁶ 喜多島知穂ら，主観的ウェルビーイングの分析と構造化，日本感性工学会論文誌，第20巻，第2号，pp. 129-139, 2021.

²⁷ Watson D. ら，Development and validation of brief measure of positive and negative affect: The PANAS scales, Journal of Personality and Social Psychology, 第54巻，pp. 1063-1070, 1988.

²⁸ WHO, WHOQOL, 2021, <https://www.who.int/tools/whoqol>

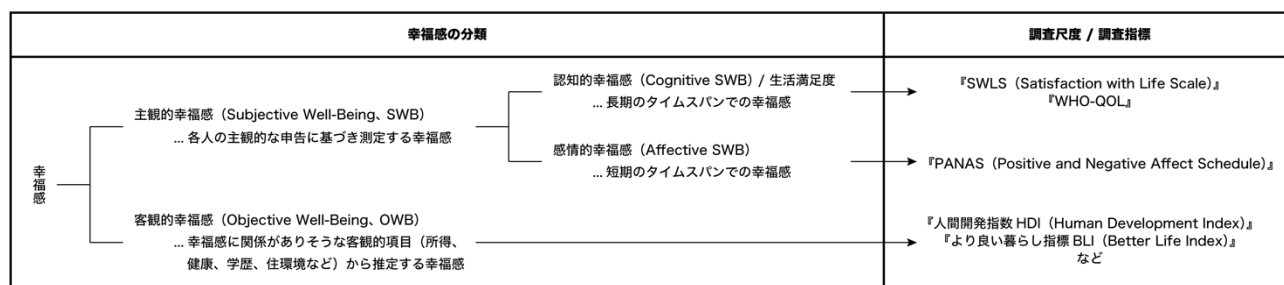


図 2：幸福感の分類とそれぞれの調査尺度 / 調査指標
前野 (2013) ¹などを参考に筆者作成

『SWLS』質問項目
ほとんどの面で、私の人生は私の理想に近い
私の人生は、とても素晴らしい状態だ
私は自分の人生に満足している
私はこれまで、自分の人生に求める大切なものを得てきた
もう一度人生をやり直せるとしても、ほとんど何も変えないだろう

表 1：『SWLS (Satisfaction with Life Scale)』²³質問項目

『PANAS』質問項目	
ポジティブ感情	ネガティブ感情
「活気のある」	「いらだった」
「わくわくした」	「苦悩した」
「気合いの入った」	「ぴりぴりした」
「きっぱりとした」	「びくびくした」
「機敏な」	「恥じた」
「誇らしい」	「うろたえた」
「強気な」	「心配した」
「熱狂した」	「おびえた」

表 2：『PANAS (Positive and Negative Affect Schedule)』²⁴質問項目

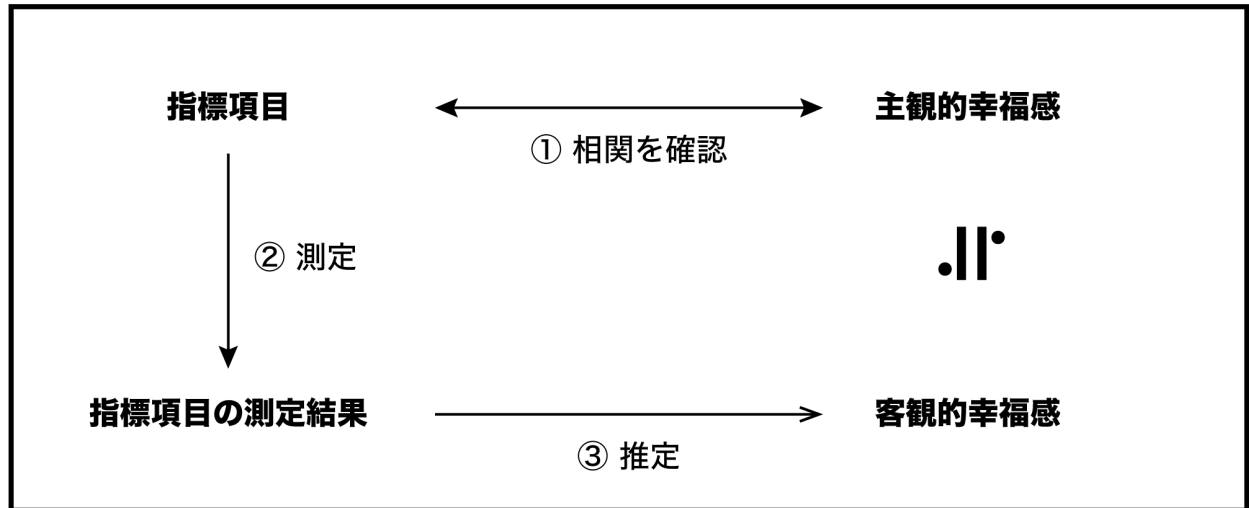


図 3：客観的幸福感の望ましい推定手順
筆者作成

2-2. 幸福感研究や幸福感調査の変遷

次に本節では、幸福感研究や幸福感調査の変遷を整理する。図4の年表では、中央部に人々の価値観および幸福感研究の変遷をまとめており、その左右には2-1の分類に基づき、客観的幸福感調査と主観的幸福感調査に関する変遷をそれぞれまとめている。また図の最右部には、Web of Scienceで幸福感を表す英語である「well-being」もしくは「happiness」がトピックに含まれている論文数の推移をグラフにしている。年表の作成にあたり前野（2013）¹、森田（2014）¹⁶、佐伯ら（2014）²¹、環境省（2012）²、佐賀市（2016）⁶、門真市（2015）²⁹を参考にした。

年表での整理により、幸福感に関する価値観や研究、調査は以下のように変遷してきたことが明らかになった。

1) 経済的な豊かさを追求（～1950年代（世界）、～1960年代（日本））

18世紀の産業革命から1950年代までの長い期間、世界各国では工業化の競争が行われ、GDPが大きい国こそが発展した良い国、すなわち先進国という価値観が当たり前になっていた。

また、日本においても、戦後から1960年代の高度経済成長期まで、「幸せ」とは経済成長で物質的に豊かになることと捉えられ、経済的・物質的な豊かさが追求されてきた（前野，2013¹）。

2) 経済的な豊かさへの疑問（1960年代～（世界）、1970年代～（日本））

しかし、経済や工業が発展するにつれ、環境汚染、資源の枯渇、貧富の格差拡大などの問題が発生するようになり、GDPのような経済指標で国民の豊かさを測ることができているのかという議論が1960年代から世界的に発生するようになる（前野，2013¹）。

日本でも内閣府が実施する『国民生活に関する世論調査』³⁰の「今後の生活において心の豊かさと物の豊かさのどちらを重視するか」という質問に対し、1970年代から、「物の豊かさ」より「心の豊かさ」を重視する、と答える人が多数派となる（環境省，2012²）。

3) 幸福感研究の確立（1970年代～）

経済的な豊かさへの疑問から、幸福感とは何か、どのように幸福感を測ることができるのか、について世界的に関心が向けられるようになる。1970年代に入ると認知心理学の分野で、感情などのソフトな概念が研究対象として受け入れられるようになり、1984年に心理学分野では既に有名であったEd Dienerが『Subjective Well-being』³¹という論文を発表したことで幸福学研究の分野が確立する。また、1980年代後半には、様々な調査尺度による再テストのデータから、主観的幸福感調査にかなりの安定性があ

²⁹ 門真市，門真市幸福度指標策定支援業務報告書，2015，https://www.city.kadoma.osaka.jp/material/files/group/3/siryo02_hokoku.pdf

³⁰ 内閣府，国民生活に関する世論調査，2021，<https://survey.gov-online.go.jp/index-ko.html>

³¹ Diener E. ら，Subjective Well-Being, Psychological Bulletin, 第95巻，第3号，pp. 542-575, 1985.

ることが確認され（佐伯ら，2014²¹；Watson D. ら，1998²⁷；佐藤ら，2001²³），後述の主観的幸福感の調査が実施されるようになる。

4) 客観的幸福感調査の実施（1970年代～）

GDPなどの経済指標で国民の豊かさを測ることができているのかという議論が発生したことにより，各国では1970年代から，経済的指標以外を用いて国民の生活を評価するようになる。例えばブータンでは，1972年に第4代ブータン国王のジグミ・シンゲ・ワンチュクが『国民総幸福量 GNH (Gross National Happiness)』³²の概念を提唱する。また，1990年に国連の補助組織である国連開発計画（UNDP）が，GDPに変わる新たな経済社会指標として所得，健康，教育の3分野を要素とする『人間開発指数 HDI (Human Development Index)』⁷を刊行した。近年でも，経済パフォーマンスと社会の進歩の測定に関する委員会（フランス）による『スティグリッツ報告書』³³や，経済協力開発機構（OECD）による『より良い暮らし指標 BLI (Better Life Index)』²⁵など，客観的幸福感調査指標が次々と開発されている。

日本においては，1974年に国民生活審議会調査部会が『社会指数 SI (Social Indicator)』³⁴を公表する。その後，福祉や生活の質の目標設定について公共的な合意が得られなかったことや成果指標の開発の困難さなどから，一時は社会指標の開発が下火になったものの，1986年に『国民生活指標 NSI (New Social Indicators)』³⁴，1992年に『新国民生活指標 PLI (Peoples Life Indicators)』³⁴，2002年に『暮らしの改革指数 LRI (Life Reform Index)』³⁴と，GDPに変わる調査指標が次々と公表された。そして2010年代には，ブータンによる『国民総幸福量 GNH (Gross National Happiness)』が国民の間で話題になったことや，内閣府が『幸福度指標試案』³⁵を公表したことから，政府だけではなく地方自治体や民間団体も独自の調査指標を開発するようになっていく。

5) 主観的幸福感調査の実施（1984年～（世界），2009年～（日本））

1970年代から客観的幸福感調査指標が次々と開発されたのに対し，主観的幸福感調査は長らく実施されずにいた。主観的幸福感は主観的な申告に依存するため，回答者の気分や置かれた環境の影響を受けるという懸念から，学問の対象にはならないと考えられてきたからだ。（前野，2013¹）しかし1984年の論文『Subjective Well-being』³¹によって幸福学研究の分野が確立し，様々な調査尺度による再テストのデータから，主観的幸福感調査にかなりの安定性があることが確認されると（佐伯ら，2014²¹；Watson D. ら，1998²⁷；佐藤ら，2001²³），主観的幸福感も研究対象として捉えられるようになった。1985年にはEd Dienerが，認知的幸福感を測る『SWLS (Satisfaction with Life Scale)』²³を開発し，1988年には南メソジスト大学の研究者たちが，感情的幸福感を測る『PANAS (Positive and Negative Affect

³² ブータン政府観光局，国民総幸福量，2021，http://www.travel-to-bhutan.jp/about_bhutan/国民総幸福量

³³ Commission on the Measurement of Economic Performance and Social Progress, Report by the Commission on the Measurement of Economic Performance and Social Progress, 2009, <https://ec.europa.eu/eurostat/documents/8131721/8131772/Stiglitz-Sen-Fitoussi-Commission-report.pdf>

³⁴ 内閣府，我が国における指標化の取組み，<https://www5.cao.go.jp/keizai2/koufukudo/shiryou/1shiryou/9.pdf>

³⁵ 内閣府，幸福度に関する研究会報告 一幸福度指標試案一，2011，https://www5.cao.go.jp/keizai2/koufukudo/pdf/koufukudosian_sono1.pdf

Schedule)』²⁴を開発している。また、1984年には社会学者の R. Veenhoven らが世界各国の主観的幸福感を蓄積するデータベース『World Database of Happiness』³⁶を公開した。

日本では内閣府が『国民生活選好度調査』³⁷に2009年から幸福感の項目を追加したのを端緒として、現在、日本各地の自治体によって住民の主観的幸福感調査が行われている。

³⁶ World Database of Happiness, What is this World Database of Happiness?, 2021, <https://worlddatabaseofhappiness.eur.nl/this-database/what-is-this-world-database-of-happiness-2/>

³⁷ 内閣府, 国民生活選好度調査, 2021, <https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/10361265/www5.cao.go.jp/seikatsu/senkoudo/senkoudo.html>

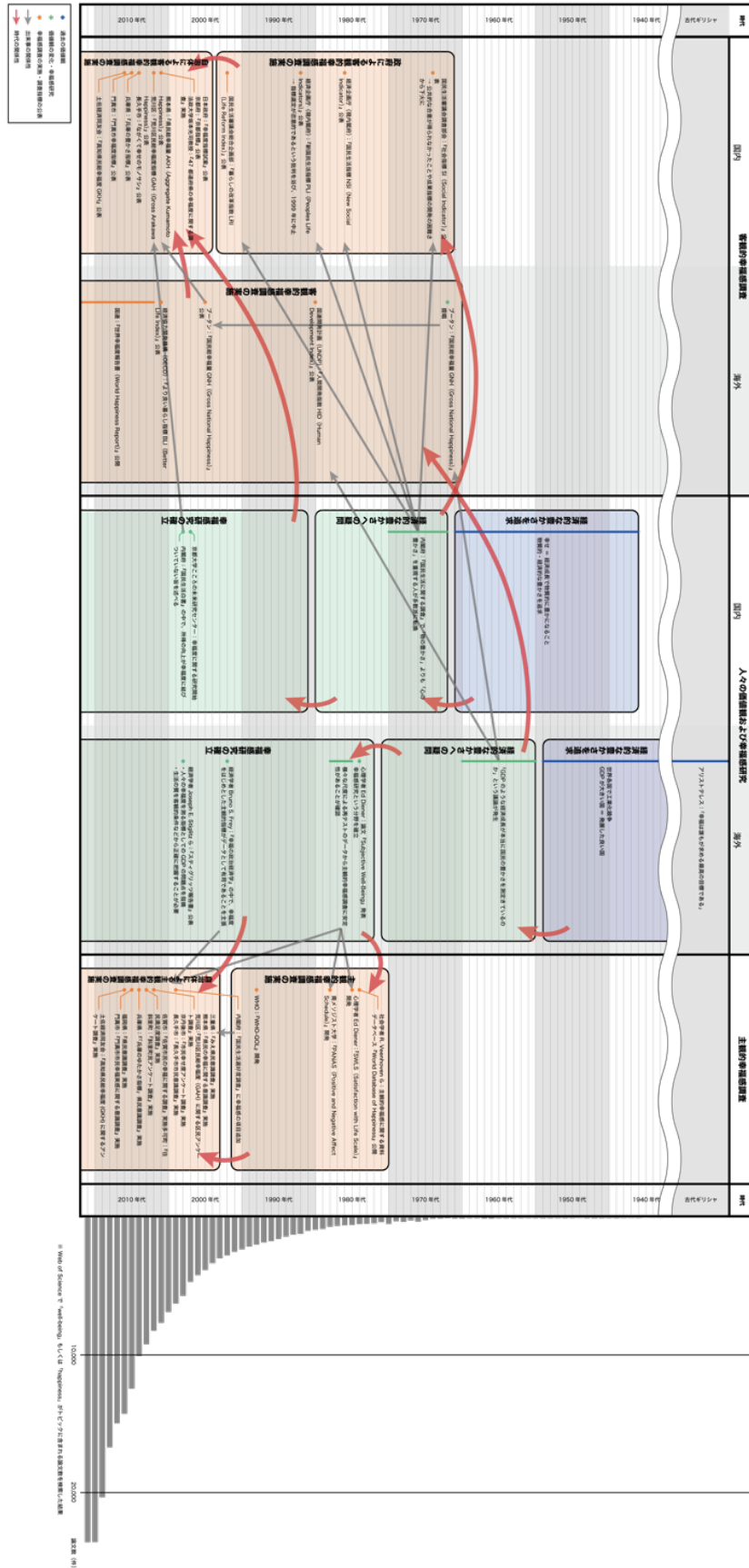


図 4： 幸福感研究や幸福感調査の年表 (左) および幸福感研究数の推移 (右)
前野 (2013) ¹, 林ら (2021) ¹⁸, 佐伯ら (2014) ²¹, 喜多島ら (2021) ²⁶ を参考に筆者作成

2-3. 幸福感研究の整理

本節では、幸福感研究を整理する。収集した論文は「幸福感」、「幸福度」、「生活満足度」、「SWB」、「主観的 Well-being」、「主観的ウェルビーイング」のいずれかがタイトルに含まれる 348 つの論文である (表 3)。収集した論文の出版年は 1993～2021 年で、表 4 のように分類した。

幸福感の歴史に関する研究として主要なものは、石井 (1997)³⁸、佐伯ら (2014)²¹、喜多島ら (2021)²⁶ などで、幸福感研究や調査尺度開発の変遷などをまとめている。

幸福感の規定要因に関する研究とは、回答者の属性、経済状態、健康状態、活動傾向などのうち、どのような要因が幸福感を規定するかについての研究で、表 4 の通り、数多くの研究が行われている。2-1 で述べたように、客観的幸福感調査の指標項目には幸福感を規定する要因として認められているものを用いることが望ましく、幸福感を規定する要因は幸福感に基づく都市評価方法について論じる上で大変重要である。そこで、これらの研究によって明らかになっている要因については 2-4 で詳しく整理する。

幸福感に影響される要素に関する研究とは、幸福感がその他の要素にどのような影響を与えるかに関する研究で、福田ら (2002)³⁹は、主観的幸福感が高い人ほど、抑うつ状態になりにくいことを明らかにしている。また、堀内ら (2013)⁴⁰も、主観的幸福感の高い人ほど、メンタルストレステスト後のネガティブな気分が低いことを明らかにしており、幸福感が精神的なマイナス面を抑制することが分かる。

幸福感の測定方法に関する研究としては、『日本版主観的幸福感尺度 SHS (Subjective Happiness Scale)』の信頼性と妥当性を検証した島井ら (2004)⁴¹や『日本版 HEMA (the Hedonic and Eudaimonic Motives for Activities) 尺度』の妥当性を検証した浅野ら (2015)⁴²などの既存の尺度の妥当性を検証する研究と、育児幸福感の測定尺度を開発した金田ら (2015)⁴³や新たな主観的ウェルビーイングの測定尺度を開発した水師ら (2021)⁴⁴などの新しい尺度を開発する研究が存在する。

³⁸ 石井留美, 主観的幸福感研究の動向, コミュニティ心理学研究, 第 1 巻, 第 1 号, pp. 94-107, 1997.

³⁹ 福田寿生ら, 地方都市における 65 歳以上住民の主観的幸福感と抑うつ状態について, 日本公衆衛生雑誌, 第 49 巻, 第 2 号, pp. 97-105, 2002.

⁴⁰ 堀内聡ら, 主観的幸福感の高さとメンタルストレステストによるネガティブな気分の変化との関連性, 日本心理学第 77 回大会, 2013.

⁴¹ 島井哲志ら, 日本版主観的幸福感尺度 (Subjective Happiness Scale : SHS) の信頼性と妥当性の検討, 日本公衆衛生雑誌, 第 51 巻, 第 10 号, pp. 845-853, 2004.

⁴² 浅野良輔ら, 幸福感に関する尺度の作成 (4), 日本心理学第 79 回大会, 2015.

⁴³ 金田亜里沙ら, 母親の楽観主義が育児幸福感に及ぼす影響, 健康心理学研究, 第 28 巻, 第 2 号, pp. 47-54, 2015.

⁴⁴ 水師裕ら, 消費における主観的ウェルビーイング 4 類型尺度 (SWB-QSIC) の開発, マーケティングレビュー, 第 2 巻, 第 1 号, pp. 38-46, 2021.

幸福感研究の分類	論文件数
幸福感の歴史に関する研究	7
幸福感の規定要因に関する研究	282
幸福感に影響される要素に関する研究	26
幸福感の測定方法に関する研究	24
その他の研究	21

表 4：幸福感研究の分類と各分類の論文件数（一部重複あり）

2-4. 幸福感の規定要因の整理

本節では、2-3 で分類した幸福感研究のうち、幸福感の規定要因に関する研究にて明らかになっている、幸福感を規定する要因について詳しく整理する。2-1 で述べたように、客観的幸福感調査の指標項目には幸福感を規定する要因として認められているものを用いることが望ましく、幸福感の規定要因を整理しておくことは、第3章以降で幸福感に基づく都市評価方法について論じる上で大変重要になる。

幸福感の規定要因に関する 282 の研究において、幸福感を規定すると述べられている要因を整理すると表5の通りである。幸福感を規定するとして挙げられている要因は非常に多く存在するが、本研究では、以下の6カテゴリーに分類した。

- ・デモグラフィックデータ：年齢、性別、国籍、経済状態、学歴など。
- ・サイコグラフィックデータ：性格、生き方、宗教観、能力など。
- ・健康状態：身体的健康、精神的傾向など。
- ・活動傾向：睡眠、食事、身の回りの用事、受信・療養・リハビリ、交際・付き合い・コミュニケーション、移動、仕事、子育て、家事、買い物、余暇活動、旅行・行楽、学習・自己啓発・訓練、ボランティア活動・社会参加活動などのそれぞれの活動の傾向。
- ・周囲の環境：地域環境、交通環境、建物環境など。
- ・他人との関係：夫婦関係、子どもとの関係、その他家族・親戚との関係、友人との関係、恋人との関係、仕事仲間との関係、地域の人との関係など。

客観的幸福感調査の指標項目には、以上のような幸福感との相関が認められている要因を用いることが望ましい。

第2章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

カテゴリー		幸福感を規定する要因
デモグラフィックデータ	年齢	年齢、生まれた年、学校の学年
	性別	性別
	国籍	国籍
	経済状態	経済状態、暮らし向き、経済水準、金融資産（－）、自己資産評価、必要な物が買える経済があること、経済的安心、経済的な自立困難の問題、収入、相対所得、世帯所得、相対世帯所得、夫婦の収入、個人年収、こづかい満足、所得・資産・階層の相対的な変化や格差、過去の暮らし向き
	学歴	教育歴、学歴（高校卒、高等教育修了）
その他のデモグラフィックデータ		美の変化、個人所有林
サイコグラフィックデータ	性格（個人）	自尊心、自己意識、自己複雑性、独立的自己観、自己受容、協調的自己観、一般的セルフ・エフィカシー（自己効力感）、ポジティブ思考、ポジティブな心理的傾向、ポジティブな個人内特性、ネガティブ気分、ネガティブ感情（－）、楽観性、創造性、ユーモアスタイル、抑うつ性、精神的回復力、情動価、ヒステリー性、心気性、過剰適応、HSP（High Sensitive Person）（－）、不決断傾向（－）、個人志向性、健康志向、余暇志向、自宅内外の嗜好、知覚の鮮明さ、言語の詳細さ、あるがままの状態を受け入れること、Sense of Coherence（首尾一貫感覚）、日常における匂いへの主観的な気づきの程度が高い、仕事する能力に満足する、自分の容姿に満足する
	性格（人との関わり）	外向性、社交性、自己開示量、自己開示欲求、賞賛欲求（－）、友人関係の成功・失敗場面を内的要因に帰属させること、外的要因への悲観、IWM（幼少期における養育者との愛着関係により形成される自己および他者についての認知的枠組み）
	生き方	生きがい、生きる目標、「多彩型」という生き方、より良い状態を求めて努力するという自己へ向かう生き方、加齢に伴う活動能力の変化という状況になりながらも精神的に行動し多様な生き方、前向きな気持ちで生きること、過去の人生に意味を見いだしているか、マインドフルネス（『今、この瞬間』を大切にする生き方）、個性的で主体的な生き方
	宗教観	信仰の必要性を感じていること、キリスト教的宗教意識、人格的な神概念
	能力	金融知識、PC操作スキル、PCに関連する知識、運動有能感、社会的スキル、学習スキル、ソーシャルスキル、配慮のスキル、かわわりのスキル
その他の性格傾向		コントロール感、生活全般におけるコントロール感
健康状態	身体的健康	機能的健康度、身体状況、身体機能、運動機能、生活体力、日常生活活動能力、ADL（日常生活動作）の自立状況、6カ月以上続く慢性痛、口腔機能、性的障害（－）、口腔機能である嚥下機能低下や口渇がある（－）、骨・筋系疾患・感覚器系疾患の有無、骨粗鬆症、閉塞性クローン症（－）、月経前症状、就寝前の症状（喘息）（－）、睡眠時の症状（喘息）（－）、不安（喘息）（－）、気になる病気がない、体の痛みがない、腎・泌尿器系疾患がない
	精神的健康 その他の健康	精神的な健康状態、閉症傾向（－）、神経症的傾向（－）、精神症状の少なさ 健康状態、健康観、主観的健康度、健康関連QOL、健康に関する満足度
活動傾向	睡眠	睡眠、睡眠習慣、睡眠効率、入眠時間、主観的睡眠感
	食事	食事回数、飲酒、嗜好品摂取、朝食摂取頻度、朝食回数、夫婦での食事、食事に気をつける行動、チャレンジ精神（食）、積極的な自己管理（食）、副業、食物選択動機、食生活満足度
	身の回りの用事	銭湯利用頻度、メイク行動
	受診・療養・リハビリ	通院の満足度、通所サービスの利用、通院支援充足度
	休養・くつろぎ	やすらぎ、自然とのふれあい
	交際・付き合い・コミュニケーション	交流、外出交流形活動の実施種目数、自主加入型集団への参加・活動、家族や仲間との会話、夫婦の会話時間の長さ、友人との私的な交流、Facebookの利用、ケータイやメールの利用（－）
	移動	モビリティ、路線バス利用、主観的アクセシビリティと頻度、移動に関する満足度、移動の幸福感、移動中の活動
	仕事	仕事の内容、就労状態、時間外労働時間、職位、昇格等、雇用の安定性、会社倒産・合併・再編（－）、転職（－）、退職、解雇（－）、仕事の自律感、上司への相談、職務満足、仕事に対するやりがい、アルバイトに対する意識、スキルアップの機会がないこと（－）、作業参加、農業を営むこと、農業、林業への従事、畑仕事をする、実習生への指導
	子育て	子育ての係わり方やその役割、地域子育て支援拠点事業利用、子供との交流、育児肯定感、育児不安（－）
	家事	家事行動、家事行動量、家事に対するポジティブな動機づけ
	買い物	買い物の満足度
	余暇活動	趣味、余暇、余暇の過ごし方、余暇活動の頻度、余暇活動の満足度、運動習慣、ゴルフ、クラブ・サークル等の課外活動への参加、レジスタントトレーニング、低強度で簡易的な手法での筋力向上トレーニング、認知行動的プログラム、改定版認知的アプローチによるライティング法、「お茶飲み」の参加、余暇満足度、スポーツに対する意欲の向上を促進する介入、趣味に対する意欲の向上を促進する介入
	旅行・行楽	国内旅行、夫婦での旅行、帰省
	学習・自己啓発・訓練 ボランティア活動・社会参加活動	自律的な動機づけ（学習）、教育・能力開発のあり方、研修参加 社会参加・奉仕活動、利他行動の頻度、地域活動、ボランティアでの森林管理、グループやボランティアなどの社会参加、社会参加、インフォーマルな社会活動、身近な社会参加
	その他の活動傾向	個人活動、諸活動の参加状況、生活領域のタイプ、消費の領域、APDL、社会的場面での活動量、世代性行動、夫婦の共同行動、利用サービスの量的側面についての満足度の低さ、ブルースト現象（においてによって自伝的記憶想起）、ストレスコーピングの頻度の低さ、ストレスマネジメント行動、環境配慮行動、ハッピーワークショップ（グループ学習プログラム）、ポジティブ・イベント、「暮らしぶりの善さ」に影響する制約状況を示す活動の達成状況、（脳卒中から）回復を果たした時の喜び、自己にて意思決定できること、生活の中で自分の意思で決定していると多く感じる、制限のなかで生きること
周囲の環境	地域環境	都市居住、居住地域、地域が持つ資源の評価、公共施設整備の評価、地域に対するポジティブな認知、生活環境が健康的であること、医療の受けやすさ、河川や湖といった開放水域と緑地、地域の貧困（－）、所得再分配政策、生活保障、現世代の負担が将来世代の負担よりも相対的に高い都道府県の住民（－）、住民一人当たり負債額が大きい持続可能性が低い都道府県の住民（－）、PM10濃度（－）、被災で亡くなった方が多い自治体の住民（－）、一人当たりSO2排出量（－）、光化学オキシダント排出量（－）、食物へのアクセス、地域満足度、主体的外出場所があること
	交通環境 建物環境	交通の便、道路/車両の混雑度、交通の不便さ（－）、公共交通や自動車による医療機関へのアクセシビリティ 騒音、日照、住居、住みやすさ、住宅状況、住宅不満（－）、居住環境、施設内での公平不満の有無、建物満足度、学級規模
他人との関係	夫婦関係	結婚、婚姻状態、配偶者（－）、夫婦別居、夫婦喧嘩（－）、離婚（－）、配偶者の死（－）、配偶者の離別、夫婦喧嘩の変化（－）、夫婦関係、夫婦の親密性、夫婦の共有された関係効力性、夫婦の共行動、結婚生活のあり方、夫と妻の関係が良好であること、夫婦関係満足度が高いこと、夫婦間の解決において夫婦関係外アプローチに積極的であること、夫との一緻度、夫への感謝の念、夫の仕事へのコミットメント、夫が様々な家事を多く行うこと、夫の仕事へのめり込みの増大（－）、妻の仕事満足度の低さ（－）、妻から仕事役割を期待されていること、配偶者アイデンティティ
	子供との関係	妊娠（－）、子供の有無、既婚子との同居、家族の子育ての理解協力、子供との関係性、子どもの成長、子どもとの自立、子どもからの感謝や癒し、子供の非行（－）、夫婦で子育てについて相互理解が図れており遊びを通した関与が多いこと
	その他家族・親戚との関係	家族、家族形態、家族機能、同居家族関係、家族関係良好、家族に対する満足、家族の重要性、家庭生活に対する自律感、家族に関する気配りをよく行うこと、家族サポート、同居家族への提供サポート、同居家族との人間関係のあつつき、周囲の家族との質的コミュニケーションの認知、世代同居、親族とのトラブル（－）、家族の中での精神的役割を担うこと、家族介護者がいる、利用者・家族からの感謝・信頼
	友人との関係	友人関係、交友関係の充実度、友人サポート、友人からの勧誘（－）、サークルや部活動への所属、近所や友人との付き合い、ミュージカル等の観劇における同伴者の有無、コンサート鑑賞活動の同伴者の有無、友人・知人が多い、友人関係満足度
	恋人との関係	交際相手の有無
	仕事仲間との関係	職場の人間関係、コミュニケーション、同僚の笑顔
	地域の人との関係	地域社会との関係、地域とのつながり、近隣関係、近所づきあいが多く、隣近所との交流、近隣者のサポートへの満足度、近くに頼れる存在、住民主体での生活交通運営に対する支援意識
	その他の社会関係	社会的統合、他者との関係性、認知的SC、主観的ソーシャルキャピタル、情緒的サポート、ソーシャルサポート感、サポート授受を双方に多く行っている、コミュニティでの相互援助（－）、病気になったとき看病・介護をしてくれる人がある、人との交流のしやすさ、孤独感・孤立感といった人とのつながり、共同体感覚、共同体に対する疎外意識、次世代育成のための関わり、役所依存、自分の役割がある、離職などによる社会的役割の喪失、高齢者の経験とプライドをばねに価値観を転換させて役割を再構築しようとする思い、他者評価、職員の笑顔を感じる、ポジティブな共感、「支える側の意識」、ネットワークの人数、対人関係、一人暮らし、集団獲得、アイデンティティの確立、一般的信頼、利用者の笑顔、チームワーク、注目のされやすさ、注目の拒否のなさ、あいさつの人数

表 5：幸福感を規定する要因一覧
既往研究を参考に筆者作成

2-5. 幸福感調査の整理

本節では、国内外で実施されてきた幸福感調査について整理した上で、国内の自治体により実施されてきた幸福感調査の特徴を分析する。

表6は海外の主要な幸福感調査および国内の幸福感調査の公表年と調査項目の構成を整理したものである。対象とした幸福感調査は、内閣府（2011）³⁵、森田（2014）¹⁶、住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合⁴⁵の資料に掲載されていた20事例で、各調査の内容についてはそれぞれの団体のホームページなどから情報を収集した（内閣府，2021⁷；ブータン政府観光局，2021³²；OECD，2021²⁵；Office for National Statistics，2019⁴⁶；三重県，2021⁴⁷；京都府，2021⁴⁸；熊本県，2021¹⁴；荒川区，2020¹⁴；兵庫県，2021⁴⁹；佐賀市，2016⁶；斜里町，2018⁵⁰；京丹後市，2016⁵¹；長久手市，2016⁵²；福岡県，2020⁵³；門真市，2015²⁹；安城市，2019⁵⁴；土佐経済同友会，2021⁵⁵）。また、各調査項目の定義は以下の通りである。

- ・主観的幸福感項目：『SWLS (Satisfaction with Life Scale)』²³や「現在、あなたはどの程度幸せですか。」といった質問など、回答者の主観的幸福感を調査する項目。
- ・主観的項目：幸福感を推定、スコアリングするために調査される指標項目の中で、「感じる」、「思う」、「feel」、「satisfy」などが含まれる主観的な項目。
- ・客観的項目：幸福感を推定、スコアリングするために調査される指標項目の中で、「感じる」、「思う」、「feel」、「satisfy」などが含まれない客観的な項目。

また、表7～25に各幸福感調査の内容についてまとめている。

表6より、幸福感調査は海外では1970年代から、国内では2010年代から実施されていることが分かる。また、海外の主要な幸福感調査は、調査項目が主に客観的項目で構成された客観的幸福感調査が主流であるのに対し、国内の自治体による調査は調査項目が主に主観的項目で構成されていることがわかる。国内の自治体による幸福感調査のこの特徴は、幸福感を意味する英語「Well-being」が「幸福感」と和訳されたことも一因かもしれない。すなわち、英語の「Well-being」と比較して、日本語の「幸福感」は主観的なニュアンスを含んでおり、幸福感調査を主観的項目によって構成する必要性を感じてしまう可能性があるためだ。

⁴⁵ 幸せリーグ，ホーム，2021，<https://rilac.or.jp/shiawase/>

⁴⁶ Office for National Statistics, Measures of National Well-being Dashboard, 2019, <https://www.ons.gov.uk/peoplepopulationandcommunity/wellbeing/articles/measuresofnationalwellbeingdashboard/2018-04-25>

⁴⁷ 三重県，県民意識調査，2021，<https://www.pref.mie.lg.jp/common/07/ci500003045.htm>

⁴⁸ 京都府，京都府統計ナビ・京都府民の意識調査，2021，<https://www.pref.kyoto.jp/t-ptl/tname/s089.html>

⁴⁹ 兵庫県，兵庫のゆたかさ指標，2021，https://web.pref.hyogo.lg.jp/pref/cate3_638.html

⁵⁰ 斜里町，平成30年度斜里町民アンケート調査 調査結果報告書，2018，<https://www.town.shari.hokkaido.jp/material/files/group/3/H30-koufukudo-zenbun.pdf>

⁵¹ 京丹後市，京丹後市 市民幸せ度アンケート調査 集計結果，2016，<https://www.city.kyotango.lg.jp/material/files/group/4/koufukuanke-tokekka.pdf>

⁵² 長久手市，平成28年度ながくて幸せ実感調査アンケート報告書，2016，<https://www.city.nagakute.lg.jp/material/files/group/2/anketokekkazennpen.pdf>

⁵³ 福岡県，令和2年度県民意識調査 報告書，2020，https://www.pref.fukuoka.lg.jp/uploaded/life/548309_60470093_misc.pdf

⁵⁴ 安城市，安城市市民アンケート調査報告書，2019，<https://www.city.anjo.aichi.jp/shisei/joreikeikaku/sogokeikaku/documents/01sougoukeikakuannkeito.pdf>

⁵⁵ 土佐経済同友会，2020年度高知県民総幸福度（GKH）に関するアンケート調査結果概要，2021，<https://tosadyukai.com/2020年度高知県民総幸福度（gkh）に関するアンケート/>

第2章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

	調査実施団体	幸福感調査	公表年	調査項目の構成		
				主観的幸福感 項目の割合	主観的項目 の割合	客観的項目 の割合
海外の 主要 調査	オランダ社会研究機構（SCP）	生活状況指標LSI (Life Situation Index)	1974	0.0%	15.4%	84.6%
	国連開発計画（UNDP）	人間開発指数HDI (Human Development Index)	1990	0.0%	0.0%	100.0%
	国立ブータン研究センター	国民総幸福量GNH (Gross National Happiness)	2005	9.1%	36.4%	54.5%
	経済協力開発機構（OECD）	より良い暮らし指標BLI (Better Life Index)	2011	10.5%	5.3%	84.2%
	英国国家統計局	国民幸福度計測 (Measures of National Well-being)	2012	5.1%	33.3%	61.5%
	国家経済開発委員会（タイ）	グリーン・幸福度指標	不明	不明		
国内の 調査	三重県	みえ県民意識調査 (幸福実感指標)	2012	8.1%	75.7%	16.2%
	京都府	京都府民の意識調査 (京都指標)	2012	0.0%	24.2%	75.8%
	熊本県	県民の幸福に関する意識調査 (県民総幸福量AKH)	2012	7.1%	92.9%	0.0%
	〇〇町	〇〇調査（匿名での公表希望）	2012	6.0%	78.0%	16.0%
	荒川区	荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民アンケート調査 (荒川区民総幸福度GAH)	2013	7.1%	92.9%	0.0%
	兵庫県	兵庫のゆたかさ指標	2013	0.0%	78.3%	21.8%
	佐賀市	佐賀市民の幸福に関する調査	2013	26.3%	52.6%	21.1%
	斜里町	斜里町民アンケート調査	2013	3.1%	94.8%	2.1%
	京丹後市	市民幸せ度アンケート調査	2013	6.3%	92.1%	1.6%
	長久手市	ながくて幸せ実感アンケート (ながくて幸せのモノサシ)	2013	4.3%	73.9%	21.7%
	福岡県	福岡県民意識調査	2015	15.2%	75.8%	9.1%
	門真市	門真市市民幸福実感に関する意識調査 (門真市幸福度指標)	2015	1.6%	45.7%	52.7%
	安城市	市民アンケート調査	2015	0.0%	74.4%	25.6%
	土佐経済同友会	高知県民総幸福度（GKH）に関するアンケート調査 (高知県民総幸福度GKH)	2016	15.9%	84.1%	0.0%

表 6：国内外の幸福感調査

各団体のホームページ（内閣府，2021⁷；ブータン政府観光局，2021³²；OECD，2021²⁵；Office for National Statistics，2019⁴⁶；三重県，2021⁴⁷；京都府，2021⁴⁸；熊本県，2021¹⁴；荒川区，2020¹⁴；兵庫県，2021⁴⁹；佐賀市，2016⁶；斜里町，2018⁵⁰；京丹後市，2016⁵¹；長久手市，2016⁵²；福岡県，2020⁵³；門真市，2015²⁹；安城市，2019⁵⁴；土佐経済同友会，2021⁵⁵）を参考に筆者作成

調査実施団体	オランダ社会研究機構（SCP）				
独自調査指標	生活状況指標LSI（Life Situation Index）				

より良い暮らし指標BLIの項目					
カテゴリー	項目	具体的内容	主観的 幸福感項目	主観的 項目	客観的 項目
housing	owner-occupied or not	owner-occupied or not			○
	type of home	type of home			○
	physical state of building	physical state of building			○
health	number of chronic conditions	number of chronic conditions			○
	number of psychosomatic complaints	number of psychosomatic complaints		○	
	stayed at home, ill (past three months)	stayed at home, ill (past three months)			○
owns durable consumer goods	number of consumer goods	number of consumer goods			○
socio-cultural leisure-time activities	number of leisure-time activities	number of leisure-time activities			○
mobility	possession of a car	possession of a car			○
social participation	social isolation (scale)	social isolation (scale)		○	
sports	participation in sports	participation in sports			○
resources	household income	household income			○
	education level	education level			○

表 7：生活状況指標 LSI の内容
筆者作成

調査実施団体	国連開発計画（UNDP）
独自調査指標	人間開発指数HDI（Human Development Index）

より良い暮らし指標BLIの項目				
項目	具体的内容	主観的 幸福感項目	主観的 項目	客観的 項目
Life expectancy at birth	Life expectancy at birth			○
Expected years of schooling	Expected years of schooling			○
Mean years of schooling	Mean years of schooling			○
Gross national income (GNI) per capita	Gross national income (GNI) per capita			○

表 8：人間開発指数 HDI の内容
内閣府のホームページ⁷を参考に筆者作成

第2章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

調査実施団体		より良い暮らし指標BLIの項目			
独自調査指標		国民総幸福量GNH (Gross National Happiness)			
カテゴリー	項目	具体的内容	主観的 幸福感項目	主観的 項目	客観的 項目
Psychological Wellbeing	Life satisfaction	Satisfaction	○		
	Positive emotions	Positive emotions	○		
	Negative emotions	Negative emotions	○		
	Spirituality	Spirituality			○
Health	Mental health	Mental health		○	
	Self reported health status	Self-reported health status		○	
	Healthy days	Healthy days		○	
	Disability	Long-term disability			○
Education	Literacy	Literacy			○
	Schooling	Educational qualification			○
	Knowledge	Knowledge			○
	Value	Values			○
Cultural Diversity and Resilience	Speak native Language	Language		○	
	Cultural Participation	Socio-cultural participation			○
	Artistic Skills	Artisan skills		○	
	Driglam Namzha	Driglam Namzha		○	
Time Use	Work	Working hours			○
	Sleep	Sleeping hours			○
Good Governance	Gov't performance	Government performance		○	
	Fundamental rights	Political freedom		○	
	Services	Service delivery			○
	Political Participation	Political participation			○
Community Vitality	Donations (time & money)	Social support			○
	Community relationship	Community relationships		○	
	Family	Family		○	
	Safety	Victim of crime			○
Ecological Diversity and Resilience	Ecological Issues	Pollution			○
	Responsibility towards environment	Environmental responsibility		○	
	Wildlife damage (Rural)	Wildlife			○
	Urbanization issues	Urban issues		○	
Living Standards	Assets	Assets			○
	Housing	Housing quality			○
	Household per capita income	Household income			○

表 9：国民総幸福量 GNH の内容

ブータン政府観光局のホームページ³²を参考に筆者作成

第2章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

調査実施団体		経済協力開発機構（OECD）			
独自調査指標		より良い暮らし指標BLI（Better Life Index）			

より良い暮らし指標BLIの項目					
カテゴリー	項目	具体的内容	主観的 幸福感項目	主観的 項目	客観的 項目
所得と富	家計所得	1人当たり純家計可処分所得（2017年購買力平価調整後USドル）			○
	家計資産	純資産中央値（2016年購買力平価調整後USドル）			○
	S80/S20所得比率	下位20%の家計所得で割った上位20%の家計所得			○
住宅	住宅取得能力	住宅費用を差し引いた家計可処分所得の比率			○
	過密率	過密状態で生活する家計の比率			○
雇用と仕事の質	就業率	25～64歳人口における就業者の比率			○
	性別による賃金の差	男性と女性の賃金中央値の差の男性賃金との比率			○
	長時間の賃金労働	週50時間以上働く被雇用者の割合			○
健康状態	平均余命	新生児の寿命期待値			○
知識と技能	科学分野の学生の技能	PISA平均スコア			○
環境の質	屋外大気汚染への暴露	人口比率 > WHO閾値			○
主観的幸福	生活満足度	生活満足度（0～10段階での平均値）	○		
	負の感情バランス	昨日と比べて前向きな感情よりも負の感情を持つ人の比率	○		
安全	殺人件数	殺人件数（人口100,000人当たり）			○
	性別による安心感の差	夜間に1人で歩く際に女性が男性よりも不安を感じる比率		○	
仕事と生活のバランス	休暇	1日当たりの余暇や身の回りのことに使う時間			○
社会とのつながり	社会的交流	社会的交流（1週当たりの時間）			○
	社会的支援の欠乏	困ったことがあった時に頼ることができる友人や親戚がいない人の割合			○
市民参画	投票率	投票を行った登録有権者の割合			○

表 10：より良い暮らし指標 BLI の内容
経済協力開発機構（OECD）のホームページ²⁵を参考に筆者作成

第2章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

調査実施団体 英国国家統計局 独自調査指標 国民幸福度計測 (Measures of National Well-being)					
より良い暮らし指標BLIの項目					
カテゴリー	項目	具体的内容	主観的 幸福感項目	主観的 項目	客観的 項目
Personal Well-being	Life Satisfaction	Very high rating of satisfaction with their lives overall	○		
	Worthwhile	Very high rating of how worthwhile the things they do are		○	
	Happiness	Rated their happiness yesterday as very high	○		
	Anxiety	Rated how anxious they were yesterday as very low		○	
Our Relationships	Mental well-being	Average rating of mental well-being		○	
	Unhappy relationships	Those in fairly or extremely unhappy relationships		○	
	Loneliness	Feelings of loneliness often/always		○	
	People to rely on	Has a spouse or partner, family member or friend to rely on a lot if they have a serious problem			○
Health	Healthy life expectancy	Healthy life expectancy at birth			○
	Disability	Reported harmonised standard definition of disability			○
	Health satisfaction	Mostly or completely satisfied with their health		○	
	Depression or Anxiety	Some evidence indicating depression or anxiety			○
What we do	Unemployment rate	unemployment rate (aged 16 and over, seasonally adjusted)			○
	Job satisfaction	Satisfaction with their job		○	
	Satisfaction with leisure time	Satisfaction with their amount of leisure time		○	
	Volunteering	Volunteered more than once in the last 12 months			○
Where we live	Crime	Crimes against the person (per 1,000 adults)			○
	Feeling safe	Felt safe/very safe walking alone after dark		○	
	Accessed natural environment	Accessed the natural environment at least once a week in the last 12 months			○
	Belonging to neighbourhood	Agreed/agreed strongly they felt they belonged to their neighbourhood		○	
	Access to key services	Average minimum travel time to reach nearest services			○
Personal Finance	Satisfaction with accommodation	Fairly/very satisfied with their accommodation		○	
	Low income households	Individuals in households with less than 60% of median income before housing costs			○
	Household wealth	Median wealth per household, including pension wealth			○
	Household income	Real median household income			○
	Satisfied with household income	Mostly or completely satisfied with the income of their household		○	
Economy	Difficulty managing financially	Report finding it quite or very difficult to get by financially			○
	Disposable income	UK Real net national disposable income per capita CVM SA			○
	Public sector debt	PS: Net Debt (excluding public sector banks) as a % of GDP: NSA			○
	Inflation	CPIH ANNUAL RATE 00: ALL ITEMS 2015=100			○
Education and Skills	Human capital	Human capital - the value of individuals' skills, knowledge and competencies in labour market			○
	NEETs	Those Not in Education, Employment or Training (NEET)			○
	No qualifications	UK residents aged 16 to 64 with no qualifications			○
Governance	Voter turnout	Voter turnout in UK General Elections			○
	Trust in government	Those who have trust in national government		○	
Environment	Greenhouse gas emissions	Total greenhouse gas emissions			○
	Protected areas	Protected areas in the UK			○
	Renewable energy	Energy consumed within the UK from renewable sources			○
	Household recycling	Waste from households that is recycled			○

表 11 : 国民幸福度計測の内容

Office for National Statistics のホームページ⁴⁶を参考に筆者作成

第2章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

調査の概要	
調査実施団体	三重県
調査名	みえ県民意識調査
独自調査指標	幸福実感指標
調査項目の作成方法	国民生活適度調査などの調査も参考に、大学の先生などの有識者の意見も取り入れて作成。

幸福感の項目		
カテゴリー	項目	質問内容
幸福感	幸福感	現在、あなたはどの程度幸せですか。
	幸福感を判断する事項	幸福感を判断する際に、重視した事項は何ですか。
	幸福感を判断する事項	あなたの幸福感を高めるために有効な手立ては何ですか。

幸福実感指標の項目				
カテゴリー	項目	具体的内容	主観的項目	客観的項目
地域や社会の状況について	災害への備え	災害の危機への備えが進んでいると感じる県民の割合	○	
	医療サービス	必要な医療サービスを利用できていると感じる県民の割合	○	
	福祉サービス	必要な福祉サービスを利用できていると感じる県民の割合	○	
	犯罪・事故	犯罪や事故が少なく、安全に暮らせていると感じる県民の割合	○	
	自然・環境	身近な自然や環境が守られていると感じる県民の割合	○	
	誰もが参画できる社会	性別や年齢、障がいの有無、国籍などにとらわれず、誰もが社会に参画できていると感じる県民の割合	○	
	教育	子どものためになる教育が行われていると感じる県民の割合	○	
	結婚・妊娠・子育て	結婚・妊娠・子育てなどの希望がかなっていると感じる県民の割合	○	
	スポーツ	スポーツをしたり、みたり、支えたりする環境や機会が整っていると感じる県民の割合	○	
	地域への愛着	自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたいと感じる県民の割合	○	
	三重県産農林水産物	三重県産の農林水産物を買いたいと感じる県民の割合	○	
	産業活動	県内の産業活動が活発であると感じる県民の割合	○	
	魅力の発信	国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいると感じる県民の割合	○	
	仕事	働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ていると感じる県民の割合	○	
	道路・公共交通機関	道路や公共交通機関等が整っていると感じる県民の割合	○	

その他のアンケート項目				
カテゴリー	項目	質問内容	主観的項目	客観的項目
行動計画の指標について	人権が尊重される社会づくり	あなたは、県民一人ひとりの人権が尊重されている社会になっていると感じますか。	○	
	多文化共生社会づくり	あなたは、外国人住民が地域社会の一員として共に暮らせる社会になっていると感じますか。	○	
	希望がかなう少子化対策	あなたは、地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると感じますか。	○	
	地域スポーツと障がい者スポーツの推進	あなたは、1週間にどのくらい運動やスポーツを実施していますか。		○
	県民の社会参画の促進	あなたは、NPO活動・ボランティア活動・市民活動などの地域をより良くするための活動に参加されていますか。		○
	あらゆる分野における女性活躍とダイバーシティの推進	あなたは、「男は仕事、女は家庭」のように性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。	○	
	広聴広報の充実	あなたは、県の広報活動により、県の情報が伝わっていると感じますか。	○	
ご家族に関することなどについて	結婚	あなたはこれまでに結婚をしたことはありますか。		○
	結婚に対する考え	今後の人生を通して考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、どうですか。	○	
	子どもの数	あなたは子どもを何人くらいほしいですか。あるいは、ほしかったですか。	○	
	子どもの有無	お子さんはいらっしゃいますか。		○
新型コロナウイルス感染症について	子どもの数の少なさ	これまでの県の調査では、実際の子ども数の数は理想の子ども数の数より少ないという結果がでています。この理由は何だと思えますか。	○	
	健康づくり	あなたは、健康づくりに取り組んでいますか。		○
	健康に対する意識の変化	新型コロナウイルス感染症の影響により、健康に対する意識の変化はありましたか。	○	
	行動の変化	新型コロナウイルス感染症の影響により、あなたの行動にどのような変化がありましたか。		○
脱炭素など地球温暖化対策に関することについて	新型コロナウイルス感染症に際する不安	新型コロナウイルス感染症の感染拡大に際してどのようなことを不安に思いましたか。	○	
	地球温暖化問題	あなたは地球温暖化問題に関心がありますか。	○	
	地球温暖化対策のために必要な取組	あなたは、地球温暖化対策のためには、どのような取組が必要だと思いますか。	○	
	地球温暖化対策のために意識している取組	あなたは、地球温暖化対策のために、自分自身が意識して取り組んでいることは何ですか。	○	

表 12：三重県民意識調査の内容

三重県のホームページ⁴⁷を参考に筆者作成

第2章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

調査の概要				
調査実施団体	京都府			
調査名	京都府民の意識調査			
独自調査指標	京都指標（Kyoto Index）			
調査項目の作成方法	不明。			

京都指標の項目					
カテゴリー		項目	具体的内容	主観的項目	客観的項目
統計データ	府民安心の再構築	出生	合計特殊出生率		○
		児童虐待	児童虐待相談対応件数（人口10万人当たり）		○
		いじめ	いじめの認知件数（児童・生徒1,000人当たり）		○
		暴力行為	暴力行為の発生件数（小・中・高等学校）（児童・生徒1,000人当たり）		○
		刑法犯少年	刑法犯少年検挙人員（少年人口1,000人当たり）		○
		不登校	不登校児童・生徒数（小・中学校）（児童・生徒1,000人当たり）		○
		進学	大学・短期大学等への進学率		○
		学力・学習状況	全国学力・学習状況調査平均正答率（各科目平均値）（公立小学校）		○
		学力・学習状況	全国学力・学習状況調査平均正答率（各科目平均値）（公立中学校）		○
		勉強時間	学校の授業時間以外の勉強時間が1日当たり30分に満たない小学生（公立）の割合		○
		勉強時間	学校の授業時間以外の勉強時間が1日当たり30分に満たない中学生（公立）の割合		○
		体力・運動能力	全国体力・運動能力、運動習慣等調査体力合計点（小学生男子）		○
		体力・運動能力	全国体力・運動能力、運動習慣等調査体力合計点（小学生女子）		○
		体力・運動能力	全国体力・運動能力、運動習慣等調査体力合計点（中学生男子）		○
		体力・運動能力	全国体力・運動能力、運動習慣等調査体力合計点（中学生女子）		○
		高等学校中退	高等学校を中退した生徒の割合		○
		失業	完全失業率		○
		求人・倍率	有効求人倍率		○
		障害者雇用	障害者雇用率		○
		医療費	一人当たり医療費		○
		福祉士	社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士の登録者数（人口10万人当たり）		○
		救急搬送	平均救急搬送時間		○
		国民健康保険料収納	国民健康保険料収納率		○
		生活保護	生活保護人数（人口1,000人当たり）		○
		要介護等認定者	第1号被保険者（65歳以上）の要介護等認定者割合		○
		65歳以上の雇用	希望者全員が65歳以上まで働ける企業割合		○
		自主防災組織	自主防災組織の活動カバー率		○
		火災	火災出火件数（人口10万人当たり）		○
		交通事故	交通事故死傷者数（人口10万人当たり）		○
		自殺	自殺死亡率（人口10万人当たり）		○
地域共生の実現		人権侵犯	人権侵犯事件数（人口10万人当たり）		○
		NPO法人	認証NPO法人数（人口10万人当たり）		○
		NPO法人	認定NPO法人数		○
		ドメスティック・バイオレンス	ドメスティック・バイオレンス相談件数（人口10万人当たり）		○
		所定外労働	年平均所定外労働時間（事業所規模5人以上）		○
		転入	住民基本台帳人口移動報告転入超過数		○
京都力の発信		学生	大学・短期大学の学生数（人口10万人当たり）		○
		留学生	留学生数（人口10万人当たり）		○
		エネルギー消費	府民総生産当たりエネルギー消費量（最終エネルギー消費量／実質府民総生産）		○
		世界遺産	世界遺産登録件数		○
		国民体育大会	国民体育大会の成績		○
		特許	特許出願件数（人口10万人当たり）		○
		外国人宿泊者	外国人延べ宿泊者数（人口1,000人当たり）		○
		農業産出	農業産出額維持率（対前年比）		○
		道路改良	道路改良率		○
		出国	出国率（出国者数／総人口）		○
		国際会議	国際会議の参加者数（人口10万人当たり）		○

表 13-1：京都府民の意識調査の内容

京都府のホームページ⁴⁸を参考に筆者作成

第2章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

京都指標の項目				
カテゴリー	項目	具体的内容	主観的項目	客観的項目
府民安心の再構築	子供が育つのに良い環境	住んでいる地域が、子どもが育つのに良い環境だと思う人の割合	○	
	マタニティマークの認知度	マタニティマークの認知度		○
	きょうと育児の日	「きょうと育児の日」の認知度		○
	子育ての喜び・楽しみ	子育てに喜びや楽しさを感じている親の割合	○	
	子育ての悩みの相談	子育ての悩みを気軽に相談できる人がいる親の割合		○
	子供の将来の夢	子どもが、将来に夢を持っていると思う親の割合	○	
	子供に関する活動への参画	子どもの有無にかかわらず、子どもの社会体験活動への協力など、何らかの形で子どもに関する活動に参画している人の割合		○
	健康づくり	規則正しい食事や運動など、健康づくりに取り組んでいる人の割合		○
	かかりつけ医	病気やけがで困ったときに気軽に相談できるかかりつけ医がいる人の割合		○
	高齢者のやりがい・生きがい	趣味や地域貢献活動など、やりがいや生きがいを感じるものがある高齢者の割合	○	
	介護の負担や苦痛	家族の介護に負担や苦痛を感じていない家族介護者の割合	○	
	高齢者の暮らしやすさ	住んでいる地域は、高齢（者）になっても暮らしやすい体制（医療、福祉のほか社会生活全般）が十分に整っていると思う人の割合	○	
	人権侵害の相談窓口	人権侵害を受けた際に相談できる窓口を知っている人の割合		○
	ユニバーサルデザインの認知度	ユニバーサルデザインの認知度		○
	生涯学習	キャリアアップや趣味に関する生涯学習等に取り組んでいる人の割合		○
	障害者との交流	障害のある人となない人がともに交流したり、活動する場に参加している人の割合		○
	仕事のやりがい・生きがい	仕事にやりがいや生きがいを感じている人の割合	○	
	希望する働き方	希望する「働き方」（正社員、派遣社員、パート、アルバイト、自営など）で働くことができている人の割合		○
	災害の準備	地震や大雨などによる災害に備えて、避難場所の確認や非常持ち出し品の備蓄などを行っている人の割合		○
	安全活動	地域の防犯、防災、交通安全活動などに取り組んでいる人の割合		○
意識調査	病院への交通手段		○	
	差別・虐待・誹謗中傷	日々の生活の中で、身体状況、性別、その他について、差別、虐待、誹謗中傷などにより不快な思いをしたことのない人の割合		○
	インターネットでのいじめ・誹謗中傷	この1年の間にインターネット（フェイスブックやツイッターなど）によって、いじめ、誹謗中傷をされたことのない人の割合		○
	性別による制限	今の社会（家庭・職場・地域社会などのさまざまな場）は、性別によってやりたいことが制限されていると思わない人の割合	○	
	性別に関わらない社会参画	性別にかかわらず誰もが対等に社会参画できる社会であると感じる人の割合	○	
	自治会・NPOへの参画	地域のさまざまな課題に対応する団体（自治会、NPOなど）の活動に参画している人の割合		○
	行政への参画	府や市町村の実施する府民協働の取組や、事業提案・パブリックコメントに対する意見提出など、行政のさまざまな取組に何らかの形で参画している人の割合		○
	頼れるご近所さん	困ったときに気軽に頼れるご近所さんがいる人の割合		○
	祭り・伝統行事への参画	地域の祭りや伝統行事などに参画している人の割合		○
	地域の賑わい・活気	住んでいる地域に、にぎわいや活気があると思う人の割合	○	
	地域の社会生活基盤	住んでいる地域に、社会生活を送るのに必要な基盤（学校、病院、買い物の場、就業の場などや公共交通機関）が十分に整っていると思う人の割合	○	
	地域の個性・魅力	住んでいる地域（市町村）について、個性や魅力を感じている人の割合	○	
京都力の発揮	外国人との交流	外国人や留学生との交流の機会に参加したことがある人の割合		○
	会場でスポーツ観戦	プロスポーツをテレビやネットではなく、会場で観戦したいと思う人の割合	○	
	スポーツイベントへの参加	地域のスポーツイベントや、スポーツ振興につながる取組に参加している人の割合		○
	地域の文化・芸術活動	住んでいる地域で、地域の文化・芸術活動が活発に行われていると思う人の割合	○	
	文化遺産・文化財の保全	京都府では歴史的な文化遺産や文化財などが社会全体で守られ、活用されていると思う人の割合	○	
	文化庁の早期移転	明治以来初めての省庁移転として、文化庁の京都への早期移転を実現することが東京一極集中の是正や日本の文化振興の一助になると思う人の割合	○	
	伝統工芸品の使用	西陣織や丹後ちりめん、京焼・清水焼などの伝統工芸品を日常生活で使っている人の割合		○
	観光資源の活用	住んでいる地域（市町村）で、観光資源が活用されていると思う人の割合	○	
	府内産農林水産物の重視	生鮮食品を購入する際、府内産農林水産物であることを重視して選択する人の割合		○
	地域のまちなみ・景観・自然環境	住んでいる地域（市町村）が優れたまちなみや景観、自然環境に恵まれていると思う人の割合	○	
	エコな暮らし方	節電や公共交通機関の優先利用、環境負荷の少ない商品の優先購入といったエコな暮らし方を実践している人の割合		○
	再生可能エネルギー	省エネの取組や太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入が暮らしやすさに繋がると思う人の割合	○	
地域に環境	才能・知識・技量の発揮	仕事をはじめ社会的な生活を営む上で、自分の持っている才能や知識、技量などが十分に発揮できていると思う人の割合	○	
	夢・目標	夢・目標		○
	住み続けたいか	これから京都府に住み続けたいと思う人の割合	○	
	地域に環境	住んでいる地域の環境が、以前に比べてよくなってきていると思う人の割合	○	

表 13-2：京都府民の意識調査の内容（続き）
京都府のホームページ⁴⁸を参考に筆者作成

第 2 章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

調査の概要	
調査実施団体	熊本県
調査名	県民の幸福に関する意識調査
独自調査指標	県民総幸福量AKH（Aggregate Kumamoto Happiness）
調査項目の作成方法	熊本学園大学の有識者の方をメンバーに入れた熊本幸福量研究会で決定。決定にあたっては、アンケートなども実施。要因同士が独立するように、要因をできるかぎり少なくした。

幸福感の項目		
カテゴリー	項目	質問内容
幸福感	幸福感	現在、あなたは幸せだと感じていますか。

県民総幸福量AKHの項目				
カテゴリー	項目	質問内容	主観的項目	客観的項目
"4つの分類"の重要度について	"4つの分類"の重要度	あなたの幸福の全体を「10」点としたとき、下記の"4つの分類"（夢を持っている、誇りがある、経済的な安定、将来に不安がない）の重要度（どれを重視するかの度合い、ウエイト）は、それぞれ何点になりますか。	○	
"12の項目"に対する満足度（実感や考え）について	夢を持っている	あなたは、家族で叶えたいことや、家族に叶えてもらいたいことなど、家族のことで将来の夢を持っていますか？	○	
		あなたは、仕事のことで将来の夢を持っていますか？	○	
		あなたは、将来の夢の実現に向けて争べる環境にあると感じていますか？	○	
	誇りがある	あなたは、地域の自然を素晴らしいと感じていますか？	○	
		あなたは、地域の歴史や文化に誇りを感じていますか？	○	
		あなたは、地域社会とのつながりを感じていますか？	○	
	経済的な安定	あなたは、必要な所得や収入が得られていると感じていますか？	○	
		あなたは、必要なモノやサービスを購入できていると感じていますか？	○	
		あなたは、今の住まいに快適さやゆとりを感じていますか？	○	
	将来に不安がない	あなたは、ころやからだが健康だと感じていますか？	○	
		あなたは、食べ物や地域の生活環境が安全だと感じていますか？	○	
		あなたは、災害や防犯に対する備えができていていると感じていますか？	○	

表 14：県民の幸福に関する意識調査の内容
熊本県のホームページ¹⁵を参考に筆者作成

第2章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

調査の概要	
調査実施団体	〇〇町
調査名	〇〇調査（匿名での公表希望）
独自調査指標	無し
調査項目の作成方法	不明。

幸福感の項目		
カテゴリー	項目	質問内容
幸福感	幸福感	現在、あなたは幸せだと思いますか。
	幸福な生活のために必要なこと	あなたにとって、幸福な生活のために必要なことは何ですか。
	幸福な生活のために必要なまちづくり	あなたにとって、幸福な生活のために必要なまちづくりは何ですか。

その他のアンケート項目					
カテゴリー	項目	質問内容	主観的項目	客観的項目	
まちづくりに対する評価とこれからの方向性について	町が進めているまちづくりの取組について、あなたが日頃感じている『現状の満足度』とまちづくり全体からみた『今後の重要度』を評価してください。				
	まちの誇り「水と緑」を守りつなぐまち	森林環境	森林環境の保全を推進する	○	
		田園景観	美しい田園景観の保全を推進する	○	
		川	きれいな川を維持する	○	
		環境意識	環境意識の高いまちをめざす	○	
	安全・安心・快適を実感できるまち	飲料水	おいしい水を安定して飲める環境を整備する	○	
		下水道	下水道の適切な維持管理を図る	○	
		住環境	安心して住み続けるための住環境をつくる	○	
		地域基盤	まちの資源を活用し定住につながる地域基盤を構築する	○	
		幹線道路	交通と経済を支える幹線道路を整備する	○	
		生活環境	快適な暮らしを実現する生活環境を整備する	○	
		災害	災害に強いまちづくりを推進する	○	
		安全安心	安全安心で暮らせるまちづくりを推進する	○	
	働く場が充実し、地域の魅力が高まるまち	働ける場	生きがいをもって安心して働ける場の創出をめざす	○	
		創業・起業	継続的な創業・起業を支援する	○	
		プラント	商工・農・林・畜産の連携を図り、新たなブランドをつくる	○	
		農業	収益のある農業の振興を図る	○	
		観光	優れた地域資源を活用し、観光の振興を図る	○	
		定住	まちへの愛着を醸成し、定住促進を図る	○	
		移住	地域の魅力の発信を通してまちへの移住促進を図る	○	
	地域主体で支え合い、助け合う健康で人にやさしいまち	賑わい	地域間の交流を推進し、まちの賑わいをつくる	○	
		健康づくり	住民主体の健康づくりを推進する	○	
		食育	食育をさらに推進する	○	
		高齢者福祉	健康でいきいきと暮らすことのできる高齢者福祉を推進する	○	
		障がい者福祉	ともに生きる障がい者福祉を充実する	○	
		地域医療体制	安心できる地域医療体制を確保する	○	
	子どもの元気な声があふれ、生涯にわたり笑顔で暮らせるまち	社会保障制度	安心して生活を送ることのできる社会保障制度を充実する	○	
		子育て世代への支援	子育て世代への支援を推進する	○	
		学校園	家庭・地域とともに個性ある学校園をつくる	○	
		生涯学習	生涯を通して、学び、教え合う生涯学習を推進する	○	
		生涯スポーツ	健康で生きがいのある生涯スポーツを推進する	○	
		文化と伝統	文化と伝統に息づいたまちをつくる	○	
		人権尊重	人権尊重のまちをつくる	○	
	協働による自主自立のまち	住民主体の協働	住民主体の協働のまちづくりを推進する	○	
		若者の活躍	若者が主体的に活躍できるまちづくりを推進する	○	
		情報の共有体制	まちづくりに必要な情報の共有体制を充実する	○	
		行政経営	効率的・効果的な行政経営を推進する	○	
		広域連携	効果的な広域連携を推進する	○	
幸福度について	生きがい	活躍する場	自分が活躍する場はありますか。 社会に貢献（他人のために何かを）していると感じていますか。		○
		余暇	余暇は充実していますか。		○
		生きがい	生きがいにしているものはありますか。		○
	地域・役場とのつながり	近所の人とのコミュニケーション	ご近所の人とあいさつや話をしていますか。		○
		地域行事・活動	地域の行事や活動に参加していますか。		○
		憩える場	地域に憩える場はありますか。		○
		頼れる人	いざという時、お住まいの地域に頼れる人はいますか。		○
		町政への関心	町政（役場）について関心がありますか。	○	
		町政への参加	町政（役場）に参加したいですか。	○	

表 15：〇〇調査（匿名での公表希望）の内容

筆者作成

第2章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

調査の概要	
調査実施団体	荒川区
調査名	荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民アンケート調査
独自調査指標	荒川区民総幸福度GAH（Gross Arakawa Happiness）
調査項目の作成方法	区民の皆様の生活に最も近いところでそのニーズ（要望）を把握している区職員とともに、多様な分野の有識者の意見を踏まえながら、荒川区民総幸福度（GAH）指標を作成。

幸福感の項目		
カテゴリー	項目	質問内容
幸福感	幸福感	あなた、幸せだと感じますか？
	幸せにとって重要なこと	あなたの幸せにとって重要なこととは何ですか？
	不幸・不安なこと	あなたにとって不幸だと感じることや、生活をしていく上で不安だと感じることはありませんか？
	人生に影響を与える出来事	現在のあなたの人生に影響を与えるような出来事があった方は、ご記入ください。

荒川区民総幸福度GAHの項目					
カテゴリー		項目	質問内容	主観的項目	客観的項目
健康・福祉について	体の健康	運動の実施	体を動かしたり運動したりすることができていると思いますか？	○	
		健康的な食生活	健康的な食生活を送ることができていると感じますか？	○	
		体の休息	体を休めることができていると感じますか？	○	
	心の健康	つながり	孤立感や孤独感を感じますか？	○	
		自分の役割	家庭や職場、学校、地域などで、自分の役割があると感じますか？	○	
		心の安らぎ	心が安らぐ時間を持つことができていると感じますか？	○	
	健康環境	医療の充実	お住まいの地域に、安心してかかることができる医療機関（病院や薬局など）が充実していると感じますか？	○	
	福祉の充実	福祉の充実	お住まいの地域では、高齢者や障がい者への福祉が充実していると感じますか？	○	
	健康の実感	健康の実感	心身ともに健康的な生活を送ることができていると感じますか？	○	
	健康・福祉についての優先順位	健康・福祉についての優先順位	あなたの幸せにとって重要なものを上記の選択肢から選び、第1位から第3位までの順に記入してください。	○	
子育て・教育について	「生きる力」	規則正しい生活習慣	お子さんが規則正しい生活習慣を身につけていると思いますか？	○	
		「生きる力」の習得	お子さんが、社会で生活していく上で必要な知識や技能、社会性、体力などを身につけていると思いますか？	○	
	家族関係	親子コミュニケーション	親子の間でコミュニケーションがとれていると感じますか？	○	
		家族の理解・協力	あなたのご家族には、子育てに関する理解や協力があると感じますか？	○	
	子育て・教育環境	子育て・教育環境の充実	お住まいの地域における子育て・教育に関する事業・サービス・施設など（提供しているのが、民間か行政かを問わず）が充実していると思いますか？	○	
		地域の子育てへの理解・協力	お住まいの地域に、子育て家庭に対して理解し、協力する雰囲気があると感じますか？	○	
		望む子育てができる環境の充実	自分が望む子育てができるような環境があると感じますか？	○	
	子どもの成長の実感	子どもの成長の実感	お子さんが健やかに成長していると感じますか？	○	
	子育て・教育についての優先順位	子育て・教育についての優先順位	あなたの幸せにとって重要なものを上記の選択肢から選び、第1位から第3位までの順に記入してください。	○	
産業について	仕事	生活の安定	生活を送るために必要な収入を得ていくことに不安を感じますか？	○	
		ワーク・ライフ・バランス	仕事と生活とのバランスが取れていると感じますか？	○	
		仕事のやりがい	仕事に、やりがいや充実感を感じますか？	○	
	地域経済	まちの産業	荒川区の企業（お店や工場など）は元気で活力があると感じますか？	○	
		買い物の利便性	お住まいの地域での買い物が便利だと思いますか？	○	
		まちの魅力	荒川区は、区外から人が訪れたい魅力のあるまちだと思いますか？	○	
	生活のゆとり	生活のゆとり	経済的な不安がなく、買い物などに不便のない生活を送ることができていると感じますか？	○	
	産業についての優先順位	産業についての優先順位	あなたの幸せにとって重要なものを上記の選択肢から選び、第1位から第3位までの順に記入してください。	○	
環境について	利便性・ユニバーサルデザイン	施設のバリアフリー	お住まいの地域の商業施設や公共施設が、バリアフリーの面から、だれもが使いやすいと思いますか？	○	
		心のバリアフリー	お住まいの地域には、困っている人を見かけた時に、声を掛けたり協力したりしやすい雰囲気があると感じますか？	○	
		交通利便性	お住まいの地域は交通の便が良いと感じますか？	○	
	快適性	まちなみの良さ	お住まいの地域のまちなみ（景観・緑など）は良いと感じますか？	○	
		周辺環境の快適さ	お住まいの地域で、生活する上での不快さを感じますか？	○	
		持続可能性	あなたは、節電やごみの減量など、地球環境に配慮した生活をしていると思いますか？	○	
	生活環境の充実	生活環境の充実	お住まいの地域が、バリアフリーの状況や交通の便、まちなみの良さ、快適さ等の点から総合して暮らしやすい生活環境であると感じますか？	○	
	環境についての優先順位	環境についての優先順位	あなたの幸せにとって重要なものを上記の選択肢から選び、第1位から第3位までの順に記入してください。	○	

表 16-1：荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民アンケート調査の内容
荒川区のホームページ¹⁴を参考に筆者作成

第2章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

荒川区民総幸福度GAHの項目					
カテゴリー		項目	質問内容	主観的項目	客観的項目
文化について	余暇活動	興味・関心事への取組	興味・関心のあることに取り組むことができていると感じますか？	<input type="radio"/>	
		生涯学習環境の充実	生涯にわたって学習できる環境が充実していると感じますか？	<input type="radio"/>	
	地域文化	地域への愛着	荒川区の文化や特色に愛着や誇りを感じますか？	<input type="radio"/>	
		地域のひととの交流の充実	お住まいの地域の方と交流することで充実感が得られていると感じますか？	<input type="radio"/>	
		地域に頼れる人がいる実感	お住まいの地域に頼れる人がいると感じますか？	<input type="radio"/>	
		文化的寛容性	お住まいの地域には、文化や言語が自分と異なる人々を理解しようとする雰囲気があると感じますか？	<input type="radio"/>	
	充実した余暇・文化活動、地域のひととのふれあいの実感	充実した余暇・文化活動、地域のひととのふれあいの実感	充実した余暇・文化活動や地域の方とのふれあいのある生活が送れていると感じますか？	<input type="radio"/>	
安全・安心について	文化についての優先順位	文化についての優先順位	あなたの幸せにとって重要だと思うものを上記の選択肢から選び、第1位から第3位までの順に記入してください。	<input type="radio"/>	
	犯罪	防犯性	お住まいの地域で、犯罪への不安を感じますか？	<input type="radio"/>	
		交通安全性	お住まいの地域で、自動車や自転車などの交通事故の危険を感じますか？	<input type="radio"/>	
	事故	生活安全性	家庭や学校・職場などで、転倒、転落、落下物などの危険を感じますか？	<input type="radio"/>	
		個人の備え	災害（地震・火災・風水害）に対する備えを十分にしている安心感がありますか？	<input type="radio"/>	
		災害時の絆・助け合い	災害時に近隣の人と助け合う関係があると感じますか？	<input type="radio"/>	
	災害	防災性	お住まいの地域は災害に強いと感じますか？	<input type="radio"/>	
安全・安心の実感	安全・安心の実感	安全・安心の実感	お住まいの地域は犯罪や事故、災害などの点から総合して安全だと感じますか？	<input type="radio"/>	
安全・安心についての優先順位	安全・安心についての優先順位	安全・安心についての優先順位	あなたの幸せにとって重要だと思うものを上記の選択肢から選び、第1位から第3位までの順に記入してください。	<input type="radio"/>	
	安全・安心についての優先順位	安全・安心についての優先順位	あなたの幸せにとって重要だと思うものを上記の選択肢から選び、第1位から第3位までの順に記入してください。	<input type="radio"/>	
分すいての	すべての分野についての優先順位	すべての分野についての優先順位	上記の6つの分野について、あなたの幸せにとって重要だと思う順に記入してください。	<input type="radio"/>	

表 16-2：荒川区民総幸福度（GAH）に関する区民アンケート調査の内容（続き）

荒川区のホームページ¹⁴を参考に筆者作成

第2章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

調査の概要	
調査実施団体	兵庫県
調査名	「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査
独自調査指標	兵庫のゆたかさ指標
調査項目の作成方法	20年前に長期ビジョンを作ったときに原動的に指標を作成した。それが何を参考にしたかは記録に残っていない。

兵庫のゆたかさ指標の項目				
カテゴリー	項目	具体的内容	主観的項目	客観的項目
住民自身のことについて	家族とのコミュニケーション	家族とのコミュニケーションがとれている（電話などを含み、家族との同居・別居を問わない）人の割合		○
	頼りになる知り合い	頼りになる知り合いが近所にいる人の割合		○
	異なる世代の人とのつきあい	住んでいる地域で、異なる世代の人とつきあいがある人の割合		○
	健康	心身ともに健康であると感じる人の割合	○	
	かかりつけの医者	かかりつけの医者がある人の割合		○
	学んでいるもの	目的をもって学んでいるものがある人の割合		○
	社会のための活動	ボランティアなどで社会のために活動している、またはしてみたい人の割合	○	
	地元の農林水産物	地元や県内でとれた農林水産物を買っている人の割合		○
	しごとややりがい	自分のしごとややりがいを感じる人の割合	○	
	しごとと生活の両立	しごとと自分の生活の両立ができていない人の割合	○	
	自然環境を守るための取組	山林や川、海などの自然環境を守るための取組に参加している、またはしたいと思う人の割合	○	
	「再生エネルギー」を利用する取組	太陽光発電など「再生可能エネルギー」を利用する取組に参加している、または参加したいと思う人の割合	○	
	ゴミの分別・リサイクル	ゴミの分別やリサイクルに取り組んでいる人の割合		○
	節電	日頃から節電に取り組んでいる人の割合		○
	環境に配慮して製品	製品を購入する際に、環境に配慮したものを選んでいない人の割合		○
	災害に備えた話し合い・訓練	住んでいる地域で、災害に備えた話し合いや訓練に参加している人の割合		○
	災害時の避難	災害時の避難所と避難方法を知っている人の割合		○
	災害に対する自主的な備え	家庭で災害に対する自主的な備えをしている人の割合		○
	地域への関心	住んでいる地域のことに関心がある人の割合	○	
	地域の活動	住んでいる地域をより良くしたり、盛り上げたりする活動に参加している、または参加したい人の割合	○	
	愛着・誇り	住んでいる地域に愛着や誇りを感じる人の割合	○	
	海外	海外に出かけたり、海外での生活を体験したりしてみたい人の割合	○	
	外国人	外国人を見かけたり、外国人と接したりする機会が増えていると思う人の割合	○	
	住み続けたいか	住んでいる地域にこれからも住み続けたい人の割合	○	
	生活の満足	全体として、今の生活に満足している人の割合	○	
	将来の不安	全体として、将来の生活に不安を感じる人の割合	○	
住んでいる地域や市・町のことについて	治安	住んでいる地域は、治安が良く、安心して暮らせると思う人の割合	○	
	安全安心を守る取組	住んでいる地域では、住民による登下校時の見守り、夜間パトロールや街灯整備などの安全安心を守る取組が行われていると思う人の割合	○	
	高齢者の暮らしやすさ	住んでいる地域は、高齢者にも暮らしやすいと思う人の割合	○	
	障害のある人の暮らしやすさ	住んでいる地域は、障害のある人にも暮らしやすいと思う人の割合	○	
	子育てのしやすさ	住んでいる地域では、子育てがしやすいと思う人の割合	○	
	伸び伸びと育つか	住んでいる地域の子どもは、伸び伸びと育っていると思う人の割合	○	
	心の豊かさを育む教育	住んでいる地域では、心の豊かさを育む教育や活動が行われていると思う人の割合	○	
	災害の備え	住んでいる地域の災害に対する備えは、以前より確かなものになっていると思う人の割合	○	
	買い物・通院の便利さ	住んでいる地域は、買い物や通院に便利だと思う人の割合	○	
	まち並み	住んでいる地域のまち並みはきれいだと思う人の割合	○	
	芸術文化	お住まいの市・町では、芸術文化に接する機会があると思う人の割合	○	
	企業	お住まいの市・町には、優れた製品・技術・ブランド力を持った企業があることを知っている人の割合	○	
	企業の活気	お住まいの市・町には活気が感じられると思う人の割合	○	
	観光などの訪問客	お住まいの市・町では、観光などの訪問客が増えていると思う人の割合	○	
	サービス産業	お住まいの市・町では、生活の不便さを補うサービス産業が増えていると思う人の割合	○	
	駅前・商店街の活気	お住まいの市・町の駅前や商店街に、活気が感じられると思う人の割合	○	
	自然環境の保全	お住まいの市・町の自然環境は守られていると思う人の割合	○	
	自然の生き物とのふれあい	お住まいの市・町では、自然の生き物（動物・植物）とふれあう機会があると思う人の割合	○	
	公共交通	お住まいの市・町の公共交通は便利だと思う人の割合	○	
	県内の移動	お住まいの市・町は、県内のどこへでも便利に移動できると思う人の割合	○	
	地域の「宝」	お住まいの市・町には、自慢したい地域の「宝」（風景や産物、文化など）があると思う人の割合	○	
	外国人の住みやすさ	お住まいの市・町は、外国人にも住みやすくなっていると思う人の割合	○	
	農林水産業の活気	地元や県内の農林水産業に、活気が感じられると思う人の割合	○	
	農林水産物の安心	地元や県内でとれた農林水産物は安心だと思う人の割合	○	
社会全体のことについて	差別	不当な差別がない社会だと思う人の割合	○	
	希望	若者が希望を持てる社会だと思う人の割合	○	
	商売・事業の始めやすさ	商売、事業を新たに始めやすいと思う人の割合	○	
	就職・転職	自分にあった職業への就職や転職がしやすい社会だと思う人の割合	○	
	働きやすい環境	年齢や性別を問わず、働きやすい環境が整っていると思う人の割合	○	

表 17：兵庫のゆたかさ指標の内容
兵庫県のホームページ⁴⁹を参考に筆者作成

第2章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

調査の概要				
調査実施団体	佐賀市			
調査名	佐賀市民の幸福に関する調査			
独自調査指標	無し			
調査項目の作成方法	幸福田大学黒谷教授に監修を依頼し、打ち合わせのうえ、調査票を作成。			

幸福感の項目		
カテゴリー	項目	具体的内容
幸福感	幸福実感	幸福実感（幸福だと思うか）
	重視している基準	重視している基準
	5年後は今より幸せか	5年後は今より幸せか
	幸福な生活のために必要なこと	幸福な生活のために必要なこと
	今後の生活を考えたとき不安に感じること	今後の生活を考えたとき不安に感じること

その他のアンケート項目				
カテゴリー	項目	具体的内容	主観的項目	客観的項目
回答者の現状	健康について	健康について	○	
	生活のゆとり	生活のゆとり	○	
	悩みや心配ごと	悩みや心配ごと	○	
	台風や大雨などの災害	台風や大雨などの災害	○	
	子どもの安全確保について	子どもの安全確保について	○	
	地域の憩いの場	地域の憩いの場		○
地域活動	社会への貢献	社会への貢献	○	
	必要だと思う地域活動	必要だと思う地域活動	○	
	地域の情報の入手先	地域の情報の入手先		○
	地域活動への参加状況	地域活動への参加状況		○
	地域活動の状況	地域活動の状況		○
	地域活動への参加意向	地域活動への参加意向	○	
	地域活動に参加したくない理由	地域活動に参加したくない理由	○	
	参加が増えるための条件整備	参加が増えるための条件整備	○	

表 18：佐賀市民の幸福に関する調査の内容
佐賀市のホームページ⁶を参考に筆者作成

第2章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

調査の概要	
調査実施団体	斜里町
調査名	斜里町民アンケート調査
独自調査指標	無し
調査項目の作成方法	同様な調査を実施する他自治体等との比較検討を実施しやすいよう、内閣府の国民生活満足度調査との共通項目を盛り込んだ形としている。

幸福感の項目		
カテゴリー	項目	質問内容
幸福感	幸福感	現在、あなたはどの程度幸せですか？
	幸福感を判断する基準	自分の幸福感を判断する際に重視した基準は何ですか？
	幸福感を判断する事項	自分の幸福感を判断する際に重視した事項は何ですか？

その他のアンケート項目				
カテゴリー	項目	質問内容	主観的項目	客観的項目
斜里町での居住について	住みやすいか	斜里町は住みやすいと思いますか？	○	
	住み続けたいか	これからも斜里町に住み続けたいと思いますか？	○	
	なぜ住んでいるか	なぜ斜里町に住んでいますか？	○	
	斜里町以外に1年以上住んでいたことがあるか	斜里町以外に1年以上住んでいたことがありますか？		○
	住みにくいと感じる点	斜里町で住みにくいと感じる点があるとすれば、その主な理由は何ですか？	○	
斜里町のめざすべき将来イメージなどについて	下記の町の将来イメージについて、それぞれどの程度共感しますか？			
	環境と共生するまち	自然遺産のイメージを全面に出した環境と共生するまち	○	
	第一次産業のまち	安定的な地域活力をもたらす第一次産業のまち	○	
	観光のまち	多くの人が訪れ、賑わいのある観光のまち	○	
	快適な暮らしのあるまち	道路・公園・除排雪など快適な暮らしのあるまち	○	
	安全・安心のまち	事故・犯罪が少なく災害にも強い安全・安心のまち	○	
	子育て支援のまち	子どもたちを地域の力で見守る子育て支援のまち	○	
	福祉のまち	高齢者や障がい者(児)など全ての人が安心できる福祉のまち	○	
	健康のまち	健康づくりや地域医療を重視した健康のまち	○	
	教育支援のまち	子どもの育成を学校と地域で支える教育支援のまち	○	
	生涯学習のまち	文化・スポーツなどの盛んな生涯学習のまち	○	
	助け合いのまち	地域活動やボランティア活動が盛んな助け合いのまち	○	
	住民自治のまち	町民主体のまちづくりを積極的に進める住民自治のまち	○	
	自立のまち	健全な財政運営と地方分権をめざす自立のまち	○	
	交流のまち	他地域・国際交流などの盛んな交流のまち	○	
	人口減少への対応	斜里町の人口は現在11,700人ですが、2040年には8,200人に減少すると予測されています。人口減少への対応について、あなたの意見に近いものはどれですか？	○	
個別分野に関する現状と将来への考えについて	次の項目に対する現状への満足度と今後の重要度について、どのようにお考えですか？			
	生活環境・産業・社会基盤など	ゴミ処理や資源リサイクル対策	○	
		自然保護や野生動物対策	○	
		農業・漁業・林業振興	○	
		商工業・観光業振興	○	
		新規産業育成や雇用対策	○	
		道路整備	○	
		公園や緑地・街路樹整備	○	
		住宅環境整備	○	
		上下水道・浄化槽整備	○	
		地域公共交通対策	○	
		道路の除雪対策	○	
		防災・災害対策	○	
		交通安全・防犯対策	○	
		火災・救急救命対策	○	
		消費者保護対策	○	
	保健・福祉・医療	子育て支援対策	○	
		健康づくり・疾病予防対策	○	
		病院・地域医療対策	○	
		高齢者福祉対策	○	
		障がい者（児）福祉対策	○	
	教育	公営住宅整備	○	
		学校教育	○	
		学校給食	○	
		文化・芸術	○	
		スポーツ・レクリエーション	○	
		図書館・博物館	○	
	自治・行政	青少年の健全育成対策	○	
		自治会活動支援	○	
		町政への住民参加・協働の機会	○	
町政運営との関わりについて	行政からの情報発信		○	
	斜里町の町政運営やまちづくりに関心がありますか？		○	
	あなた自身の町政運営との関わり方について、最も近いものを1つ選んでください。			○

表 19-1：斜里町民アンケート調査の内容

斜里町のホームページ⁵⁰を参考に筆者作成

第2章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

その他のアンケート項目				
カテゴリー	項目	質問内容	主観的項目	客観的項目
幸福感などについて	家計状況	自分の家計状況（所得や消費生活）に満足していますか？	○	
	住環境	今住んでいる住宅や周辺の住環境に満足していますか？	○	
	仕事	自分の仕事（仕事内容や給与・収入など）に満足していますか？	○	
	家族との関係	ご家族との関係は良好ですか？	○	
	地域社会との関係・つながり	身近な地域社会との関係やつながり（友人関係や近所付き合い、困ったときの助け合いなど）に満足していますか？	○	
	文化・自然などとの関係・つながり	自分の周りの文化や自然などとの関係やつながりに満足していますか？	○	
「子育て」について	親子のコミュニケーション	親子の間でコミュニケーションがとれていると感じますか？	○	
	子育てに関する事業・サービス・施設	お住まいの地域における子育てに関する事業・サービス・施設など（提供しているのが、民間か行政かを問わず）が充実していると思いますか？	○	
	地域の子育て家庭に対する理解・協力	お住まいの地域に、子育て家庭に対して理解し、協力する雰囲気があると感じますか？	○	
	子育ての環境	自分が望む子育てができるような環境があると感じますか？	○	
	安心して子供を産み育てられる環境	あなたは、斜里町には安心して子どもを生み育てられる環境が整っていると思いますか？	○	
	子育ての相談	お住まいの地域には、子育てや子どもの教育などについて相談できる人がいる、あるいは、相談できる場所がありますか？	○	
	地域の子供とのコミュニケーション	お住まいの地域の子どもとあなたとのコミュニケーションは十分取れていると思いますか？	○	
	就労しながらの子育て	あなたは、斜里町では就労しながら無理なく子育てをすることができると感じますか？	○	
	教育に関する事業・サービス・施設	お住まいの地域における教育に関する事業・サービス・施設など（提供しているのが、民間か行政かを問わず）が充実していると思いますか？	○	
	子どもの生活習慣	お子さんが規則正しい生活習慣を身につけていると思いますか？	○	
	家族の子育てに関する理解・協力	あなたのご家族には、子育てに関する理解や協力があると感じますか？	○	
	健全な成長	お子さんが健やかに成長していると感じますか？	○	
	子育ての喜び・生きがい	あなたは、子育てに喜びや生きがいを感じていますか？	○	
	子どもの知識・技能・社会性・体力	お子さんが、社会で生活していくうえで必要な知識や技能、社会性、体力などを身につけていると思いますか？	○	
	子どもの教育	お子さんが十分な教育を受けられていると感じますか？	○	
「健康・医療」について	運動	体を動かしたり運動したりすることができていると思いますか？	○	
	食生活	健康的な食生活を送ることができていると感じますか？	○	
	休息	体を休めることができていると感じますか？	○	
	心の安らぎ	心が安らぐ時間を持つことができていると感じますか？	○	
	健康的な生活	心身ともに健康的な生活を送ることができていると感じますか？	○	
	仕事と生活のバランス	仕事と生活とのバランスが取れていると感じますか？	○	
	余暇・文化活動・地域の方とのふれあい	充実した余暇・文化活動や地域の方とのふれあいのある生活が送れていると感じますか？	○	
	精神的なやすらぎの場	ストレスを発散する場や機会、精神的なやすらぎの場はありますか？	○	
	運動ができる環境	お住まいの地域では、気軽に運動をする場所や機会、散歩ができるような環境がありますか？	○	
	スポーツ・運動の実施	あなたは、日頃からスポーツ・運動（散歩、体操を含む）を行っていますか？どのくらいの頻度ですか？	○	
	医療機関	お住まいの地域に、安心してかかることができる医療機関（病院や薬局など）が充実していると感じますか？	○	
「福祉」について	孤立感・孤独感のない生活	孤立感や孤独感のない生活を送れていると感じますか？	○	
	自分の役割	家庭や職場、学校、地域などで、自分の役割があると感じますか？	○	
	高齢者・障がい者への福祉	お住まいの地域では、高齢者や障がい者への福祉が充実していると感じますか？	○	
	商業施設・公共施設のバリアフリー	お住まいの地域の商業施設や公共施設が、バリアフリーの面から、だれもが使いやすいと思いますか？	○	
	協力しやすい雰囲気	お住まいの地域には、困っている人を見かけた時に、声を掛けたり協力したりしやすい雰囲気があると感じますか？	○	
	困っている人への手助け	高齢者や障がいのある人、ベビーカーを使っている人など、まちで困っている人がいるとき、手助けをすることができると感じますか？	○	
	介護	現在（あるいは将来の）、自分または家族の介護に対して安心した生活を送れていると感じますか？	○	
	自宅以外の居場所	お住まいの地域には、自宅以外の居場所がありますか？（集える場所、行きつけのお店など）	○	
	高齢者の暮らしやすさ	お住まいの地域は、高齢者にとって暮らしやすい地域であると思いますか？	○	
	障がいのある人の暮らしやすさ	お住まいの地域は、障がいのある人にとって暮らしやすい地域であると思いますか？	○	

表 19-2：斜里町民アンケート調査の内容（続き）

斜里町のホームページ⁵⁰を参考に筆者作成

第 2 章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

調査の概要				
調査実施団体	京丹後市			
調査名	市民幸せ度アンケート調査			
独自調査指標	無し			
調査項目の作成方法	研究会をつくり、京都府の京都指標や国民生活選好度調査を参考に、大学の先生とかなどの有識者と議論して作成。			

幸福感の項目		
カテゴリー	項目	質問内容
幸福感	幸福感	あなたは、どの程度「幸せ」だと感じていますか。
	生活満足度	あなたは、最近の生活にどの程度満足していますか。
	幸福感を判断する事項	幸福感を判断する上で、あなたが重視した事項は何ですか。
	幸福感を判断する基準	幸福感を判断する際に重視した基準は何ですか。

その他のアンケート項目				
カテゴリー	項目	質問内容	主観的項目	客観的項目
市の政策について	力をいれるべき政策	あなたが幸せな生活を送るためには、市はどのような分野の施策に力をいれるべきだと思いますか。	○	
あなたの人生観・日常行動などについて	他人のためになることを行いたい	あなたは、困っている人を助けることや他人の喜ぶこと、他人のためになることを行いたいと思いますか。	○	
	他人のためになることを行いたい理由	その理由はなんですか。	○	
	ボランティア活動	あなたは、過去一年間にボランティア活動（社会や他人のために自発的・無償で行う活動）をしましたか。		○
	物事・出来事の良い面を見るか	あなたは、何事につけ物事や出来事の良い面、明るい面を見る（見ようと努める）方だと思いますか。	○	
	頼りにされているか	あなたは、人から頼りにされていると感じていますか。	○	
	支えられているか	あなたは、人から支えられていると感じますか。	○	
	宗教的な価値観を信じるか	あなたは、何らかの宗教的又はスピリチュアルな価値観を信じますか（神や宗教も含みます。）。	○	
	日本社会がよい方向に発展しているか	あなたは、日本社会が公平・公正でよりよい方向に発展していると思いますか。	○	

表 20-1：市民幸せ度アンケート調査の内容
京丹後市のホームページ⁵¹を参考に筆者作成

第2章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

その他のアンケート項目				
カテゴリー	項目	質問内容	主観的項目	客観的項目
市の政策について	力をいれるべき政策	あなたが幸せな生活を送るためには、市はどのような分野の施策に力をいれるべきだと思いますか。	○	
あなたが幸福を感じる事とその満足度について	あなたは、次の事項にどの程度満足していますか。			
	収入	生活送るための十分な収入があること	○	
	働く環境	正規雇用など、働く環境が安定していること	○	
	市内の経済状況	市内の経済状況が良いこと	○	
	景観	美しい景観が保たれていること	○	
	自然	自然（海・山・川など）に恵まれていること	○	
	命の尊さを学ぶ環境	自然にふれ生き物の命の尊さを学ぶ環境が整っていること	○	
	生活公害	生活公害（騒音・悪臭・振動）がないこと	○	
	地球環境に配慮した生活	地球環境に配慮した生活ができること	○	
	身体 の健康状態	身体 の健康状態が良好に保たれていること	○	
	こころの健康状態	こころの健康状態が良好に保たれていること	○	
	悩み・困りごとを相談する場所	悩みや困りごとを相談する場所があること	○	
	自宅で暮らせること	最後まで自宅で暮らせること	○	
	高齢者への福祉支援	高齢者への福祉支援が充実していること	○	
	障がい者への福祉支援	障がい者への福祉支援が充実していること	○	
	介護施設	介護施設が充実していること	○	
	医療機関	市内の医療機関が充実していること	○	
	家族の子育てに対する理解・協力	家族の子育てに対する理解、協力があること	○	
	子どもを育てる環境	地域ぐるみで子どもを育てる環境があること	○	
	子育て環境（施設・サービスなど）	子育て環境（施設・サービスなど）が充実していること	○	
	個性・能力を伸ばす教育	個性や能力を伸ばす教育が充実していること	○	
	いじめ	いじめがないこと	○	
	教育環境（施設・教育力）	教育環境（施設・教育力）が充実していること	○	
	交通基盤	交通基盤が整っていること（公共交通、道路など）	○	
	体を動かせる環境	スポーツなど体を動かせる環境があること	○	
	生活品	生活品を手に入れるのに支障がないこと	○	
	食の安全	食の安全が確保されていること	○	
	犯罪・交通事故	犯罪や交通事故が少ないこと	○	
	防災対策	防災対策がしっかりしていること	○	
	住み続けたいか	ここに住み続けたいと思うこと	○	
	地域の人達との交流	地域の人達と積極的に交流をすること	○	
	社会貢献活動	社会貢献活動などへ参加すること	○	
	悩み・困りごとを相談できる人	悩みや困りごとを相談できる人がいること	○	
	憩いの場	地域に憩いの場があること	○	
	自治会	自治会（町内会、老人会、婦人会など）が充実していること	○	
	住民の見守り体制	地域での住民の見守り体制が整っていること	○	
	能力を発揮する活動	自分の能力を発揮するような活動ができること	○	
	余暇の過ごし方	余暇の過ごし方が充実していること	○	
	趣味・生涯学習ができる環境	趣味、生涯学習ができる環境が整っていること	○	
	外国文化・言語についてふれる機会	外国文化・言語についてふれる機会があること	○	
	地域の魅力・歴史・文化についてふれる機会	地域の魅力、歴史、文化にふれる機会があること	○	
	仕事のやりがい	仕事にやりがいがあること	○	
	家庭と仕事の両立	家庭と仕事が両立できること	○	
	職場の労働条件	職場の労働条件が良いこと	○	
	職場の人間関係	職場の人間関係が良いこと	○	
	家族の団らん・交流	家族の団らん・交流が盛んであること	○	
	家族の支え合い	家族がともに支えあって仲良く暮らすこと	○	
	居住空間	家族が自分にあった居住空間が確保できていること	○	
	一緒に暮らす家族	一緒に暮らす家族が多いこと	○	
	家族の健康	家族がみな健康であること	○	
	家族介護支援	家族介護支援が充実していること	○	

表 20-2：市民幸せ度アンケート調査の内容（続き）

京丹後市のホームページ⁵¹を参考に筆者作成

第2章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

調査の概要	
調査実施団体	長久手市
調査名	ながくて幸せ実感アンケート
独自調査指標	ながくて幸せのモノサシ
調査項目の作成方法	有志の市民と市職員による「ながくて幸せ実感調査隊」を結成し、「幸せ」に欠かせないことや大切なこと、確認すべきことについて、何度も議論を重ねてアンケート調査票を作成した。

幸福感の項目		
カテゴリー	項目	質問内容
幸福感	幸福感	あなたは現在幸せですか。
	幸福感を判断する事項	幸福感を判断する際に、重視した事項は何ですか。
	幸福感を判断する事項	あなたの幸福感を高めるために有効な手立ては何ですか。

ながくて幸せのモノサシの項目				
カテゴリー	項目	質問内容	主観的項目	客観的項目
あなたの幸せ感について	次の8つの分野の中からあなたにとって「特に大事だと思う分野」を3つまで選んでください。			
	健康	健康な生活習慣、運動・ストレス発散の場、保健医療など	<input type="radio"/>	
	子育て・教育	地域の子育て環境、家庭教育など	<input type="radio"/>	
	環境	自然環境・景観、ごみ出し、環境に配慮した生活など	<input type="radio"/>	
	つながり	地域活動や行事、近所付き合い、居場所や相談相手など	<input type="radio"/>	
	防災・防犯	地域防災、家庭防災、地域の治安、安全安心への取組など	<input type="radio"/>	
	福祉	地域福祉、介護、高齢者・障がい者福祉など	<input type="radio"/>	
	文化・生涯学習	歴史伝統・芸術文化の土壌、生涯学習環境など	<input type="radio"/>	
	生活インフラ	生活の利便性や安全性、就業確保、インターネットなど	<input type="radio"/>	
	あなたは、次の項目についてどの程度満足していますか。			
	家計の状況	家計の状況（所得・消費）	<input type="radio"/>	
	就業状況	就業状況（仕事の有無・安定）	<input type="radio"/>	
	健康状況	健康状況	<input type="radio"/>	
	自由な時間、充実した余暇	自由な時間、充実した余暇	<input type="radio"/>	
	仕事や趣味、社会貢献などの生きがい	仕事や趣味、社会貢献などの生きがい	<input type="radio"/>	
	家族関係	家族関係（子育て、教育、夫婦、父母）	<input type="radio"/>	
	友人関係	友人関係	<input type="radio"/>	
	職場の人間関係	職場の人間関係	<input type="radio"/>	
	地域コミュニティや近所との関係	地域コミュニティや近所との関係	<input type="radio"/>	
	仕事と生活のバランス	仕事と生活のバランス	<input type="radio"/>	
	生活全般	生活全般	<input type="radio"/>	
長久手の住み心地	住みよいまち	長久手を住みよいまちだと思いますか。	<input type="radio"/>	
	愛着	長久手に愛着を感じていますか。	<input type="radio"/>	
	住み続けたい	今後も長久手に住み続けたいですか。	<input type="radio"/>	

表 21-1：ながくて幸せ実感アンケートの内容
長久手市のホームページ⁵²を参考に筆者作成

第2章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

ながくて幸せのモノサシの項目					
カテゴリー		項目	質問内容	主観的項目	客観的項目
暮らしや地域（生活実感）	健康について	健康的な暮らし	体を動かしたり運動したりと健康的な暮らしができていますか。	○	
		運動	お住まいの地域では、気軽に運動をする場所や機会、散歩ができるような環境がありますか。		○
		食生活	健康的な食生活ができていますか。	○	
		ストレス発散	ストレスを発散する場や機会、精神的なやすらぎの場はありますか。		○
		笑顔・心豊か	日頃から笑顔で心豊かな生活ができていますか。	○	
	子育て・教育について	病院・クリニック	お住まいの地域では、病院やクリニックが充実していると思いますか。	○	
		子どもを産み育てる安心	長久手市は、安心して子どもを産み、育てることができるまちだと思いますか。	○	
		子どもの育ち	お住まいの地域の子供たちは、のびのびと育っていると思いますか。	○	
		子育てのサービス・施設	お住まいの地域には、子育てや教育に関するサービスや施設が整っていると思いますか。	○	
		子育ての相談	お住まいの地域には、子育てや子どもの教育などについて相談できる人がいる、あるいは、相談できる場所がありますか。		○
	自然やごみなどの環境について	子どものコミュニケーション	子どもとのコミュニケーションは十分取れていると思いますか。	○	
		自然環境	お住まいの地域では、自然の生き物（動植物）に触れ合うことができるなど、豊かな自然環境があると思いますか。	○	
		遊び場	お住まいの地域には、公園や屋外の遊び場がありますか。		○
		まち並み	お住まいの地域のまち並み（景観・風景）はきれいだと思いますか。	○	
		ごみ・資源の分別	お住まいの地域では、ルールにしたがって、ごみ・資源の分別がされていると思いますか。	○	
	人や地域のつながりについて	環境への配慮	節電や節水、環境に配慮した製品の購入など、日頃から環境に配慮した生活をしていますか。		○
		地域の活動・行事	過去3年以内に、お住まいの地域を良くしたり、地域を盛り上げたりしていくための活動や行事に参加していますか。		○
		あいさつ・近所づきあい	日常的にあいさつや近所づきあいをしていますか。また、近所づきあいや地域とのつながりに満足していますか。	○	
		居場所	お住まいの地域には、自宅以外の居場所がありますか（集える場所、行きつけのお店など）。		○
		たつせ	お住まいの地域であなたは「たつせ」がありますか。		
	防災・防犯について	頼りになる知人・友人	困ったときに頼りになる（悩みを相談したり助けてと言ったりできる）知人・友人はいますか。		○
		国籍・文化の異なる人々の住みやすさ	長久手市は、国籍や文化の異なる人々にとっても住みやすいと思いますか。	○	
		防災訓練	お住まいの地域で災害に備えた話し合いや防災訓練に参加していますか。		○
		災害に対する自主的な備え	あなたの家庭では、災害に対する自主的な備えをしていますか。		○
		避難所・避難方法	災害時の避難所と避難方法を知っていますか。		○
	福祉について	治安	お住まいの地域は、治安が良く、安心して暮らせますか。	○	
		安全安心を守る取り組み	お住まいの地域では、住民による登下校の見守り、夜間パトロールや防犯灯設置など、安全安心を守る取組が行われていますか。		○
		地域での助け合い	お住まいの地域では、地域で困った人への助け合いはできていますか。	○	
		福祉サービス	市の福祉サービスや市内の福祉事業者のサービスを知っていますか。		○
		手助け	高齢者や障がいのある人、ベビーカーを使っている人など、まちで困っている人がいるとき、手助けをすることができますか。	○	
	文化・生涯学習について	介護	現任（あるいは将来の）、自分または家族の介護に対して不安を感じますか。	○	
		高齢者・障がいのある人の暮らしやすさ	お住まいの地域は、高齢者にとって暮らしやすい地域であると思いますか。障がいのある人にとって暮らしやすい地域であると思いますか。	○	
		伝統文化への関心	長久手の歴史や伝統文化（「小牧・長久手の戦い」の地になったことや地域の昔話、棒の手等のお祭りなど）に関心がありますか。	○	
		芸術文化との接点	長久手市は、芸術文化（演劇やコンサート、美術展など）に接したり取り組んだりする機会に恵まれていると思いますか。	○	
		知的興味・知識・能力を磨く機会	長久手市は、あなたの知的興味や知識、能力を磨いたり伸ばしたりする機会（生涯学習活動を行う機会）に恵まれていると思いますか。	○	
	生活インフラ（交通や買い物生活など）について	地域の「宝」	お住まいの地域には、自慢したい地域の「宝」（風景や産物、文化、行事など）がありますか。		○
		買い物・通院の利便性	お住まいの地域は、買い物や通院に便利です。	○	
		移動の利便性	お住まいの地域は、出かける際の移動が便利です。	○	
		移動の安全	お住まいの地域は、出かける際の移動の安全が確保されていると思いますか。	○	
		就業のしやすさ	お住まいの地域(長久手市及びその周辺地域)では、仕事が見つかりやすく就業しやすい環境（パート労働も含む）にあると思いますか。	○	
	まちづくりにおける地域の役割について	インターネット	インターネット（ツイッターやフェイスブック、ライン等も含む）や電子メールをコミュニケーション手段として利用していますか。		○
		社会への役立ち	あなたは、日ごろ地域社会の一員として、何か社会のために役立ちたいと思っていますか。それとも、あまりそのようなことは考えていませんか。	○	
		地域コミュニティの重要性	地域にはさまざまな課題があると思われますが、このような課題を解決していくためには、地域のコミュニティが中心になって進めていくことが今後ますます重要になると思いますか。	○	
		地域コミュニティへの参加	上問のような取組などを地域コミュニティが中心になって進めていく場合、それに参加しますか。	○	

表 21-2：ながくて幸せ実感アンケートの内容（続き）

長久手市のホームページ⁵²を参考に筆者作成

第2章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

調査の概要	
調査実施団体	福岡県
調査名	福岡県民意識調査
独自調査指標	無し
調査項目の作成方法	幸福実感について：内閣府が実施していた「国民生活選好度調査」や外部有識者で構成する県の研究会での委員意見を参考に作成。 県の施策について：県が進める施策に対する県民ニーズを把握し、今後の県政運営に反映させるため、庁内の各部局へ意見を聴取し作成。

幸福感の項目		
カテゴリー	項目	質問内容
幸福感	幸福感	現在、あなたは実感としてどの程度幸せですか。
	幸福感を判断する基準	幸福実感を判断する上で、あなたが重視した基準を選んでください。
	幸福感を判断する事項	幸福実感を判断する上で、あなたが重視した事項を選んでください。
	5年前との比較	あなたは、5年前に比べ、ご自分が実感として幸せになっていると思いますか。
	5年後との比較	あなたは、5年後は、今よりご自分が実感として幸せになっていると思いますか。

その他のアンケート項目				
カテゴリー	項目	質問内容	主観的項目	客観的項目
幸福実感について	福岡県で良かったか	あなたは、福岡県に生まれて良かった、または、生活して良かったと思いますか。	○	
	福岡県で良かった理由	前問の答えについて、その理由は何ですか。	○	
	「新型コロナウイルス感染症」の影響	あなたは、「新型コロナウイルス感染症」が幸福実感に影響を及ぼしている、または及ぼしたと思いますか。	○	
	「新型コロナウイルス感染症」の影響の理由	「新型コロナウイルス感染症」があなたの幸福実感に影響を及ぼしている、または、及ぼした要因として考えられるものほどれですか。	○	
県の政策について	商工業の振興	活力にあふれ成長力に富んだ経済をつくるために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。	○	
	観光振興	国内外の観光客を呼び込むために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。	○	
	農林水産振興	食料などの生産や安定供給だけでなく、県土の保全などにも大きく貢献している福岡県の農林水産業を、今後さらに発展させていくために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。	○	
	雇用対策	あらゆる世代の人がいきいきと働き、安定した生活を送ることができる社会をつくるために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。	○	
	地域振興	地域それぞれの特色を活かし、魅力ある地域をつくるために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。	○	
	インフラ・社会基盤整備	アジアとつながり、地域が密接に連携し発展するための社会資本を整備するために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。	○	
	子育て支援	安心して子どもを生み育てることができる社会をつくるために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。	○	
	教育	個性や能力に富み、学力・体力を備えた子どもを育てるために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。	○	
	若者	若者が夢を抱き、将来に向かってはばたくために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。	○	
	女性	女性が能力を発揮し活躍する社会づくりに向けて、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。	○	
	高齢者・障がいのある人	高齢者や障がいのある人が安心してはつらつと生活できる社会をつくるために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。	○	
	保健・医療	必要な医療を受けられ、健康で長生きすることができる社会づくりのために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。	○	
	NPO・ボランティア	NPOやボランティア（以下、「NPO等」という）が活躍する社会をつくるために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。	○	
	文化・スポーツ	文化やスポーツなどの活動を盛んにするために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。	○	
	国際交流	国際交流の推進や外国人との相互理解の促進のために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。	○	
	防災対策	災害に強いまちをつくるために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。	○	
	防犯・事故対策	犯罪や事故のない社会をつくるために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。	○	
	環境	環境と調和し、快適に暮らせる社会をつくるために、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。	○	
	新型コロナウイルス感染症対策	「新型コロナウイルス感染症」の拡大を抑止し、県民の健康と生活を守るため、あなたは行政に対しどのようなことに力を入れてほしいですか。	○	
	重点分野	これまで、ご回答いただいた下記の18分野において、あなたは特にどの分野に力を入れてほしいですか。	○	
	期待すること・将来の姿	県民一人ひとりが幸福を実感できる「県民幸福度日本一」を目指すにあたって、あなたが福岡県に期待することや特に力を入れて欲しいこと、あなたが思い描く将来の福岡県の姿など、ご自由にお書きください。	○	
参考設問	文化芸術	あなたは、この1年間に、ホール・劇場、美術館などで、料金を支払い、文化芸術を鑑賞したり、体験したりしたことはありますか。		○
	自動車損害賠償保険	あなたは、自動車損害賠償保険等に加入していますか。		○
	SDGs	あなたは、SDGs（エスディー・ジーズ）という言葉聞いたことがありますか。		○

表 22：福岡県民意識調査の内容

福岡県のホームページ⁵³を参考に筆者作成

第2章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

調査の概要	
調査実施団体	門真市
調査名	門真市市民幸福実感に関する意識調査
独自調査指標	門真市幸福度指標
調査項目の作成方法	市民意識調査の調査結果について、幸福度との関係などの相関関係を確認したうえで、既存の統計調査や総合計画における「達成度を測る指標」などを参考にしながら、幸福度指標の検討を行った。最終的には市役所庁内、および幸福度指標策定委員会の議論を通じて、門真市幸福度指標の体系を定めた。

幸福感の項目		
カテゴリー	項目	質問内容
幸福感	幸福感	現在、あなたはどの程度幸せですか。
	幸福感を判断する基準	上記の幸福度を判断する際に重視した基準は何ですか。
	幸福感を判断する事項	上記の幸福度を判断する際に重視した事項は何ですか。

門真市幸福度指標の項目				
カテゴリー	項目	具体的内容	主観的項目	客観的項目
心と体が健康である	健康づくりをしやすい環境	健康づくりをしやすい環境だと感じる人の割合	○	
	持病	持病を抱えていない人の割合		○
	朝食	朝食を毎日食べている人の割合		○
	運動	週2回以上運動する人の割合		○
	睡眠	睡眠が6時間以上取れている人の割合		○
	散歩・ジョギングコース	お気に入りの散歩・ジョギングコースがある人の割合		○
	喫煙	たばこを吸っている人の割合		○
	健康診断	健康診断を毎年受けている人の割合		○
	歯科検診	定期的に歯科健診を受けている人の割合		○
	医療サービスを利用しやすい環境	医療施設が整備され、医療サービスがいつでも利用しやすい環境ができていると感じる人の割合	○	
仕事にやりがいを感じ、生活とのバランスが取れている	救急医療体制	救急医療体制が整っていると感じる人の割合	○	
	かかりつけ医	かかりつけ医がある人の割合		○
	仕事と生活のバランス	働きやすく、生活とのバランスを取りやすいまちだと感じる人の割合	○	
	子育て・介護等とバランスのとれた生活	子育てや介護等の家庭の事情に応じて、バランスのとれた生活を過ごすことができていると感じる人の割合	○	
日常生活に対する身体的・経済的不安が小さい	家事の分担	家族で家事がバランスよく分担できていると思う人の割合	○	
	自由時間	自由に過ごす時間がある人の割合		○
	日常生活の不安への十分な支援	日常生活に不安を抱える人に十分な支援ができていると感じる人の割合	○	
	経済的環境	経済的環境が恵まれていると思う人の割合	○	
	経済的負担	日常生活を送る上で経済的負担は感じていない人の割合	○	
安心して楽しく子育てができる	経済的支援	行政から経済的支援を受けていない人の割合		○
	所得額	所得割納税義務者1人当たりの総所得額		○
	安心して楽しい子育て	安心して楽しく子育てが出来る環境だと感じる人の割合	○	
	子育ての孤独	子育てについて「相談できる人が少なく孤独を感じる」ことがない人の割合	○	
	子育てについて相談できる人	子育てについて、相談したり助けてくれる人がいる人の割合		○
	子どもと行く公園	子どもとよく遊びに行く公園がある人の割合		○
	子どものかかりつけ医	0歳から小学校6年生まででかかりつけ医を持っている人の割合		○
	子育て応援ポータルサイト	子育て応援ポータルサイト「すくすくかどまっ子ナビ」へのアクセス月間件数		○
	ファミリー・サポートセンター	ファミリー・サポート・センター登録者数		○
子どもの健やかな成長を実感できる	キッズサポーター	キッズサポーター登録者数		○
	子ども女性比	子ども女性比（ある年の0-4歳の人口（男女計）を、同年の15-49歳女性人口で割った値）		○
	子どもが健やかに育つ環境	子どもが健やかに育つことの出来る環境であると感じる人の割合	○	
	生活習慣の習得	自分の子どもが基本的な生活習慣が身についていると思う人の割合	○	
	「確か学力・豊か心・健やか体」の習得	自分の子どもが「確か学力・豊か心・健やか体」を身につけていると思う人の割合	○	
	子どもの朝ごはん	朝ごはんを毎日食べる子どもの割合		○
	家庭のコミュニケーション	家庭においてのコミュニケーションが取れていると感じる人の割合	○	
	公立小中学校の教育内容・学校施設等	公立小中学校の教育内容や学校施設等が良いと感じる人の割合	○	
	全国学力・学習状況調査	全国学力・学習状況調査における全国平均正答率に対する門真市平均正答率の割合（門真市平均 / 全国平均）		○
	小学校・中学校の学校図書館	小学校・中学校の学校図書館の1人当たりの貸出点数		○
	サタスタ事業	サタスタ事業の参加人数		○
	まなび舎Kids	まなび舎Kidsの年間延べ参加者数		○
	不登校児童生徒数	不登校児童生徒数（千人率）		○

表 23-1：門真市民幸福実感に関する意識調査の内容

門真市のホームページ²⁹を参考に筆者作成

第2章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

門真市幸福度指標の項目				
カテゴリー	項目	具体的内容	主観的項目	客観的項目
人と人との支え合いが実感できる	つながりのあるまち	互いに助け合い、支え合う地域のつながりのあるまちだと感じる人の割合	○	
	頼りになる親類・友人	頼りになる親類・友人がいる人の割合		○
	頼りにされている親類・友人	頼りにされている親類・友人がいる人の割合	○	
	電車・バスなどで座席を譲るか	電車やバスなどで座席を譲ったことがある人の割合		○
隣近所や地域コミュニティとのつながりがある	民生委員の顔と名前	民生委員の顔と名前を知っている人の割合		○
	つながりが強い地域	地域や市民活動を通じてつながりが強い地域と感じる人の割合	○	
	地域・市民活動の活性化	市役所が地域・市民活動を活性化するために努力していると感じる人の割合	○	
	隣近所との付き合い	隣近所と付き合いがある人の割合		○
	地域の行事	地域のまつりなどの行事に参加したことのある人の割合		○
	自治会	自治会の加入率		○
まちづくりを担っている一員であると実感できる	地域会議	地域会議を知っている人の割合		○
	ボランティア・市民活動への取組み	ボランティアや市民活動への取組みが盛んなまちだと感じる人の割合	○	
	NPO・ボランティア活動	NPOやボランティア活動に参加している人の割合		○
	人・まち・元気事業	人・まち・元気事業（出前講座、市民講座、市民大学）に参加したことのある人の割合		○
	まちづくり人材バンク	協働によるまちづくり人材バンクの登録者数		○
	自治基本条例	自治基本条例（の内容）を知っている人の割合		○
地域への愛着がある	市民公益活動支援センター	市民公益活動支援センターを知っている人の割合		○
	NPO法人	市内に主たる事務所を置くNPO法人の法人数		○
	愛着	地域への愛着を育むのに熱心なまちだと感じる人の割合	○	
	伝統文化行事	地域の祭など、伝統文化行事に参加したことのある人の割合		○
	歴史文化遺産	市内の歴史文化遺産を3つ以上知っている人の割合		○
	思い出のある場所・お気に入りの場所	地域に思い出のある場所やお気に入りの場所がある人の割合		○
犯罪や事故・災害への不安が小さい	今後も住み続けたいか	今後も住み続けたいと思う人の割合	○	
	犯罪・事故・災害の心配	犯罪や事故、災害の心配が少ないまちであると感じる人の割合	○	
	犯罪との遭遇	犯罪にあたり、あいかけたりしたことがない人の割合		○
	消費生活センター	消費生活センターを知っている人の割合		○
	子どもの安全見守り活動	青色防犯パトロール及び公用車が子どもの安全見守り活動のために巡回している姿を見た人の割合		○
	LED型防犯灯	LED型防犯灯の設置率		○
	防犯カメラ	防犯カメラの設置台数		○
	道路の明るさ	夜間に歩いて、道路が明るいと感じる人の割合	○	
	刑法犯認知件数	刑法犯認知件数		○
	交通事故	道路上で交通事故にあたり、ヒヤリとしたことがない人の割合		○
	交通事故年間発生件数	交通事故年間発生件数		○
	救急救講習	救急救講習延参加者数（守口市門真市消防組合）		○
	災害に対する備え	災害に対する備えをしている人の割合		○
	指定避難場所	自宅から近い指定避難場所を知っている人の割合		○
	火災年間発生件数	火災年間発生件数		○
便利で快適な生活ができる	防災士認証	消防団員の防災士認証登録者数		○
	生活基盤	快適な生活基盤が整っていると感じる人の割合	○	
	水道	安心して水道を利用してできていると感じる人の割合	○	
	生活道路	生活道路が安全で便利だと感じる人の割合	○	
	下水道	下水道の人口普及率		○
	住宅の延べ床面積	持ち家1住宅当たりの延べ床面積		○
	利便性	快適で利便性の高いまちだと感じる人の割合	○	
	公共交通機関	バスや鉄道などの公共交通機関が利用しやすいと感じる人の割合	○	
	道路幅員	市道（私道を含む）の道路幅員充足延長		○
	主要駅周辺	主要駅の周辺がまちの顔としてにぎわいのある魅力的な環境だと感じる人の割合	○	
自然・うらおいを実感できる	放置自転車	放置自転車の年間撤去台数		○
	不法投棄	不法投棄の年間処理件数		○
	自然のうらおい	緑豊かな公園・広場・緑地に行った時に自然のうらおいを実感する人の割合	○	
	うらおいを感じるために行く場所	うらおいを感じるために、市内に行く場所がある人の割合		○
	公園・広場・緑地を身近に感じるか	公園・広場・緑地を身近に感じる人の割合	○	
	花・緑の栽培	自宅や所有地の周りに花や緑を栽培している人の割合		○
文化芸術に触れたり、スポーツや学習したりする機会に恵まれている	うらおいあるまちか	うらおいあるまちだと感じる人の割合	○	
	公園・広場・緑地の面積	市民1人当たりの公園・広場・緑地の面積		○
	文化的なまちか	文化的なまちだと感じる人の割合	○	
	文化芸術	文化芸術を鑑賞・体験したことがある人の割合		○
	生涯学習活動	生涯学習活動を行っている人の割合		○
	市内の文化施設	市内の文化施設を利用したことがある人の割合		○
	文化サークル活動	文化サークル活動の登録団体数		○
	図書館年間貸出点数	図書館年間貸出点数		○
	スポーツ施設	市内のスポーツ施設を利用したことがある人の割合		○
	スポーツサークル活動	スポーツサークル活動の登録団体数		○

表 23-2：門真市民幸福実感に関する意識調査の内容（続き）

門真市のホームページ²⁹を参考に筆者作成

第2章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

門真市幸福度指標の項目				
カテゴリー	項目	具体的内容	主観的項目	客観的項目
平和で人権が守られている	共生社会の形成	人権が尊重され、共生社会の形成が進んでいると感じる人の割合	○	
	人権の尊重	自分が他人の人権を尊重していると思う人の割合	○	
	人権・平和に関する講演・勉強会	人権や平和に関する講演や勉強会へ参加したことがある人の割合		○
	人権にかかる講座・講演会	人権にかかる講座・講演会の年間参加者数		○
	女性サポートセンター	(仮称) 門真市女性サポートセンターの利用者数		○
	男女共同参画	男女共同参画が進んでいると感じる人の割合	○	
	管理職員における女性比率	市役所の管理職員における女性比率（課長級以上）		○
	女性委員の比率	地方自治法上の委員会及び附属機関における女性委員の比率		○
	非核平和講演会	非核平和講演会の年間参加者数		○
	頼りになる親類・友人	頼りになる親類・友人がいる人の割合		○
環境保全に対する意識が高い	頼りにされている親類・友人	頼りにされている親類・友人がいる人の割合	○	
	環境に優しい活動	環境にやさしい活動をしている人の割合		○
	公害の少なさ	公害の少ない環境の良いまちだと感じる人の割合	○	
	ごみの減量・省エネルギー対策・リサイクルの取組	ごみの減量や省エネルギー対策、リサイクルの取組が行われていると感じる人の割合	○	
	ノーマイカーデー	ノーマイカーデーは車を利用しない人の割合		○
	ごみの年間排出量	地域の1人当たりごみの年間排出量		○
	一般廃棄物の排出量	一般廃棄物の排出量		○
	温室効果ガス排出量	市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量		○
地域の産業が盛んで活力がある	地域清掃活動	地域清掃活動の登録団体数		○
	新規事業	企業連携に伴う新規事業の創出数		○
	有効求人倍率	有効求人倍率		○
わがまちのことがよくわかり、市役所が信頼できる	法人税	法人税割額		○
	「広報かどま」	「広報かどま」を読んでいる人の割合		○
	「議会だより」	「議会だより」を読んでいる人の割合		○
	市長の顔と名前	市長の顔と名前を知っている人の割合		○
	市議	知っている市議がいる人の割合		○
	市のイメージキャラクター	市のイメージキャラクター「ガラスケ」を知っている人の割合		○
	パブリックコメント制度	パブリックコメント制度を知っている市民の割合		○
	ホームページのアクセス件数	ホームページのアクセス月間件数		○
	市公式ツイッター	市公式ツイッターのフォロワー数		○
	行政情報	行政情報が分かりやすく提供されていると感じる人の割合	○	
	市民意見の反映	市政に市民意見が十分反映されていると感じる人の割合	○	
	市民相談	各種市民相談があることを知っている人の割合		○
	窓口サービス	迅速で明るく、わかりやすい窓口サービスがなされていると感じる人の割合	○	
	組織のわかりやすさ・利用しやすさ	組織がわかりやすく、市民にとって利用しやすいものとなっていると感じる人の割合	○	
	市役所職員の対応・行動	市役所職員の対応・行動が「良い」と感じる人の割合	○	
	健全で効率的な財政運営	無駄を省いた、健全で効率的な財政運営がなされていると感じる人の割合	○	
	市長選挙の投票率	市長選挙の投票率		○
	市議会議員選挙の投票率	市議会議員選挙の投票率		○
	市民ご意見番制度	市民ご意見番制度を知っている人の割合		○

表 23-3：門真市民幸福実感に関する意識調査の内容（続き）

門真市のホームページ²⁹を参考に筆者作成

第2章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

その他のアンケート項目				
カテゴリー	項目	質問内容	主観的項目	客観的項目
門真市の取組の満足度・重要度について	市政への市民意見の反映	市政に市民意見が十分に反映されていること	○	
	行政の積極的な情報公開	行政の情報が適切に市民へ提供されていること	○	
	市の情報の発信・収集	広報紙などで広報・広聴活動が十分なされていること	○	
	情報ネットワークの整備	インターネットやCATVなどを活用した行政情報を提供できるしくみができていること	○	
	自治会や市民活動の活性化	自治会活動や市民活動が活性化するような環境ができていること	○	
	市の組織のわかりやすさ	組織がわかりやすく、市民にとって利用しやすいものとなっていること	○	
	市の窓口の使いやすさ	迅速で明るく、わかりやすい窓口サービスがなされていること	○	
	行財政の運営	無駄を省いた、健全で効率的な財政運営がなされていること	○	
	子どもを産み、育てやすいまちづくり	保育サービスや子育て家庭への支援が充実し、子育てしやすい環境ができていること	○	
	防犯対策	犯罪などに巻き込まれない安心できる環境ができていること	○	
	幹線道路の整備	まちの骨格を形成する幹線道路が整備され、他地域へ行くのが便利であること	○	
	生活道路の整備	安全で便利な道路の整備がなされていること	○	
	公共交通機関の充実	バスや鉄道などの公共交通機関が利用しやすいこと	○	
	バリアフリーやユニバーサルデザインによるまちづくり	公共施設などが誰もが使いやすい整備されていること	○	
	住宅地の整備	住宅地が整備され、生活しやすい環境ができていること	○	
	外国人との共生に向けた取り組み	在住外国人と活発に交流できていること	○	
	国際交流の推進	国外の都市との交流が行われていること	○	
	芸術や文化にふれることができる環境づくり	身近に芸術や文化にふれることができる環境ができていること	○	
	地域福祉の推進	互いに助け合い、支え合う地域のつながりができていること	○	
	高齢者が暮らしやすいまちづくり	高齢者が生きがいを持ち、いきいきと暮らせる環境ができていること	○	
	障がい児（者）が暮らしやすいまちづくり	障がい児（者）が自立しながら安心して暮らせる環境ができていること	○	
	心身の健康づくりの推進	市民が健康づくりに取り組める環境ができていること	○	
	保健事業の推進	健康診査・各種検診などが充実し、利用しやすいこと	○	
	医療サービスの提供体制	医療施設が整備され、医療サービスがいつでも利用しやすい環境ができていること	○	
	休日、夜間などの救急医療体制	救急医療体制ができていること	○	
	ごみの減量、省エネ、リサイクル対策	ごみの減量や省エネルギー対策、リサイクルの取組が行われていること	○	
	街並み・景観への配慮	美しいまちなみであること	○	
	公園・緑地の整備	身近に公園や緑地が整備されていること	○	
	商業の活性化	商店街の活性化や商業地域の整備がなされていること	○	
	工業の活性化	活発な工業活動ができるような環境になっていること	○	
まちのイメージについて	人情味あふれる笑いのたえないまち	あなたは、門真市が「人情味あふれる笑いのたえないまち」だと思いますか。	○	
	出産・子育てがしやすい子どもがたくましく育つまち	あなたは、門真市が「出産・子育てがしやすい子どもがたくましく育つまち」だと思いますか。	○	
	地域の中で生き活きと、健康で幸せに暮らせるまち	あなたは、門真市が「地域の中で生き活きと、健康で幸せに暮らせるまち」だと思いますか。	○	
	安全・安心で快適な住まいと環境のあるまち	あなたは、門真市が「安全・安心で快適な住まいと環境のあるまち」だと思いますか。	○	
	誰もが活躍できる賑わいと活気のあるまち	あなたは、門真市が「誰もが活躍できる賑わいと活気のあるまち」だと思いますか。	○	
	まちのイメージ	あなたは、今後、門真市がどのようなイメージのまちになることを望みますか。	○	
	取り組む必要があること	あなたは、今後、門真市が市民の幸福感の向上のために取り組む必要があると思う事項は何ですか。	○	

表 23-4：門真市民幸福実感に関する意識調査の内容（続き）

門真市のホームページ²⁹を参考に筆者作成

第2章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

調査の概要	
調査実施団体	安城市
調査名	市民アンケート調査
独自調査指標	無し
調査項目の作成方法	2016年の総合計画策定時に他の自治体などを参考にして作成した。初回以降は経年変化を観測したいので、項目は変えないようにしている。ただし、2021年であればSDGsなど、新規の項目は追加している。

アンケートの項目					
カテゴリー	項目	質問内容	主観的項目	客観的項目	
安城市の住みやすさについて	住みやすさ	安城市は住みやすいですか。	○		
	住みにくいと思う点	住みにくいと思う点について、お答えください。	○		
安城市の取組全般について	これまでの安城市の取組みについて、どれくらい満足していますか。 今後、これらに安城市が取り組むことはどれくらい重要とお考えですか。				
	健康について	健康・医療	・健康診査、がん検診、乳幼児健診の実施 ・健康イベント(ウォーキング等)開催、あんじょう健康マイレージ事業の実施 ・休日夜間急病診療所の運営	○	
		スポーツ	・体育館、ソフトボール場などスポーツ施設の改修 ・安城シティマラソン、デンパーク駅伝、ウォーキングイベントなど市民参加スポーツ事業の開催 ・女ソフトボール日本リーグなど全国レベルのスポーツ観戦事業の開催	○	
	環境について	環境	・スマートハウス普及促進設備の設置補助 ・次世代自動車の購入補助 ・ごみの減量・分別に対する取り組み ・公園遊具の計画的な更新	○	
		都市基盤（住環境）	・下水道の計画的な整備 ・適切な管理がされていない空き家の対策	○	
		生活安全	・地域や学校等での防犯・交通安全教室の開催 ・防犯灯・防犯カメラの設置 ・交通安全・防犯の啓発活動	○	
		都市基盤（交通）	・あくるバスの運行の充実（ダイヤの改正、循環線のルートの変更） ・新安城駅の整備、南安城駅のバリアフリー化（エレベーターの設置）	○	
		自転車の利用促進	・自転車走行空間（ブルーライン）の整備 ・自転車購入補助、TSマーク取得補助 ・自転車啓発イベント（サイクリング、自転車教室等）の実施	○	
	経済について	農業	・農地の流動化、担い手の育成 ・農業の多面的機能共同活動、ほ場整備の実施 ・地産地消・食育の推進	○	
		商工業	・市内企業の支援体制の充実 ・空き店舗対策の実施 ・安城ビジネスコンシェルジュ（ABC）の設置等、創業支援の推進	○	
		観光	・七夕まつり、桜まつりの開催 ・デンパークの充実（施設・イベント） ・観光案内所やウェブサイトを活用した観光情報の発信	○	
		都市基盤（市街地）	・南明治地区土地区画整理事業の実施 ・中心市街地拠点施設アンフォーレの建設及び賑わい創出事業の実施 ・桜井駅周辺特定土地区画整理事業の実施	○	
	きずなについて	防災・減災	・防災ラジオ等による防災情報の発信 ・自主防災活動への支援、関係機関等との連携強化 ・雨水貯留施設の計画的な整備	○	
		地域福祉	・町内福祉委員会による地域見守り活動の推進 ・日常生活圏域（中学校区）における地域包括支援センターの設置 ・町内福祉委員会やボランティア団体の活動支援	○	
		障害福祉	・24時間対応の相談体制の整備 ・就労支援など自立に向けた支援 ・グループホームなど居住サービスの提供	○	
		社会保障	・生活困窮者の自立支援 ・特定健診結果によって行う特定保健指導などの生活習慣改善の支援事業や医療受診の案内	○	
		生涯学習	・公民館等における各種講座や教室の開催 ・図書館の充実とアンフォーレ、公民館図書室、学校図書室の連携による子ども読書の推進	○	
		文化・芸術	・歴史的建造物、遺跡等の調査と保護、三河万歳等の伝承活動 ・文化芸術の鑑賞機会提供・情報発信	○	
		参加と協働	・審議会等の市民公募委員の募集 ・パブリックコメント、ワークショップ、eモニターの実施による意見募集	○	
		地域自治（コミュニティ）	・町内会及び地域が行う活動への支援 ・町内会の管理する集会所施設等の建設・改修補助	○	

表 24-1：市民アンケート調査の内容
安城市のホームページ⁵⁴を参考に筆者作成

第2章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

		アンケートの項目			
カテゴリー		項目	質問内容	主観的項目	客観的項目
安城市の取組全般について	こどもについて	子育て	・低年齢児、延長保育、一時保育、休日保育等の充実 ・第3子以降の保育料・給食費の無料化及び小中学校給食費の無料化 ・児童クラブの対象学年拡大	○	
		ひとり親家庭福祉	・ひとり親手当の支給 ・家庭相談員による児童相談全般及び母子・父子自立支援員による就業相談など ・産後の家事・育児支援事業の実施	○	
		学校教育	・中学校1年生、小学校4年生までの少人数学級の実施 ・学校施設の改修（教室へのエアコン設置・トイレ・バリアフリー化など） ・授業でのタブレット端末等の情報機器の活用	○	
	行財政運営について	行財政運営	・公開行政レビュー（公開事業評価）の実施 ・各種証明書のコンビニ交付サービスの実施 ・健全財政の堅持	○	
日常生活について		健康	ご自身は健康であると思いますか。	○	
		食生活	自身の食生活の問題点はどのようなものですか。	○	
		歩く時間	1日にどれくらいの時間を歩きますか。		○
		スポーツ・運動	あなたは普段どれくらいの頻度でスポーツ・運動をしていますか。1つ選んで番号に○をつけてください。		○
		インカレ	全日本女子ソフトボール選手権大会（インカレ）が安城市で開催されます。あなたは安城市で開催されるのを知っていましたか。		○
		通勤・通学以外の交通手段	通勤・通学以外で安城市内を移動するとき、あなたが最も多く利用する交通手段はどれですか。		○
		交通手段	安城市内での移動手段として、主にどのような交通手段を使っていますか。		○
		自転車の利用促進	移動手段として、自転車の利用を増やしていきたいですか。	○	
		文化・芸術への愛着・誇り	本市の文化や芸術に愛着や誇りを感じますか。	○	
		デンパーク	本市の貴重な観光資源であるデンパークについて満足度をお答えください。	○	
		子育て中の人の仕事のしやすさ	本市は子育て中の人が仕事をしやすい環境が整っていると思いますか。	○	
		消費生活	本市は消費生活に関する相談体制が整っていると思いますか。	○	
		自治基本条例	本市では市民が主役の自治の実現を目指して自治基本条例を制定しています。自治基本条例について、知っていますか。		○
		マイナンバーカード	マイナンバーカードがあればコンビニで住民票、印鑑証明書及び戸籍証明書が取得できます。コンビニ交付サービスについて利用したいですか。		○
		家具等の転倒防止	地震への備えとして、家具等の転倒防止のための固定を行っていますか。		○
		食料・飲料水の備蓄	地震への備えとして、食料や飲料水の備蓄を行っていますか。		○
		「健康(ケンサチ)」	「健康(ケンサチ)」という言葉を知っていますか。		○
		普段から心がけていること	「健康(ケンサチ)」について、普段から心掛けていることを教えてください。		○

表 24-2：市民アンケート調査の内容（続き）
安城市のホームページ⁵⁴を参考に筆者作成

第2章 幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容の整理

調査の概要	
調査実施団体	土佐経済同友会
調査名	高知県民総幸福度（GKH）に関するアンケート調査
独自調査指標	高知県民総幸福度GKH
調査項目の作成方法	土佐経済同友会GKH委員会の方で作成

幸福感の項目		
カテゴリー	項目	質問内容
幸福感	幸福感	最初にあなたは普段どの程度幸福だと感じていますか？ ほとんどの面で、私の人生は私の理想に近い。 私の人生は、とても素晴らしい状態だ。 私は自分の人生に満足している。 私はこれまで、自分の人生に求める大切なものを得てきた。 もう一度人生をやり直せるとしても、ほとんど何も変えないだろう。
人生満足度	SWLS	

高知県民総幸福度GKHの項目				
カテゴリー	指標	質問内容	主観的項目	客観的項目
健康や人とのつながり	頼れる人	いざという時に頼れる人が身近にいると感じますか。	○	
	家族とのだんらん	家族とのだんらんがあると感じますか。	○	
	健康的な生活	心身ともに健康的な生活を送ることができていると感じますか。	○	
	自分の役割・居場所	あなたは、家庭や職場、学校、地域などで、自分の役割があったり、自分の居場所があったりすると感じますか。	○	
	信頼できる病院・気軽に相談	身近に信頼できる病院があり、気軽に相談できると感じますか。	○	
子育て・教育	子どもたちの安心して生活	子どもたちが安心して生活できていると感じますか（通学、遊びの場、学校を含む）。	○	
	子育ての環境	お住まいの地域では子育ての環境が充実していると感じますか。	○	
	子どもの知識・技能・社会性・体力	子どもたちが、社会で生活してゆく上で、必要な知識や技能、社会性、体力などを総合的に身に付けていると感じますか。	○	
働くこと	経済的に困らない生活	あなたは、経済的に困らない生活を送ることができていると感じますか。	○	
	生活水準	あなたの生活水準はどの程度だと感じていますか。	○	
	精神的に余裕のある生活	あなたは、精神的に余裕のある生活を送ることができていると感じますか。	○	
	仕事と生活とのバランス	仕事（専業主婦にとっての家事を含む）と生活とのバランスが取れていると感じますか。	○	
	仕事のやりがい・充実感	仕事（専業主婦にとっての家事を含む）にやりがいや充実感を感じますか。	○	
	通学・通勤の時間	通勤、通学は苦にならない程度の時間だと感じますか。	○	
	会社でのコミュニケーション・チームワーク	会社でのコミュニケーション、チームワークが良いと感じますか。	○	
	組織への愛着	所属している組織に愛着がありますか。	○	
	憧れる先輩・上司	所属している組織に憧れる先輩、上司がどのくらいいますか。	○	
生活環境	組織の多様性を受け入れる風土	所属している組織には多様性（性別、年齢、障がい者、外国人などで障壁等が無いこと）を受け入れる風土あると感じますか。	○	
	自由になる時間	自由になる時間が充分とれていると感じますか。	○	
	暮らしやすい生活環境	お住まいの地域は暮らしやすい生活環境であると感じますか。	○	
	生活する上での不快感	お住まいの地域では、生活する上での不快感（騒音、騒音、ゴミ捨て、ゴミ屋敷などを含む）が無いと感じますか。	○	
文化や地域	協力する雰囲気	お住まいの地域では、困っている人を見かけたときに、声をかけたり協力したりする雰囲気があると感じますか。	○	
	地域の活動・行事	地域に興味・関心がある活動や行事があると感じますか。	○	
	相談にのってくれる人	お住まいの地域に親身になって相談にのってくれる人がいると感じますか。	○	
	地域への愛着・誇り	お住まいの地域に愛着や誇りを感じますか。	○	
安心や安全	余暇の過ごし方	あなたは、自分の余暇の過ごし方に満足していると感じますか。	○	
	地域の居心地	お住まいの地域は居心地が良いですか。	○	
	治安	日常生活において、治安が守られていると感じますか。	○	
	災害に対する備え	災害（地震、火災、風水害）に対する備えは充分だと感じますか。	○	
お住いの都道府県	ウイルス感染症に対する備え	ウイルス感染症に対する備えは充分だと感じますか。	○	
	近隣の方との交流	日頃から近隣の方と交流ができていていると感じますか。	○	
	安心した外出	昼夜を問わず女性が安心して外出できると感じますか。	○	
	自然に接する場所	身近に（気軽に）自然に接する場所（海、川、山）があると感じますか。	○	
お住いの都道府県	仕事・学校以外での知人・仲間	仕事や学校以外での知人や仲間がいると感じますか。	○	
	魅力	他の都道府県から人が訪れたいくなる魅力ある場所だと感じますか。	○	
	幸せに暮らしているか	あなたは（お住いの都道府県）で暮らして幸せだと感じますか。	○	
	好きか	あなたは（お住いの都道府県）を好きだと感じますか。	○	

表 25：高知県民総幸福度（GKH）に関するアンケート調査の内容
土佐経済同友会のホームページ⁵⁵を参考に筆者作成

2-6. 小括

本章では、幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容を明らかにした。

2-1 では、心理学の分野で定説となっている幸福感の分類と、その調査尺度および調査指標についてまとめた。幸福感は主観的幸福感と客観的幸福感に分類される。そして特に客観的幸福感調査では、あらかじめ主観的幸福感との相関が認められている客観的指標項目から幸福感を推定することが望ましいことを説明した。

2-2 では、幸福感研究と幸福感調査の変遷について、年表をもとに整理した。特に 1970 年代から主観的幸福感調査が、1980 年代後半から客観的幸福感調査が行われるようになったことを説明した。

2-3 では、幸福感研究を整理し、5 つの分野に分類した。

2-4 では、2-3 で整理した研究から幸福感と相関があると認められている要因を抽出し、デモグラフィックデータ、サイコグラフィックデータ、健康状態、活動傾向、周囲の環境、他人との関係、の 6 つのカテゴリに分類した。これらの要因を客観的幸福感調査の指標項目に用いることが望ましい。

2-5 では、海外の主要な幸福感調査および国内の幸福感調査について整理した。国内の自治体による幸福感調査は、海外の主流とは異なり、主に主観的項目によって構成されているという特徴を明らかにした。

第3章では、これらの資料を活用し、国内の自治体による既存の幸福感調査の課題を明らかにする。

第3章 自治体による既存の幸福感調査の課題

3-1. 自治体へのヒアリング調査の概要

3-2. 自治体へのヒアリング調査の結果

3-3. 自治体による既存の幸福感調査の課題

3-4. 小括

第3章 自治体による既存の幸福感調査の課題

本章では、既往研究では明らかにされていない自治体の実感も含めて把握するため、幸福感調査を実施している国内自治体に対してヒアリング調査を実施し、自治体による既存の幸福感調査の課題を明らかにする。

3-1 では、本研究で実施した自治体へのヒアリング調査の概要を説明する。

3-2 では、本研究で実施した自治体へのヒアリング調査の結果を整理する。

3-3 では、ヒアリング調査の結果および第2章で整理した内容を踏まえ、自治体による既存の幸福感調査の課題を考察する。

3-1. 自治体へのヒアリング調査の概要

本節では、国内の自治体に対して行なったヒアリング調査の概要を説明する。

1) 調査目的

自治体による既存の幸福感調査の課題を明らかにすること。

2) 調査対象

森田（2014）¹⁶，住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合⁴⁵の資料に掲載されていた，三重県，京都府，熊本県，〇〇県（匿名での公表希望），荒川区，兵庫県，佐賀市，斜里町，京丹後市，長久手市，福岡県，門真市，安城市，土佐経済同友会の13自治体および1同友会。

3) 調査時期

2021年11月から12月の間。

4) 調査方法

既存の幸福感調査の課題について，実際に各自治体がどのように感じているかを調査するため，電話またはメールでヒアリング調査を実施した。

5) 調査項目

実感している調査の課題に加え，各自治体が幸福感調査を開始した経緯，目的から調査結果の活用方法までを把握するため，以下の調査項目を設定した。

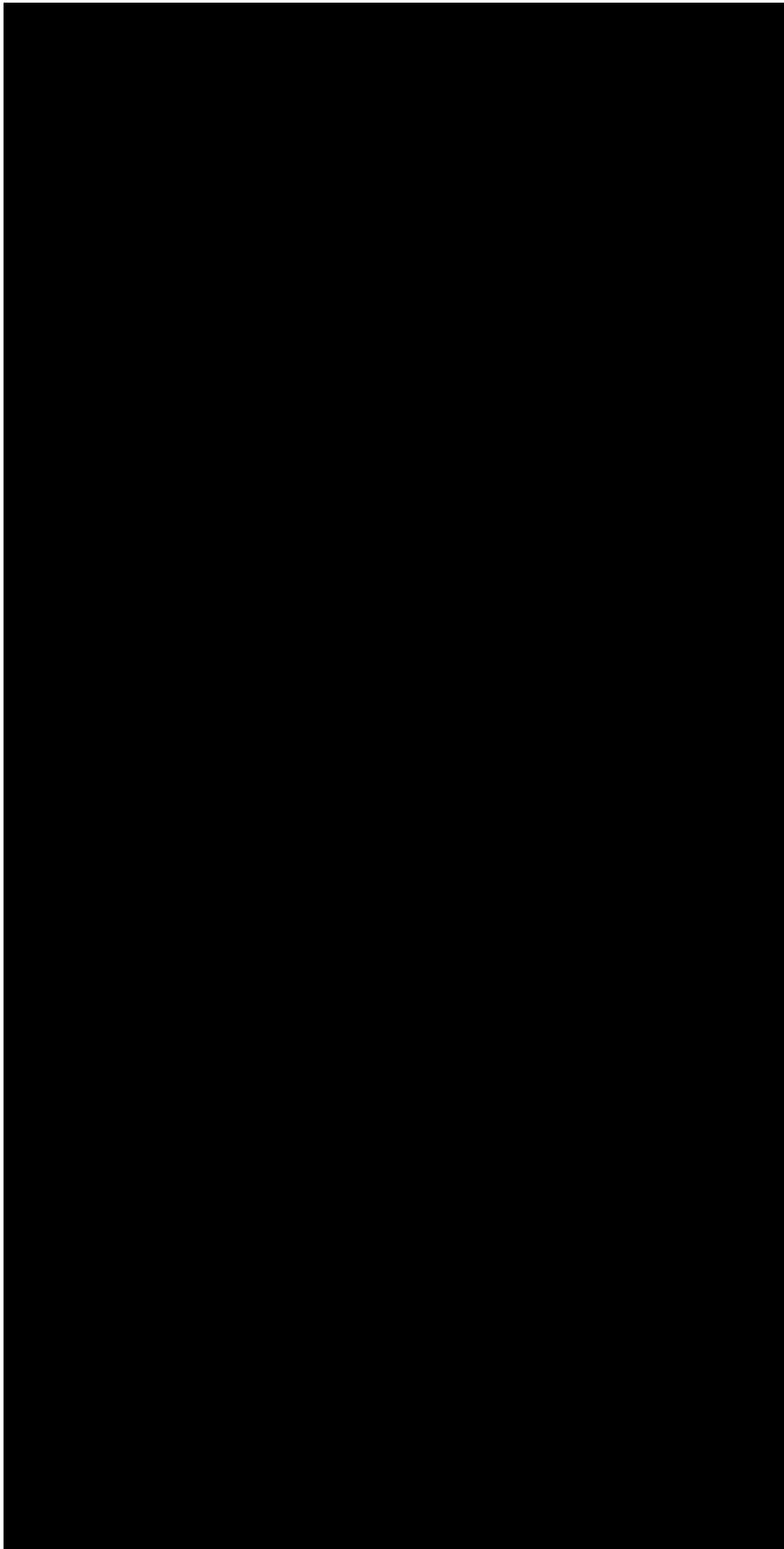
- ・調査実施までの経緯 / 調査目的
- ・調査項目（質問項目）の作成方法
- ・調査コスト
- ・調査結果の分析方法 / 都市政策への活用方法
- ・実感している調査の課題

3-2. 自治体へのヒアリング調査の結果

本節では、自治体に対するヒアリング調査の結果を掲載する。

14の自治体、同友会に対して実施したヒアリング調査結果および各自治体のホームページの内容を整理したものが表26である。まとめた項目は、調査名、調査実施団体、調査実施年度、調査の設問数、調査の標本数、調査コスト、調査実施までの経緯 / 調査目的、調査結果の分析 / 都市政策への活用方法、実感している調査の課題の9項目である。

表 26：自治体へのヒアリング調査の結果



3-3. 自治体による既存の幸福感調査の課題

本節では、3-2 でまとめたヒアリング調査の結果から、自治体による既存の幸福感調査の課題を明らかにする。

まず、各自治体が幸福感調査を実施する目的について確認する。「府政の指針である『明日の京都』に掲げた施策指標の達成が『府民のしあわせの実感』という『明日の京都』の本質的な目標に適っているかどうかを点検するため（中略）『京都指標』を設定。」（京都府）、「基本理念である『県民幸福量の最大化』の考え方を県民と共有し、効果的な施策につなげるため、県民幸福量を測る総合指標として『県民総幸福量 AKH (Aggregate Kumamoto Happiness)』を作成。」（熊本県）、「（幸福感調査の目的は）区民の皆様が日々の生活のなかで感じていることや地域について実感していることなどを把握し、今後の行政に資すること。」（荒川区）、「兵庫の指針である『21 世紀兵庫長期ビジョン』の実現状況を点検・評価するとともに、今後の政策立案に反映させることをねらいとしている。」（兵庫県）、「アンケート調査において、（中略）『幸福度指標』作成や市の施策等の点検や施策体系の再評価など、総合計画の立体化を測る。」（京丹後市）、「（幸福感調査の目的は）県民の幸福実感と県が進める施策に対する県民ニーズを把握し、今後の県政運営へ反映させること。」（福岡県）といったように、多くの自治体で都市政策の評価や政策立案に反映することが幸福感調査の目的とされている。

このような目的を踏まえ、今回明らかになった課題を、調査の負担に関する課題、調査項目が主観的項目であることによる課題、政策への反映に関する課題、回答者の細かい要望把握に関する課題、その他の課題、の5つに分類した。それぞれの詳細は下記の通りである。

1) 調査の負担に関する課題

1 つ目の課題として、負担の大きさが挙げられる。現在国内の自治体によって実施されている幸福感調査は全てアンケート形式によって実施されており、調査の設問数や標本数にも左右されるがその調査コストは半数の自治体で1回あたり100万円以上、最も高い自治体では500～600万円となっている。「標本抽出に関する負担が大きい。」（兵庫県）、「発送の手間など職員の負担も大きい。」（京丹後市）といったように、ほとんどの自治体で職員の人件費は調査コストに含まれておらず、実際は調査コストに加えて職員の多大な時間が費やされている。京丹後市が「調査を実施する負担の割に、政策への反映が難しい。」と述べているように、調査負担の大きさが調査の効果に見合っていないという実感を持っている自治体が多いようである。

2) 調査項目が主観的項目であることによる課題

2-5 で明らかにしたように、自治体による幸福感調査は海外の主流とは異なり、その調査項目が主に主観的項目により構成されている。しかし、「毎年調査を行ったところで、結果にほとんど変わりはないため、2019 年以降調査を実施していない。」（〇〇町）、「アンケート調査の結果は社会経済情勢など様々な要因に左右される可能性に留意する必要がある。」（三重県）といった意見のように、主観的項目は都市政

策によって大きく変化することは珍しい上に、社会経済情勢により影響される可能性があり、主観的項目だけで都市政策の効果を把握するのは大変難しい。そのため、「主観的な調査だけでは、政策の判断が難しい。政策判断などを行うには、この意識調査の結果だけでなく、地域や社会の状況などについて複眼的に見ていくことが必要である。」(三重県)、「(幸福感調査は)あくまで参考地の一つであり、他の数値も参考にして幸福度の向上方法を考えている。」(荒川区)、「幸福感調査結果だけを重視する形ではなく、他の項目結果と併せて相対的に活用している。」(斜里町)といったように、結局のところ幸福感調査以外の調査結果にも頼らざるを得ないのが現状である。

3) 政策への反映に関する課題

調査項目が主観的項目で構成されていることも一つの原因となり、現在の幸福感調査は都市政策になかなか反映されていない。「町の課題は分かるものの、更に掘り下げた分析はできない。」(〇〇町)、「どの政策によってモニタリング指標の数値が改善されたかまでの分析はできていない。」(門真市)といった意見のように、幸福感調査では都市政策と調査結果の関係性を読み解くことが難しい。この点については森田(2014)¹⁶が、「幸福度指標は代表性が高くコントロール性(＝指標内容の実現手段をどのように想定できるか)が低いという特性を持っており、政策の改善や立案に活用しにくい」と指摘している通りである。結果的に、「調査を実施する負担の割に、政策への反映が難しい。」(京丹後市)、「調査結果を今後のまちづくりの指標・参考として活用していく予定ではあるものの、本調査を基にして実施した施策はない。」(長久手市)、「住民が重点を置いている点の把握に活用しているが、具体的な政策とは結び付けられていない。」(安城市)、「地域ごとに、得点の低いカテゴリーに対して得点を向上する施策を考えるが、どのような施策が必要かについては都度議論している。」(熊本県)といったように、幸福感調査が具体的な都市政策に反映されることは珍しく、結局のところ職員の議論によって都市政策を決定している。また、自治体によっては、幸福感調査を実施する部署と政策を立案する部署が分離しているなどの組織構造の都合により、「各部局に結果を共有するが、結果を使うかどうかは各部局次第。」(京丹後市)といったように調査結果が活かされにくい事例も存在する。

4) 回答者の細かい要望把握に関する課題

また、既存の調査では、回答者に合わせて質問を変えることができないことも課題である。「(調査の課題は)無作為抽出のため、全ての人に全ての質問を聞かなくてはいけない点。年齢や職業が違えば、関わりのある分野は当然かなり違うため、できれば、対象者に応じて質問を変えたい。」(安城市)といった意見のように、無作為抽出した住民に対して一律の質問を課すアンケート形式の調査では、回答者毎に細かい要望を把握するのは難しい。

5) その他の課題

その他の意見としては、「属性によっては回答率が低く、細かい属性を対象に、何を求めているのかを把握することはできない。」(〇〇町)、「1300人ほど回答を得るため、全体としては統計的に信憑性があ

第3章 自治体による既存の幸福感調査の課題

るデータではあるが、属性に細分化していくと各属性の人数はとても少ない（数十人）。そのような少数の意見のみを信じて予算を優先的に使うのが適切なのか、議会での説明が難しい。」（京丹後市）、「無作為抽出でアンケートを送付しているため、高齢者への送付割合が高い。そのうえ、若い方からの返送は少なかったため、若干偏りがある集計となっている。」（門真市）といったように、属性毎の標本数の少なさに問題を感じている意見や、「未回答者の幸福実感は把握できないことから、より多くの県民の皆さんに回答していただけるよう、調査票の設計について専門家の意見も聞きながら改善を続ける必要がある。」

（三重県）、「調査開始から10年近く経過しており、質問項目が時代背景にあっているか、適合しているかを確認しなければならない。」（荒川区）、「質問を時代に合わせて変えていきたいものの、文言によって調査結果が左右されてしまうため、更新が困難。」（兵庫県）といったように、調査票の設計、質問項目、質問の文言に関する意見などが存在する。また、「できれば全国的にやりたいが、県外のサンプル数が足りていない。」（土佐経済同友会）といったように、全国的に共通の幸福感調査を実施したいと願う団体も存在する。

以上のように、現状の幸福感調査では、

- ・調査の負担が大きいこと
- ・主観的項目で都市政策の効果を把握するのは難しく、結局のところ幸福感以外の調査結果に頼っていること
- ・具体的な都市政策に反映することは難しいこと
- ・回答者の細かい要望を把握するのは難しいこと

などの課題が明らかになった。

これらの課題によって幸福感調査の優先度が低下し、「2019年以降調査を実施していない。」（〇〇町）、「2016年度以降も調査をしたいと思っていたが、経費が捻出できない。」（京丹後市）といったように、調査を終了する自治体も存在するが、たとえ調査を継続している自治体でも同様の課題は感じていることが分かった。

3-4. 小括

本章では、幸福感調査を実施している国内自治体へのヒアリング調査を通し、自治体による既存の幸福感調査の課題を明らかにした。

3-1 および 3-2 では、自治体に対するヒアリング調査の概要と結果を説明した。

そして 3-3 では、国内の自治体による幸福感調査において、調査の負担が大きいこと、主観的項目で都市政策の効果を把握するのは難しく結局のところ幸福感以外の調査結果を参考にすること、具体的な都市政策に反映することは難しいこと、回答者の細かい要望を把握するのは難しいこと、など現状の課題が明らかにした。

第4章では、第3章で明らかになった既存の幸福感調査の課題を踏まえ、林らが提唱する『QOL アクセシビリティ法』¹⁸や、日立東大ラボが提案する『ActiveQoL』による都市評価²⁰といった幸福感に基づく新たな都市評価方法と、既存の幸福感調査に基づく都市評価方法とを比較検討し、新たな都市評価方法の有効性を明らかにする。

第4章 幸福感に基づく都市評価方法の比較検討

4-1. 『QOL アクセシビリティ法』

4-2. 『ActiveQOL』による都市評価

4-3. 幸福感に基づく都市評価方法の比較検討

4-4. 小括

第4章 幸福感に基づく都市評価方法の比較検討

本章では、第3章で明らかになった既存の幸福感調査の課題を踏まえ、林らが提唱する『QOL アクセシビリティ法』¹⁸や、日立東大ラボが提案する『ActiveQoL』による都市評価²⁰といった幸福感に基づく新たな都市評価方法と、既存の幸福感調査に基づく都市評価方法とを比較検討し、新たな都市評価方法の有効性を明らかにする。

4-1 では、林らが提唱する『QOL アクセシビリティ法』について紹介した上で、この方法を用いることで第3章にて明らかになった既存の幸福感調査の課題をどれだけ解決できるかの検証を行う。

4-2 では、日立東大ラボのハビタット・イノベーションプロジェクト¹⁹によって提案されている『ActiveQoL』による都市評価について紹介した上で、この方法を用いることで第3章にて明らかになった既存の幸福感調査の課題をどれだけ解決できるかの検証を行う。

4-3 では、既存の幸福感調査に基づく都市評価と、幸福感に基づく新たな都市評価とを比較検討し、新たな都市評価方法の有効性とそれぞれの特徴について考察する。

4-1. 『QOL アクセシビリティ法』

本節では、林らが提唱する『QOL アクセシビリティ法』¹⁸について紹介した上で、この方法を用いることで第3章にて明らかになった既存の幸福感調査の課題をどれだけ解決できるかの検証を行う。

4-1-1. 『QOL アクセシビリティ法』の紹介

『QOL アクセシビリティ法』は、林らが『交通・都市計画のQOL 主流化』¹⁸の中で提唱する、時間短縮、費用節減、交通事故減少の3便益から評価する費用便益分析に代わって、住民のQOL（生活の質）を指標とし、交通事業、都市事業を評価する方法である。住民のQOLの具体的な推定方法は以下の通りである（図5）。

ステップ①：

対象とする都市の表27に記載したデータを収集する（実際には、各プロジェクトにおいてQOLへの影響が大きいと想定されるデータをその都度収集する）。

ステップ②：

収集したデータから、その都市で享受できる各サービスに対して、各属性の住民が感じるであろう認知価値を推定する。なお、収集したデータから認知価値を推定する推定式はあらかじめ作成する。

ステップ③：

享受できる全てのサービスについての認知価値を合計することで住民のQOLを計算する。

以上のように推定した住民のQOLを用いて、交通事業や都市事業の評価を行う。

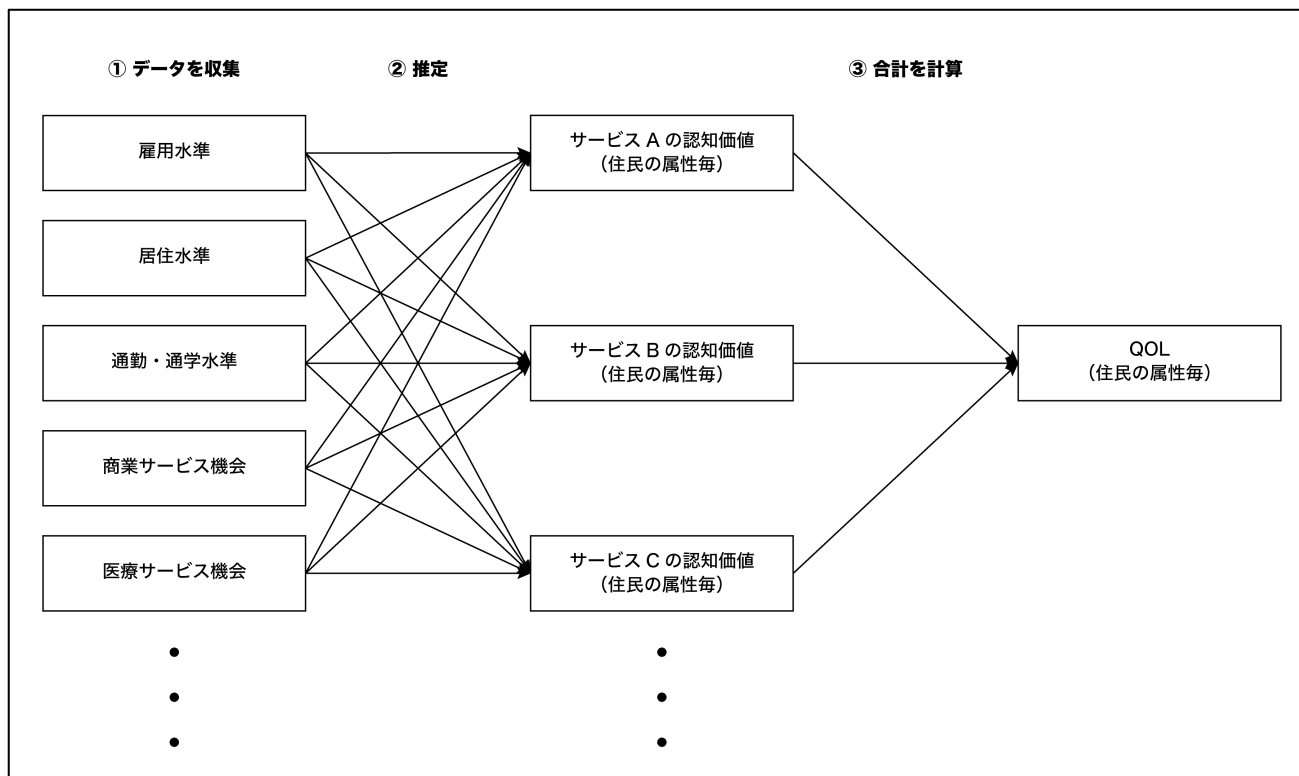


図 5 :『QOL アクセシビリティ法』での QOL の推定方法
『交通・都市計画の QOL 主流化』¹⁸を参考に筆者作成

カテゴリー		項目	具体的内容
生活の質レベル	雇用・経済機会	雇用水準	求人倍率
		居住水準	月々の家賃
		通勤・通学水準	通勤・通学時間
	生活・文化機会	商業サービス機会	買い物先までの所要時間
		医療サービス機会	病院までの所要時間
		都市サービス機会	鉄道駅までの所要時間
	居住快適性	居住環境	一人当たりの住宅の広さ
		自然環境	公園・緑地までの所要時間
		音環境	騒音の大きさ
	安全・安心性	自然災害リスク	自然災害の発生頻度
		交通事故リスク	交通事故に遭遇する頻度
		健康被害リスク	大気汚染の度合
交通手段の質	利便性	所要時間	アクセス時間や待ち時間も含めた移動全体での平均所要時間
		遅れの可能性	渋滞や列車の遅延など、予定していた到着時間から遅れる可能性のある時間
		歩行距離	移動全体の中で、歩く必要がある距離
		乗換回数	乗換の回数
	快適性	自由度	移動中に他のことができるか
		保護度	屋根やエアコンなどにより、天候や暑さ・寒さ、大気汚染などから保護されているか
移動空間 (運転しやすさ)	安全性	事故危険性	移動時に危ないと感じる頻度
		プライバシー	移動時が囲われた空間になっており、同行者のみのプライバシー空間があるか
	費用	料金	移動時にかかる費用
		所要時間	目的地までの平均所要時間
		時間信頼性	混雑に巻き込まれた際に遅れる時間
		車線数	目的地までの経路の車線数
移動空間 (歩きやすさ)	利便性	信号密度	信号密度
		費用	通行料金や自動車維持経費など、移動にかかる費用
		所要時間	目的地までの平均所要時間
	安全性	歩道の幅	障害物がなく通行可能な歩道の幅
		人通り	歩行者の量
		横断箇所数	安全に車道を横断できる箇所数
	快適性	明るさ	夜間照明の有無
		保護度	日射や雨風を防げる屋根の有無
		緑	街路樹の有無
		休憩施設	ベンチや広場、公園など休憩できる場所の有無
		空間利用の多様性	商業活動や路上での露店等の割合

表 27 : 『QOL アクセシビリティ法』で収集するデータ

『交通・都市計画のQOL 主流化』¹⁸⁾を参考に筆者作成

4-1-2. 『QOL アクセシビリティ法』の検証

次に、『QOL アクセシビリティ法』を用いることで、第3章で明らかになった既存の幸福感調査の課題をどれだけ解決できるかの検証を行う。

1) 調査の負担に関する課題

自治体による既存の幸福感調査では、調査コストや職員の多大な時間など、行政への負担が大きいことが課題であった。

それに対して『QOL アクセシビリティ法』では、住宅土地統計調査、施設立地データ、国勢調査といった既存調査のデータのみを収集し、新たな調査は行う必要がないため、行政の負担はかなり軽減される。

2) 質問項目が主観的項目であることによる課題

自治体による既存の幸福感調査では、調査項目が主に主観的項目で構成されていたため、都市政策の効果を把握するのは難しかった。

それに対して『QOL アクセシビリティ法』では、都市政策によって変化する客観的データをそのまま指標項目として用いて QOL を推定しているため、都市政策の効果を把握することが容易である。

3) 政策への反映に関する課題

自治体による既存の幸福感調査では、都市政策と調査結果の関係性を読み解くことが難しく、調査結果を具体的な都市政策に反映させることが困難であった。

それに対して『QOL アクセシビリティ法』では、都市の客観的データと住民の QOL は推定式によって結び付けられているため、QOL を向上させるために具体的にどのような都市政策を実施すべきかが明確である。都市事業を実施した場合の住民の QOL を事前にシミュレートすることなども可能であり、具体的な都市政策の判断を推定結果に基づいて行うことができる。

4) 回答者の細かい要望把握に関する課題

自治体による既存の幸福感調査では、回答者に合わせて質問を変えることができないため、住民一人一人の細かい要望を把握するのは難しかった。

この課題については『QOL アクセシビリティ法』でも、都市における一律の客観的データと、住民の属性毎の推定式を用いて QOL を推定するため、住民一人一人の QOL や要望を把握することは難しい。

5) その他の課題

自治体による既存の幸福感調査ではその他に、標本数の少なさの問題、調査票の設計に関する問題、全国的に共通した調査を実施したいという願いなどが見られた。

『QOL アクセシビリティ法』では、そもそも住民一人一人に調査を実施する訳ではないため、標本数や調査票の設計に関する問題は発生しない。また、『QOL アクセシビリティ法』の有効性が認められれば、全国に共通した方法として実施される可能性もある。

以上のように、第3章で明らかになった既存の幸福感調査の課題のうち、『QOL アクセシビリティ法』では多くの課題を解決できることが分かった。特に、行政の負担が小さい点や、具体的な都市政策の効果を事前にシミュレートできるなど、都市政策の判断に大いに活きる点が『QOL アクセシビリティ法』の長所だと言える。一方で、ステップ①で収集する住宅土地統計調査、施設立地データ、国勢調査などのデータは、5年に1回や10年に1回という低頻度の調査で収集されることも稀ではなく、QOLの推定に用いるデータが一時代前のものである可能性が高いことは短所と言えるかもしれない。

4-2. 『ActiveQoL』による都市評価

本節では、筆者が参画する日立東大ラボ（「超スマート社会」の実現を目指し、スマートシティとエネルギー政策について研究する産学共創の研究組織）のハビタット・イノベーションプロジェクト¹⁹で提案されている『ActiveQoL』による都市評価²⁰について紹介した上で、この方法を用いることで第3章にて明らかになった既存の幸福感調査の課題をどれだけ解決できるかの検証を行う。

4-2-1. 『ActiveQoL』による都市評価の紹介

まず、日立東大ラボが『ActiveQoL』を提案した目的について説明する。背景で述べたように、今後の都市計画分野においては、幸福感調査の重要性が益々高まっていくと予想される。そこで日立東大ラボでは、住民の幸福感や生活の質を直接指標化し、都市を評価する方法の確立を目指している。

日立東大ラボでは、住民の幸福感を推定する手段として、人々の活動満足度に着目した。人々の人生は活動の積み重ねであり、活動満足度は幸福感に大きな影響を与えると考えたからである。そこで、活動満足度を測る方法として、理想の活動と実際の活動のギャップから計算した指標『ActiveQoL』を開発した。

活動から住民の幸福感を推定する具体的な方法は以下の通りである（図6）。

ステップ①：

住民の活動嗜好（理想の活動）をアンケートによって調査する。

ステップ②：

位置情報や加速度などによって実際の活動内容を測定できるウェアラブルデバイスを住民に装着させ、住民の実際の活動データを常時収集する。この時、実際の活動データには、活動時間（何時間活動したか）、活動環境（どこで活動したか）、活動同伴者（誰と活動したか）などが含まれる。

ステップ③：

アンケートによって調査した活動嗜好とウェアラブルデバイスによって収集した実際の活動データのギャップから、住民一人一人の各活動の活動満足度『ActiveQoL』を計算する。なお、活動嗜好と実際の活動データのギャップから『ActiveQoL』を計算する計算式はあらかじめ作成する。

ステップ④：

各活動の『ActiveQoL』から住民一人一人の幸福感を推定する。なお、各活動の『ActiveQoL』から幸福感を推定する推定式はあらかじめ作成する。

以上のように推定した幸福感を用いて、都市を評価する。

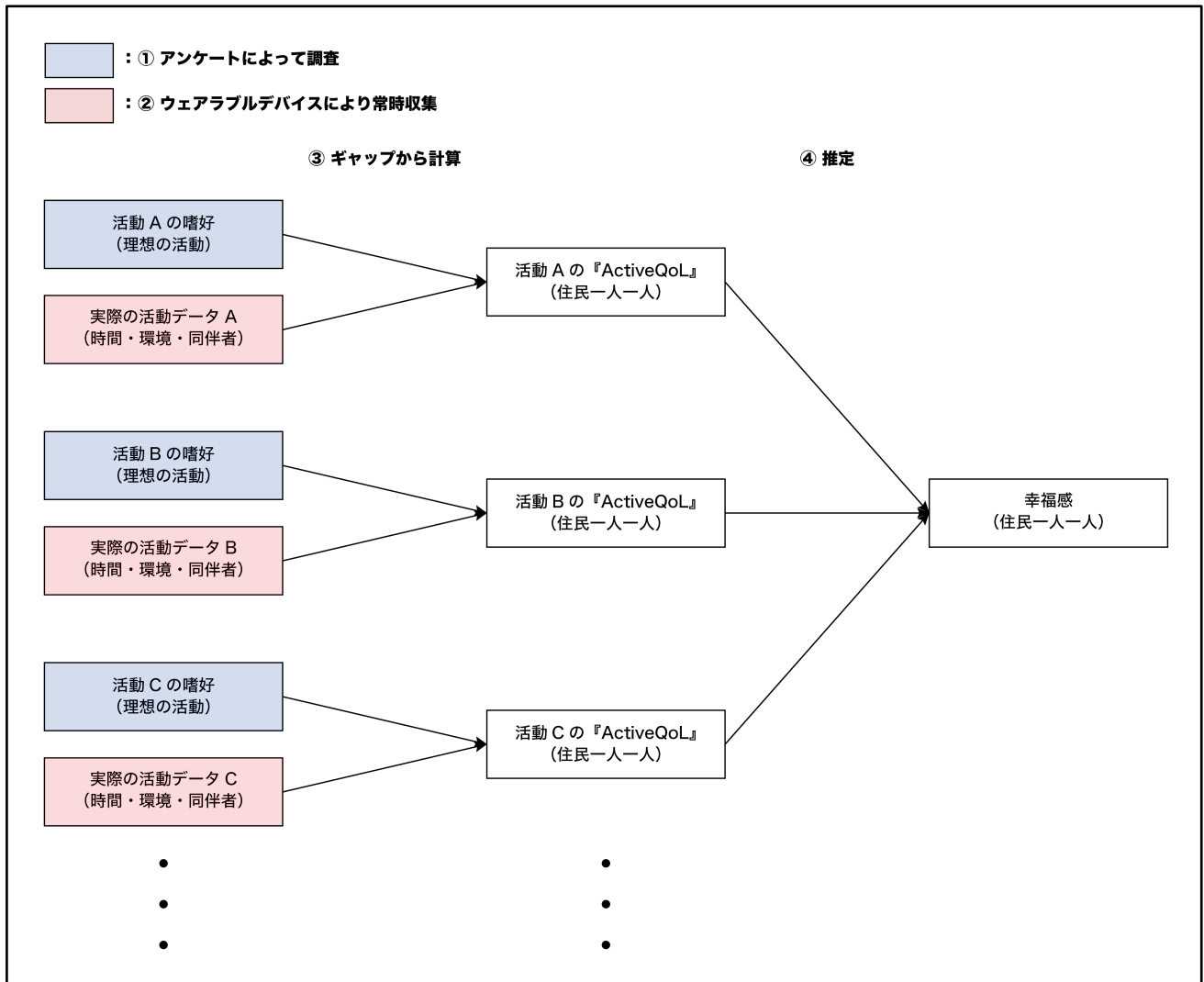


図 6 :『ActiveQoL』による都市評価での幸福感の推定方法

筆者作成

4-1-2. 『ActiveQoL』による都市評価の検証

次に、『ActiveQoL』による都市評価を用いることで、第3章で明らかになった既存の幸福感調査の課題をどれだけ解決できるかの検証を行う。

1) 調査の負担に関する課題

自治体による既存の幸福感調査では、調査コストや職員の多大な時間など、行政への負担が大きいことが課題であった。

今回の検証では、既存の幸福感調査との負担の比較を行うため、『ActiveQoL』による都市評価にかかる費用を概算する。『ActiveQoL』による都市評価では、ステップ①で住民の活動嗜好を把握するアンケート調査に、ステップ②で活動内容や健康状態を測定できるウェアラブルセンサーの配布に費用が発生する。自治体による既存の幸福感調査は標本数の平均がおよそ5,000人、回答率が50%であることを考慮し、ステップ①では5,000人に対してアンケート調査、ステップ②ではアンケートに回答した2,500人の住民にウェアラブルセンサーを配布すると仮定する。また、ステップ①のアンケート調査は住民の活動嗜好が変化しない限りは繰り返し行う必要はないため、およそ5年に1回実施するものとし、ウェアラブルセンサーの寿命は市販されているウェアラブル端末を参考に5年間と仮定する。すなわち、5年ごとにステップ①のアンケート調査とステップ②のウェアラブルセンサーの配布を実施することになる。ステップ①のアンケート調査の費用は、既存の幸福感調査の平均的なコストである1回あたり200万円とした。ステップ②のウェアラブルセンサーの費用は、現在市販されている活動量や心拍数などを記録できるウェアラブル端末の相場を参考に、1端末あたり5,000円とした。今回の概算では、
アンケート調査 200 万円 + ウェアラブルデバイス 5,000 円 × 2,500 端末 = 1,450 万円
が5年ごとに発生するという結果になった。自治体による既存の幸福感調査では、調査コストが年間200万円程度であるもののコスト以外にも職員の時間も費やされているとの声が多く聞かれており、『ActiveQoL』による都市評価で行政にかかる負担はさほど変わらないと考えられる。

2) 質問項目が主観的項目であることによる課題

自治体による既存の幸福感調査では、調査項目が主に主観的項目で構成されていたため、都市政策の効果を把握するのは難しかった。

それに対して『ActiveQoL』による都市評価では、都市政策によって変化する住民の客観的な活動データを指標項目として用いて幸福感を推定しているため、都市政策の効果を把握することが容易である。

3) 政策への反映に関する課題

自治体による既存の幸福感調査では、都市政策と調査結果の関係性を読み解くことが難しく、調査結果を具体的な都市政策に反映させることが困難であった。

それに対して『ActiveQoL』による都市評価では、都市政策によって変化する住民の活動データと住民の幸福感は推定式によって結び付けられている。そのため、幸福感を向上させるためにはどのような活動が必要か、その活動を促すためにはどのような都市政策を実施すべきかといったように、調査結果を都市政策にまで反映させることが可能である。

4) 回答者の細かい要望把握に関する課題

自治体による既存の幸福感調査では、回答者に合わせて質問を変えることができないため、住民一人一人の細かい要望を把握するのは難しかった。

それに対して『ActiveQoL』による都市評価では、住民一人一人の活動嗜好と実際の活動データとのギャップから幸福感を推定しており、住民一人一人の細かい要望まで把握した上で都市を評価できると言える。

5) その他の課題

自治体による既存の幸福感調査ではその他に、標本数の少なさの問題、調査票の設計に関する問題、全国的に共通した調査を実施したいという願いなどが見られた。

『ActiveQoL』による都市評価でも、標本数の少なさの問題や調査票の設計に関する問題は既存の幸福感調査と同様に発生する。しかし、仮に有効性が認められれば、全国に共通した方法として実施される可能性もあるだろう。

以上のように、『ActiveQoL』による都市評価においても、第3章で明らかになった既存の幸福感調査の課題のうち多くを解決できることが分かった。特に、住民一人一人の活動嗜好を収集しており、一人一人の細かい要望を把握できる点は『ActiveQoL』による都市評価の長所である。また、既存の幸福感調査では調査の実施が年1回、『QOL アクセシビリティ法』では5～10年に1回という低頻度の調査のデータに基づいてQOLを推定しているのに対し、『ActiveQoL』による都市評価では、常時収集している住民の活動データから継続的に幸福感を推定できるため、都市政策の実施中にフィードバックを行うなど短期間でPDCAサイクルを回すことができるという点も長所と言える。

4-3. 幸福感に基づく都市評価方法の比較検討

本節では、既存の幸福感調査に基づく都市評価、『QOL アクセシビリティ法』¹⁸、『ActiveQoL』による都市評価²⁰の3つの都市評価方法を比較検討し、新たな都市評価方法の有効性について考察する。

4-1, 4-2 で行なった『QOL アクセシビリティ法』および『ActiveQoL』による都市評価の検証を踏まえ、既存の幸福感調査に基づく都市評価、『QOL アクセシビリティ法』、『ActiveQoL』による都市評価の3つの都市評価方法を比較したものが表 28 である。比較する項目には第3章で明らかになった既存の幸福感調査の課題を中心に、幸福感の正確性、行政の負担、政策への反映、頻度、一人一人の要望把握を設定した。

幸福感の正確性とは、調査または推定する幸福感が、住民の実際の幸福感にどれほど近いかを表している。既存の幸福感調査では、実際に住民に対してアンケート調査を行い幸福感を質問しているため、正確性は高いと考えられる。『QOL アクセシビリティ法』では、都市における客観的なデータから幸福感を推定しているが、住民の属性ごとの推定幸福感を出しているに過ぎない。『ActiveQoL』による都市評価では、活動嗜好と実際の活動データから住民一人一人の幸福感を推定しており、アンケート調査ほどではないものの幸福感の推定精度は高いと考えられる。

行政の負担とは、幸福感の調査または推定にかかる費用および職員の時間のことである。既存の幸福感調査では、年間 200 万円程度、高い場合は 600 万円程度の費用と職員の多大な時間がかかる。『QOL アクセシビリティ法』では、既存調査のデータを収集するため、費用はほとんどかからない。『ActiveQoL』による都市評価では、アンケート費用およびウェアラブルセンサーに年間 290 万円ほどの費用がかかると概算した。

政策への反映とは、調査結果を具体的にどれだけ反映しやすいかを表している。既存の幸福感調査では、主に主観的項目で構成されていることが原因となり、ほとんどの自治体で調査結果を具体的な都市政策に反映することができていない。『QOL アクセシビリティ法』では、都市の客観的データと QOL とが推定式で結び付けられており、QOL を向上させるためにどのような都市政策を実施すべきかが明確である。また、事前に都市政策の効果をシュミレートすることも可能で、調査結果を大変有効に活用することができる。『ActiveQoL』による都市評価でも、都市政策によって変化する住民の活動データと住民の幸福感が推定式によって結び付けられているおり、調査結果を具体的な政策に反映することができる。

頻度とは、幸福感の調査または推定をどれほどの頻度で実施できるかを表している。既存の幸福感調査では、調査負担が大きいため、どの自治体でも年 1 回以下の頻度に留まっている。『QOL アクセシビリティ法』では、収集する都市のデータが 5 年に 1 回や 10 年に 1 回調査されるものであることも珍しくなく、住民の現下の幸福感を推定できることはほとんどないだろう。『ActiveQoL』による都市評価では、住民の活動データを常時収集しているため、都市政策の実施後すぐまたは実施中にも幸福感の変化を推定でき、短期間で PDCA サイクルを回すことができる。

一人一人の要望把握とは、住民一人一人の細かい要望を把握できるかを表している。既存の幸福感調査では、一律の質問項目を回答者全員に課す他無く、一人一人の細かい要望は把握できない。『QOL アクセシビリティ法』でも、都市における一律のデータと住民の属性毎の推定式を用いて QOL を推定するため、住民一人一人の要望を把握することはできない。『ActiveQoL』による都市評価では、住民一人一人の活動嗜好と実際の活動データとのギャップから幸福感を推定しており、住民一人一人の細かい要望まで把握した上で都市を評価できると言える。

以上のように、幸福感に基づく新たな都市評価方法は、既存の幸福感調査に基づく都市評価方法と比べて多くの点で優れていることが明らかになった。一方で、『QOL アクセシビリティ法』と『ActiveQoL』による都市評価のどちらを用いるかについては、自治体の財政的状況や幸福感調査を実施する目的などによって判断する必要があるだろう。例えば、行政にかかる負担を最小限にとどめたい場合や、事前にシミュレーションなどを行い都市政策の効果を予測したい場合は、『QOL アクセシビリティ法』を用いることが望ましい。対して、『SDGs (Sustainable Development Goals)』¹²や『Society 5.0』¹³の理念に沿って一人一人の要望を反映した都市評価を行いたい場合や、都市政策のフィードバックをリアルタイムに行うなど短期間でPDCA サイクルを回したい場合などは、『ActiveQoL』による都市評価を用いることが望ましい。

	幸福感の正確性	行政の負担	政策への反映	頻度	一人一人の要望把握
既存の幸福感調査に基づく都市評価	◎	△	×	△	△
『QOLアクセシビリティ法』	△	◎	◎	×	△
『Activity QoL』による都市評価	○	△	○	◎	◎

表 28：都市評価方法の比較
筆者作成

4-4. 小括

本章では、第3章で明らかになった既存の幸福感調査の課題を踏まえ、林らが提唱する『QOL アクセシビリティ法』¹⁸や、日立東大ラボが提案する『ActiveQoL』による都市評価²⁰といった幸福感に基づく新たな都市評価方法と、既存の幸福感調査に基づく都市評価方法とを比較検討し、新たな都市評価方法の有効性を明らかにした。

4-1 では、林らが提唱する『QOL アクセシビリティ法』が、既存の幸福感調査の課題の多くを解決できることが分かった。特に、行政の負担が小さい点や、都市政策の判断に大いに活きる点が『QOL アクセシビリティ法』の長所だと言える。

4-2 では、日立東大ラボのハビタット・イノベーションプロジェクト¹⁹によって提案されている『ActiveQoL』による都市評価についても、既存の幸福感調査の課題の多くを解決できることが分かった。特に、一人一人の細かい要望を把握できる点や、都市政策の実施中にフィードバックを行うなど短期間でPDCA サイクルを回すことができるという点が『ActiveQoL』による都市評価の長所だと言える。

4-3 では、既存の幸福感調査に基づく都市評価と幸福感に基づく新たな都市評価を比較検討した結果、新たな都市評価方法は、既存の幸福感調査に基づく都市評価方法と比べて多くの点で優れていることが明らかになった。ただし、『QOL アクセシビリティ法』と『ActiveQoL』による都市評価のどちらを用いるかについては、自治体の財政的状況や幸福感調査を実施する目的などによって判断する必要がある。行政にかかる負担を最小限にとどめたい場合や、事前にシミュレーションなどを行い都市政策の効果を予測したい場合は、『QOL アクセシビリティ法』を用いることが望ましい。対して、『SDGs (Sustainable Development Goals)』¹²や『Society 5.0』¹³の理念に沿って一人一人の要望を反映した都市評価を行いたい場合や、都市政策のフィードバックをリアルタイムに行うなど短期間でPDCA サイクルを回したい場合などは、『ActiveQoL』による都市評価を用いることが望ましい。近年開発が進むスマートシティでは、従来の長期的都市事業だけでなく、短期的なPDCA サイクルを必要とするソフトな取り組みが増加していること、近年では人々の多様な価値観への対応が社会的に求められており、住民一人一人の価値観に応じた都市評価が必要となること、などを鑑みると、『ActiveQoL』による都市評価は今後の都市計画分野において大変有効な都市評価方法である。

第5章では、幸福感に基づく新たな都市評価方法のうち『ActiveQoL』による都市評価の実現に向けて、その要件を明らかにする。

第5章 『ActiveQoL』による都市評価の要件

5-1. アンケート調査の概要

5-2. 結果の分析および考察

5-3. 『ActiveQoL』による都市評価の要件

5-4. 小括

第4章で有効性が認められた住民の幸福感に基づく新たな都市評価方法の実現に向けて、これらの方法の要件を明らかにする必要がある。『QOL アクセシビリティ法』¹⁸の要件については『交通・都市計画のQOL 主流化』¹⁸の中で詳しく述べられているため、本章では『ActiveQoL』による都市評価²⁰の要件を明らかにする。具体的には、活動満足度『ActiveQoL』の計算および幸福感の推定の際にどのようなデータが必要か、計算式および推定式の係数はいくつになるのかについて明らかにする。

なお、2-4で述べたように、幸福感の規定要因として既往研究では、デモグラフィックデータ、サイコグラフィックデータ、健康状態、活動傾向、周囲の環境、他人との関係の6つのカテゴリーが挙げられている。そこで本研究では、幸福感の推定にあたって、活動満足度『ActiveQoL』だけでなく、住民の健康状態も変数として用いることを検討する。また、住民のデモグラフィックデータおよびサイコグラフィックデータによって健康状態および活動満足度が幸福感に与える影響が異なる可能性を考え、デモグラフィックデータおよびサイコグラフィックデータを媒介変数として用いることも検討する。活動満足度『ActiveQoL』の計算にあたっては、住民の活動のうち、活動内容（どのような活動をしたか）、周囲の環境（どこで活動したか）、他人との関係（誰と活動したか）のそれぞれが活動満足度に影響を与えているという仮説を立て、活動満足度『ActiveQoL』の計算に、活動内容、活動時の周囲の環境、活動時の他人との関係の3つに対する満足度を変数として用いることを検討する。また、活動満足度『ActiveQoL』の計算についても、デモグラフィックデータおよびサイコグラフィックデータを媒介変数として用いることも検討する。以上で述べた本章で検討する諸変数の関係を図に示したものが図7である。これらの変数の関係を把握するため、アンケート調査を実施した。

5-1では、活動満足度『ActiveQoL』の計算および幸福感の推定にあたって、変数間の関係を把握するために実施したアンケート調査の概要を説明する。

5-2では、実施したアンケート調査の結果を分析し、変数間の関係について考察する。

5-3では、変数間の関係についての考察を踏まえ、『ActiveQoL』による都市評価の要件、具体的には、活動満足度『ActiveQoL』の計算および幸福感の推定の際にどのようなデータが必要か、計算式および推定式の係数はいくつになるのかについて明らかにする。

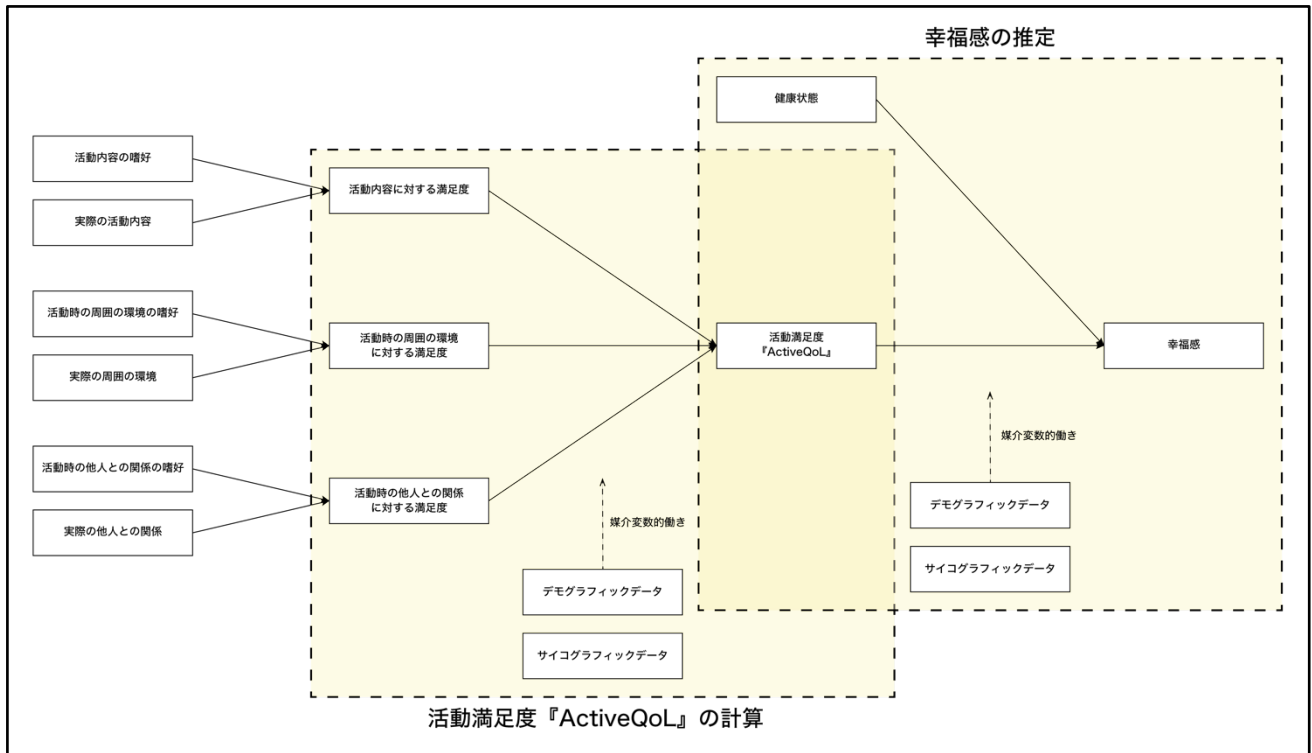


図 7：本章で検討する諸変数の関係
筆者作成

5-1. アンケート調査の概要

本節では、活動満足度『ActiveQoL』の計算および幸福感の推定にあたって、変数間の関係を把握するために実施したアンケート調査の概要を説明する。

1) 調査目的

『ActiveQoL』による都市評価²⁰の実現に向けて、活動満足度『ActiveQoL』の計算および幸福感の推定の際にどのようなデータが必要か、計算式および推定式の係数はいくつになるのかについて明らかにするため、幸福感、健康状態、活動満足度、活動内容に対する満足度、周囲の環境に対する満足度、他人との関係に関する満足度、デモグラフィックデータ、サイコグラフィックデータの関係性を把握すること。

2) 調査対象

調査予算の都合から機縁法により56名の回答者に対してアンケート調査を実施した。回答者の属性分布は表29の通りで20代の回答者が多くなっている。

3) 調査時期

2021年12月。

4) 調査方法

クアルトリクス社⁵⁶によるオンラインアンケートフォームサービスを利用し、回答者にアンケートAおよびアンケートBを配布した。アンケートAは回答者のサイコグラフィックデータおよびサイコグラフィックデータを調査するためのもので、回答者は任意の日時に1回のみ回答した。アンケートBは回答者の幸福感、1日の健康状態、各活動の活動満足度、活動内容の満足度、周囲の環境の満足度、他人との関係の満足度を調査するためのもので、回答者は任意の14日間の就寝前に計14回回答した。

5) 調査項目

アンケートAでは、回答者のデモグラフィックデータおよびサイコグラフィックデータに関する以下の項目を調査した。

- ・「性別」（男性 / 女性 / その他）
- ・「同居している家族構成」（単身 / 夫婦 / 子供と同居 / 親と同居 / 親族と同居 / その他）

⁵⁶ クアルトリクス, クアルトリクス, 2021, <https://www.qualtrics.com/jp/>

- ・「職業」（正規の職員・従業員 / 派遣社員 / パート・アルバイト / 会社などの役員 / 自営業主 / 家族従業者（農作業や店の仕事などを手伝っている家族） / 家庭内の賃作業（内職） / 学生 / その他）
- ・「性格タイプ」（エニアグラム 90 問回答式チェック⁵⁷による「タイプ 1」～「タイプ 9」のいずれか、各タイプの特徴の抜粋は表 30 の通りである。）

アンケート B では、回答者の幸福感、1 日の健康状態、各活動の活動満足度、活動内容の満足度、周囲の環境の満足度、他人との関係の満足度に関する以下の項目を調査した。

- ・『SWLS (Satisfaction with Life Scale)』²³
- ・『PANAS (Positive and Negative Affect Schedule)』²⁴
- ・1 日の「健康状態」（10 件法）
- ・回答した 1 日の各活動についての「活動の継続時間」
- ・回答した 1 日の各活動についての「活動満足度」（10 件法）
- ・回答した 1 日の各活動についての「活動内容の満足度」（10 件法、活動を行なった場所・環境や一緒に活動を行なった人を考慮せず、活動内容のみの満足度を指す。）
- ・回答した 1 日の各活動についての「活動を行なった場所・環境の満足度」（10 件法）
- ・回答した 1 日の各活動についての「初めて行く場所での活動だったか否か」
- ・回答した 1 日の各活動についての「一緒に活動を行なった人に対する満足度」（10 件法）
- ・回答した 1 日の各活動についての「初対面の人との活動だったか否か」

	10代	20代	30代	40代	50代	合計
男性	0	32	0	0	1	33
女性	1	20	0	0	1	22
その他	0	1	0	0	0	1
合計	1	53	0	0	2	56

表 29：回答者の属性分布

⁵⁷ 日本エニアグラム協会, 90 問回答式チェック, 2021, <https://www.enneagram.ne.jp/about/diagnosis/dns01>

第5章 『ActiveQoL』による都市評価の要件

タイプ	特徴
タイプ1	<p>改革する人</p> <p>このタイプの人は、いつも自分の理想に向かって努力します。何事によらず、きちんとしていることが大切で、何かもっと良いやり方があるのではないかと考えて、改善しようとしています。周りを良くしていこう、自分を向上させようという努力を惜しみません。常に公正と正義を心がけています。</p> <p>しかし、物事は必ずしもあるべき姿ではないので、よく憤慨します。何をしても、もっとよくできる苦悩のにでていないと思ひ、自分を責め、あさすべきだ、こうしなければ、と自分を駆り立てます。時間は幾らあっても足りないと感じています。</p> <p>でも、外見からは冷静に見えて、心の中に秘めた怒りを人前に出すことは滅多にありません。正面で、率直で、人と公平に接しようと努め、日常に根差しながら、より良い人生を目指して歩き続けます。</p>
タイプ2	<p>人を助ける人</p> <p>このタイプの人は、何か困っている人がいると、直ぐにその人のそばに行つて手を貸そうとします。親切で、温かく、心細やかなので、困ったり悩んだりしている人には救いの手を差し伸べないではいられません。</p> <p>何時も、人を助けて上げたい、必要を満たして上げたいという気持ちで行動しています。しかし、相手がそれを必要としないと分かると落ち込み、自分の行為に対して感謝されないと怒ります。自分に良い感情をもって貰うために、自分の欲求や欲望は犠牲にして、他人の面倒を見ようとしてします。他の人に変を注ぎ、その代償として自分を愛して貰おうとするのです。</p> <p>心が通じ合うこと、コミュニケーションが上手くいくことが、人間関係でとても大切だと考えています。世の中のためになろうとする点では、他のタイプの人よりも個人的で、それを人と人との間でやろうとします。</p>
タイプ3	<p>達成する人</p> <p>このタイプの人は、成功することが最も好きで、成功のために手段を選びません。何時もはっきりした目的、目標をもっていて、その達成のためにはどうしたらよいかを考えています。成功、達成を願っています。</p> <p>その反面として、失敗を極度に恐れるので、成功がおぼつかないものは極力避けようとしています。自分の周りにいる人たちのもつ才能をバツと見抜き、皆を励まし、目標の達成へと導く、優れたリーダー、ボスになって、組織力を発揮します。</p> <p>成功することが大事ですから、時間を有効に使い、あらゆることを効率的にしようとしてします。一見するとタイプ1に近い感じがしますが、自分の可能性を開花させ、開発させたい傾向が強く現れます。積極的に世の中に出て行きます。</p>
タイプ4	<p>個性的な人</p> <p>このタイプの人は、ユニークで創造的で、独創的で、何よりも感動を大切にします。芸術的で、行動的でもあり、平凡であること、人と同じであることを嫌う傾向があります。感受性が鋭く、人の気持ちに対してとても敏感です。</p> <p>一人ひとりの持つ個性や雰囲気の素晴らしいさに、素早く気づきます。個人主義的で、自己探求的で、自分に対して極めて正直です。大きなグループには入りたがらず、限られた範囲の、自分を理解している人たちとは特別に深いつながりを持ちたいと思っています。</p> <p>自分の感動を大切にし、その感動を、広い意味での芸術的な方法で表わそうとします。一方で、何かにつけて個人的に受け止め、個人的に発表しようとしてします。自分は他人から理解されていないという不満を持っており、他人を嫉妬し、羨望する傾向もあります。</p>
タイプ5	<p>調べる人</p> <p>このタイプの人は、物事をじっくりと考え、データを集め、慎重に行動します。いろいろなことを調べる研究者タイプと言ってもよく、何かことを進めるに当たっては、先ず思考を使い、情報を重視しますが、あまり実際のでない傾向が見られます。</p> <p>該博な知識に通じていますが、自分から積極的に知識を分け与えたり、自分の考えを表現しようとはしません。自分が直接に関わるよりも、傍観者、観察者の役割を果たすことを好みます。沈黙していることが多いので、周囲はしばしば当惑します。</p> <p>何かの分野で専門家になり、時には価値ある独創的な着想を生み出します。自分の興味の対象を追求するあまり、身の回りのことには気が回らず、他のものを犠牲にしても考え、学び、知識を蓄積しようとしてします。</p>
タイプ6	<p>忠実な人</p> <p>このタイプの人は、真面目、誠実であることを大切にし、周りと仲良くしたいという気持ちを一歩強く持っています。何事に対しても忠実で誠実であり、責任感が強く、互いに支えあうシステムややり方で、協力的に、一所懸命に働きます。</p> <p>何事によらず、誤ったことをしてしまうのではないかと不安の感情をもち、不安の感情に対処するために自分の外側にあるものに頼ろうとします。規則や規範を尊び、何かのグループに属しようとし、権威ある人物に従順で、組織から命じられたことは忠実に実行しようとしてします。</p> <p>そのため、自分から積極的に物事を決めることはしようとせず、ずるずると結論を引き延ばす傾向が見られます。豊かな感情の持ち主なので、タイプ2と見誤られることがあります。</p>
タイプ7	<p>熱中する人</p> <p>このタイプの人は、人生を楽しく、明るく過ごしたいという人です。熱中した陶酔感を大切にします。色々のことをやり、人生には多様性があることが欲しいと望んでいます。</p> <p>聡明で、明るく、ざっくばらんで、くつろいだ感じを好み、未来について計画したり、夢を追うのが大好きです。反面で、苦しみや辛さを出来る限り回避しようとしてします。深刻な場面、嫌なことも何となく楽しいものにしてしまします。何時も明るく陽気に振舞います。</p> <p>自分を縛り付けることが嫌いで、人生を楽しみたい、楽しい人生を他人と共有したいと望んでいます。その反面、やや落ち着きに欠けることがあります。</p>
タイプ8	<p>挑戦する人</p> <p>このタイプの人は、自己主張が強く、何事にも第一人者であることを志向します。自分には活火山のような力があるという感じをもっていて、他人には頼らず、正しいと思ったことをどんどん推し進めて行きます。</p> <p>物事を決定する力があり、自信が自然に周囲で感じられます。弱い者、自分を頼ってくる人を助けようとする反面、対立する人、自分に挑んでくる人を排除しようとしてします。強烈な体験を好み、挑戦し、困難を克服することで、自分は生きていると感じます。</p> <p>力によって周りに影響を与え、人を動かすことを好みます。自分の弱さを見せたがらず、自然に備わった力で人を引きつけ、場を盛り上げます。本能的な直感が鋭く、簡潔、明快、率直です。不正は断固として許さず、好き嫌いがはっきりしています。</p>
タイプ9	<p>平和をもちた人</p> <p>このタイプの人は、落ち着いてゆったりとした安定感があります。内面での静けさを保てたいので、葛藤や不快な状況は好きでなく、その状況に遭うと、それを解消しようとしたり、避けようとしたりします。</p> <p>いろいろなことで忙しくすることがありますが、内側では落ち着きを保っています。平和に、円満に暮らすことを好み、自分から事を起すよりも、起こってくることに沿って行こうとします。しかし、一旦動き出せば大きな力を発揮することが出来、創造的になれる人で、想像力やビジョンがあり、かなりの時間、その中で生きていくことができます。</p> <p>平和を愛し、人と争うのが嫌いなため、周囲を穏やかにします。他の人に対する価値判断をしないので、その人たちの間で一緒にいることができます。物事を切り替えたり、新規にやり始めたりするよりは、順当に起伏なく過ごす方が性に合います。</p>

表 30：「性格タイプ」一覧

エニアグラム 90 問回答式チェック ⁵⁷ を参考に筆者作成

5-2. 結果の分析および考察

本節では、実施したアンケート調査の結果について分析し、変数間の関係について考察する。5-2-1では、幸福感の推定に用いる変数間の関係について考察し、5-2-2では更に、活動満足度『ActiveQoL』の計算に用いる変数間の関係について考察する。

5-2-1. 健康状態、活動満足度と幸福感の関係についての分析・考察

まず、健康状態、活動満足度と幸福感の関係について考察する。

1) データの加工

初めに、健康状態、活動満足度と幸福感の関係について分析するため、アンケート結果のデータを加工し、以下の変数を作成した。なお、デモグラフィックデータ、サイコグラフィックデータ、健康状態については、56人分のデータが収集された。活動満足度、認知的幸福感、感情的幸福感については、56名 × 14日 = 784日分のデータを収集されたが、情報が一部欠損しているデータを除いた663日分のデータを利用した。

デモグラフィックデータ

- ・「性別」：アンケート調査の「性別」項目の結果を利用した。
- ・「一人暮らしか否か」：アンケート調査の「同居している家族構成」項目の結果から回答者が一人暮らしか否かを抽出した。

サイコグラフィックデータ

- ・「性格タイプ」：アンケート調査の「性格タイプ」項目の結果を利用した。

認知的幸福感

- ・「SWLS」：アンケート調査の『SWLS (Satisfaction with Life Scale)』²³項目の結果を10点満点に直したものを作成した。

感情的幸福感

- ・「PA」：アンケート調査の『PANAS (Positive and Negative Affect Schedule)』²⁴項目の結果のうち、ポジティブ感情を訪ねる8つ質問の合計値を10点満点に直したものを作成した。
- ・「NA」：アンケート調査の『PANAS (Positive and Negative Affect Schedule)』項目の結果のうち、ネガティブ感情を訪ねる8つ質問の合計値を10点満点に直したものを作成した。

健康状態

- ・「健康状態」：アンケート調査の「健康状態」項目の結果を利用した。

活動満足度

- ・「活動満足度の平均（1日）」：アンケート調査の「活動満足度」、「活動の継続時間」項目の結果から、1日の全活動の活動満足度の平均を作成した。
- ・「活動満足度の平均（起床～1/4日）」：1日の活動のうち、どの時間帯の活動の活動満足度が幸福感に影響を与えるかを調査するため、アンケート調査の「活動満足度」、「活動の継続時間」項目の結果から、起床してから1日の1/4の時間が経過するまでの活動の活動満足度の平均を作成した。
- ・「活動満足度の平均（1/4～2/4日）」：1日の活動のうち、どの時間帯の活動の活動満足度が幸福感に影響を与えるかを調査するため、アンケート調査の「活動満足度」、「活動の継続時間」項目の結果から、1日の1/4の時間が経過してから1日の2/4の時間が経過するまでの活動の活動満足度の平均を作成した。
- ・「活動満足度の平均（2/4～3/4日）」：1日の活動のうち、どの時間帯の活動の活動満足度が幸福感に影響を与えるかを調査するためアンケート調査の「活動満足度」、「活動の継続時間」項目の結果から、1日の2/4の時間が経過してから1日の3/4の時間が経過するまでの活動の活動満足度の平均を作成した。
- ・「活動満足度の平均（3/4～就寝）」：1日の活動のうち、どの時間帯の活動の活動満足度が幸福感に影響を与えるかを調査するためアンケート調査の「活動満足度」、「活動の継続時間」項目の結果から、1日の3/4の時間が経過してから就寝するまでの活動の活動満足度の平均を作成した。
- ・「活動満足度の平均（起床～1/2日）」：1日の活動のうち、どの時間帯の活動の活動満足度が幸福感に影響を与えるかを調査するため、アンケート調査の「活動満足度」、「活動の継続時間」項目の結果から、起床してから1日の1/2の時間が経過するまでの活動の活動満足度の平均を作成した。
- ・「活動満足度の平均（1/2～就寝）」：1日の活動のうち、どの時間帯の活動の活動満足度が幸福感に影響を与えるかを調査するためアンケート調査の「活動満足度」、「活動の継続時間」項目の結果から、1日の1/2の時間が経過してから就寝するまでの活動の活動満足度の平均を作成した。
- ・「活動満足度（最後の活動）」：1日の最後の活動の活動満足度が幸福感に大きな影響を与える可能性があるという仮説のもと、アンケート調査の「活動満足度」項目の結果から、1日の最後の活動の活動満足度を抽出した。
- ・「活動満足度（最高）」：1日の活動うち、活動満足度が最も高かった活動の活動満足度が幸福感に大きな影響を与える可能性があるという仮説のもと、アンケート調査の「活動満足度」項目の結果から、活動満足度が最も高かった活動の活動満足度を抽出した。
- ・「活動満足度（最低）」：1日の活動うち、活動満足度が最も低かった活動の活動満足度が幸福感に大きな影響を与える可能性があるという仮説のもと、アンケート調査の「活動満足度」項目の結果から、活動満足度が最も低かった活動の活動満足度を抽出した。
- ・「活動満足度の平均（3時間以上の活動）」：1日の活動のうち、継続時間が長い活動の活動満足度が幸福感に大きな影響を与える可能性があるという仮説のもと、アンケート調査の「活動満足度」、「活動の継続時間」項目の結果から、継続時間が3時間以上の活動の活動満足度の平均を作成した。
- ・「活動満足度の分散」：1日の活動満足度の上下と幸福感の関係を調査するため、アンケート調査の「活動満足度」項目の結果から、1日の全活動の活動満足度の分散を作成した。

また、「活動満足度の平均（1日）」、「活動満足度の平均（起床～1/4日）」、「活動満足度の平均（1/4日～2/4日）」、「活動満足度の平均（2/4日～3/4日）」、「活動満足度の平均（3/4日～就寝）」、「活動満足度の平均（起床～1/2日）」、「活動満足度の平均（1/2日～就寝）」、「活動満足度（最後の活動）」、「活動満足度（最高）」、「活動満足度（最低）」、「活動満足度の平均（3時間以上の活動）」、「活動満足度の分散」の12変数については、活動に睡眠を含めるものと含めないものの2種類を用意した。これは、意識のない睡眠という活動の満足度が幸福感にどれほど影響を与えるのかを調査するためである。

全19変数のヒストグラム、平均、分散、歪度、尖度および相関係数は図8、表31の通りである。なお、「活動満足度の分散」については、歪度および尖度が高い数値になったため、解析の際にロバスト最尤推定法による配慮をしている。

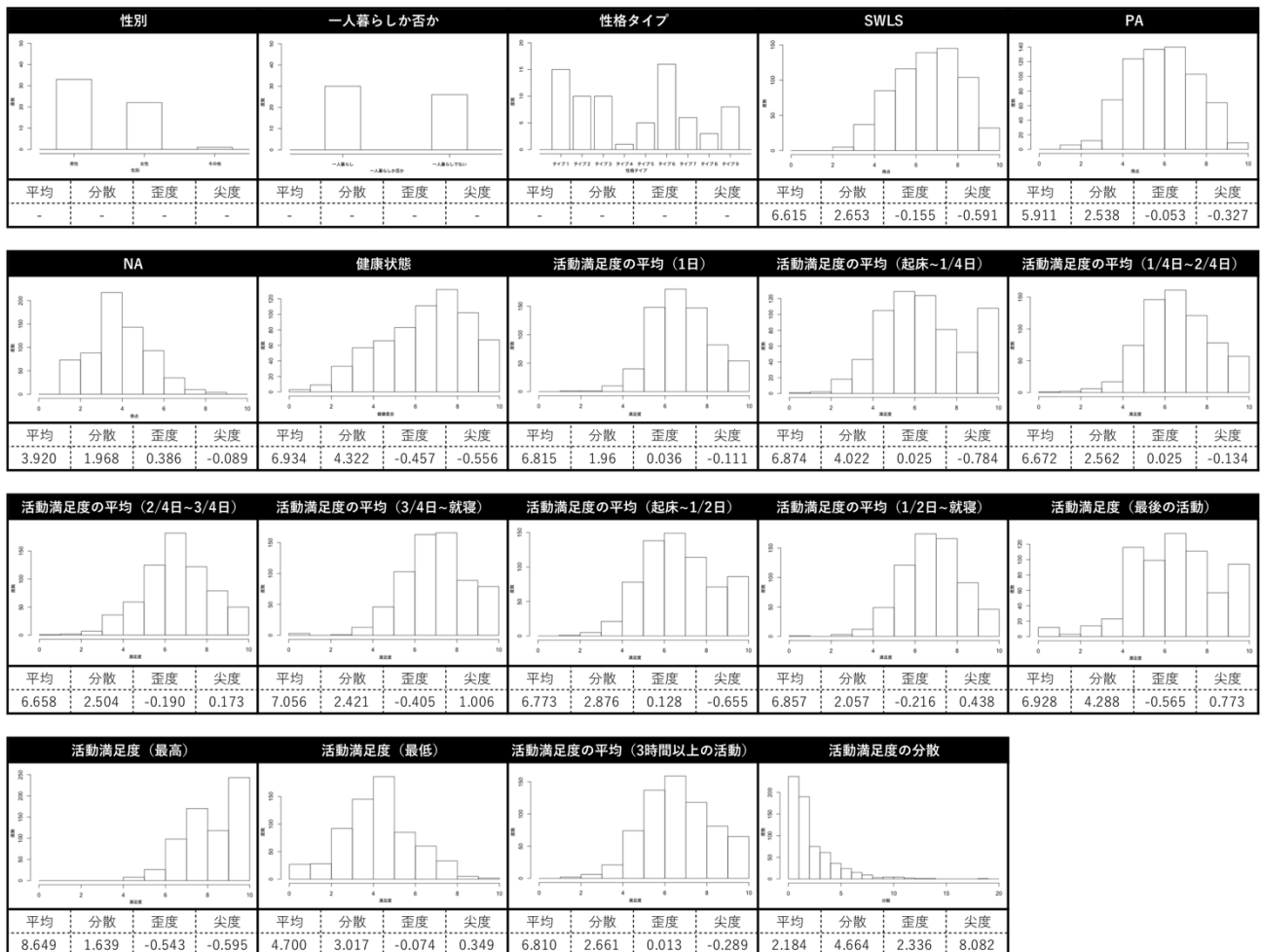


図8：各変数のヒストグラム、平均、分散、歪度、尖度

	SWLS	PA	MA	健康状態	活動満足度の平均 (1日)	活動満足度の平均 (昼間-14日)	活動満足度の平均 (14日-24日)	活動満足度の平均 (24日-34日)	活動満足度の平均 (34日-健康)	活動満足度の平均 (健康-12日)	活動満足度の平均 (12日-健康)	活動満足度 (健康の活動)	活動満足度 (健康)	活動満足度 (健康)	活動満足度の平均 (12時間以上の活動)	活動満足度の分散
SWLS	1.000	0.521	-0.377	0.408	0.601	0.487	0.539	0.489	0.482	0.543	0.531	0.373	0.518	0.383	0.556	0.066
(1日満足度)																
PA	0.521	1.000	-0.344	0.501	0.528	0.373	0.461	0.525	0.413	0.438	0.513	0.293	0.457	0.337	0.492	0.040
(1日満足度)																
MA	-0.377	-0.344	1.000	-0.318	-0.338	-0.279	-0.279	-0.278	-0.287	-0.297	-0.309	-0.138	-0.335	-0.153	-0.312	-0.106
(1日満足度)																
健康状態	0.408	0.501	-0.318	1.000	0.555	0.478	0.489	0.431	0.441	0.513	0.477	0.308	0.482	0.332	0.529	0.028
(1日満足度)																
活動満足度の平均 (1日-健康)	0.601	0.528	-0.338	0.555	1.000	0.822	0.902	0.791	0.807	0.912	0.874	0.620	0.714	0.332	0.935	-0.043
活動満足度の平均 (14日-14日)	0.487	0.373	-0.279	0.478	0.822	1.000	0.766	0.395	0.481	0.953	0.479	0.422	0.563	0.465	0.871	0.055
活動満足度の平均 (14日-24日)	0.539	0.461	-0.279	0.489	0.902	0.766	1.000	0.631	0.587	0.925	0.667	0.470	0.618	0.579	0.856	-0.019
活動満足度の平均 (24日-34日)	0.489	0.525	-0.278	0.431	0.791	0.395	0.631	1.000	0.671	0.532	0.916	0.500	0.557	0.693	0.693	-0.103
活動満足度の平均 (34日-健康)	0.482	0.413	-0.287	0.441	0.807	0.481	0.587	0.671	1.000	0.561	0.913	0.748	0.643	0.594	0.658	-0.101
活動満足度の平均 (健康-12日)	0.543	0.438	-0.297	0.513	0.912	0.953	0.925	0.532	0.561	1.000	0.598	0.471	0.624	0.919	0.919	0.024
活動満足度の平均 (12日-健康)	0.531	0.513	-0.309	0.477	0.874	0.479	0.667	0.916	0.913	0.598	1.000	0.654	0.480	0.740	0.740	-0.112
活動満足度の平均 (健康の活動)	0.373	0.293	-0.138	0.308	0.620	0.422	0.470	0.500	0.748	0.471	0.654	1.000	0.480	0.276	0.499	-0.187
活動満足度の平均 (健康)	0.518	0.457	-0.335	0.482	0.714	0.563	0.618	0.557	0.643	0.624	0.656	0.480	1.000	0.276	0.552	0.378
活動満足度の平均 (健康の活動)	0.383	0.337	-0.153	0.332	0.663	0.465	0.579	0.588	0.594	0.548	0.647	0.480	0.480	0.276	0.552	-0.617
活動満足度の平均 (健康の活動)	0.556	0.492	-0.312	0.529	0.935	0.871	0.856	0.693	0.658	0.919	0.740	0.499	0.499	0.638	1.000	0.021
活動満足度の分散	0.066	0.040	-0.106	0.028	-0.043	0.055	-0.019	-0.103	-0.101	0.024	-0.112	-0.187	0.378	-0.617	0.021	1.000

表 31：各変数間の相関係数

2) モデルの作成および選定

「SWLS」, 「PA」, 「NA」, 「健康状態」, 「活動満足度の平均 (1 日)」, 「活動満足度の平均 (起床～1/4 日)」, 「活動満足度の平均 (1/4 日～2/4 日)」, 「活動満足度の平均 (2/4 日～3/4 日)」, 「活動満足度の平均 (3/4 日～就寝)」, 「活動満足度の平均 (起床～1/2 日)」, 「活動満足度の平均 (1/2 日～就寝)」, 「活動満足度 (最後の活動)」, 「活動満足度 (最高)」, 「活動満足度 (最高)」, 「活動満足度の平均 (3 時間以上の活動)」, 「活動満足度の分散」の 16 変数について, model1-1, model1-2, model1-3 の 3 つのモデルを作成した (図 9, 10, 11). model1-1 は, 健康状態, 活動満足度と幸福感の関係を調査するシンプルなモデルである. model1-2 と model1-3 は, 活動満足度の変数を細かく分割し, 活動満足度が幸福感に与える影響を詳細に調査するモデルである. model1-2 では, どの時間帯の活動の活動満足度が幸福感に影響を与えるかを調査するための変数を 1 日を 4 分割した「活動満足度の平均 (起床～1/4 日)」, 「活動満足度の平均 (1/4 日～2/4 日)」, 「活動満足度の平均 (2/4 日～3/4 日)」, 「活動満足度の平均 (3/4 日～就寝)」に設定している. 対して, model1-3 では 1 日を 2 分割した「活動満足度の平均 (起床～1/2 日)」, 「活動満足度の平均 (1/2 日～就寝)」に設定している. また, model1-1, model1-2, model1-3 では 1 日の活動に睡眠を含んでいるが, 意識の無い活動である睡眠を活動から除外した model1-4, model1-5, model1-6 の 3 つのモデルを加えて作成した (図 12, 13, 14). 更に, model1-2, model1-3, model1-5, model1-6 に対して, ワールド検定を用いて最適化した model1-7, model1-8, model1-9, model1-10 を作成した (図 15, 16, 17, 18). model1-1～model1-10 の各モデルの特徴をまとめると表 32 の通りである. model1-1, model1-4 について統計解析環境 R のパッケージ lavaan によるパス解析 (最尤推定法), 「活動満足度の分散」を含む model1-2, model1-3, model1-5, model1-6, model1-7, model1-8, model1-9, model1-10 について統計解析環境 R のパッケージ lavaan によるパス解析 (ロバスト最尤推定法) を行なった.

活動に睡眠を含む model1-1, model1-2, model1-3, model1-7, model1-8 と含まない model1-4, model1-5, model1-6, model1-9, model1-10 の CFI および RMSEA を比較すると, 睡眠を含むモデルに比べ睡眠を含まないモデルの方が適合度が高いことが分かる. すなわち, 幸福感を推定する際は活動の満足度に関する変数に睡眠を含まない方が推定の精度が上がる可能性が高い. また, 1 日の活動を 4 つの時間帯に分割した変数を設定している model1-9 と 1 日の活動を 2 つの時間帯に分割した変数を設定している model1-10 を比較すると, model1-10 の方が適合度が高いことが分かる. すなわち, 幸福感を推定する際には, 1 日の活動を 2 つの時間帯に分割した変数を設定する方が精度が上がる可能性が高い. 以上より本研究では, 活動満足度と幸福感の関係を調査するシンプルなモデルである model1-4 と, 活動満足度が幸福感に与える影響を詳細に調査する model1-10 の 2 つのモデルについて考察を行うこととした.

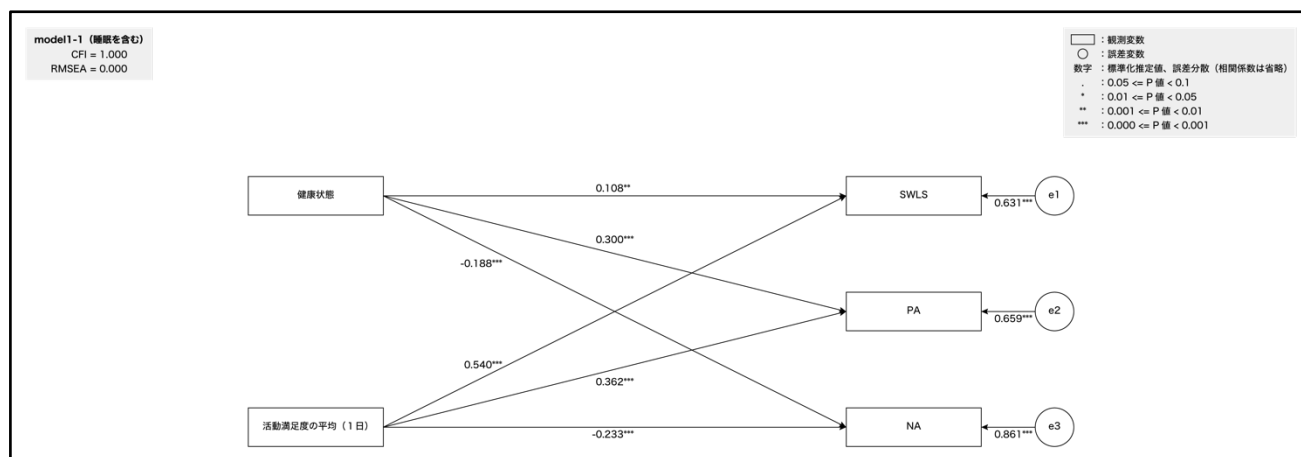


図 9 : model1-1 のパス図

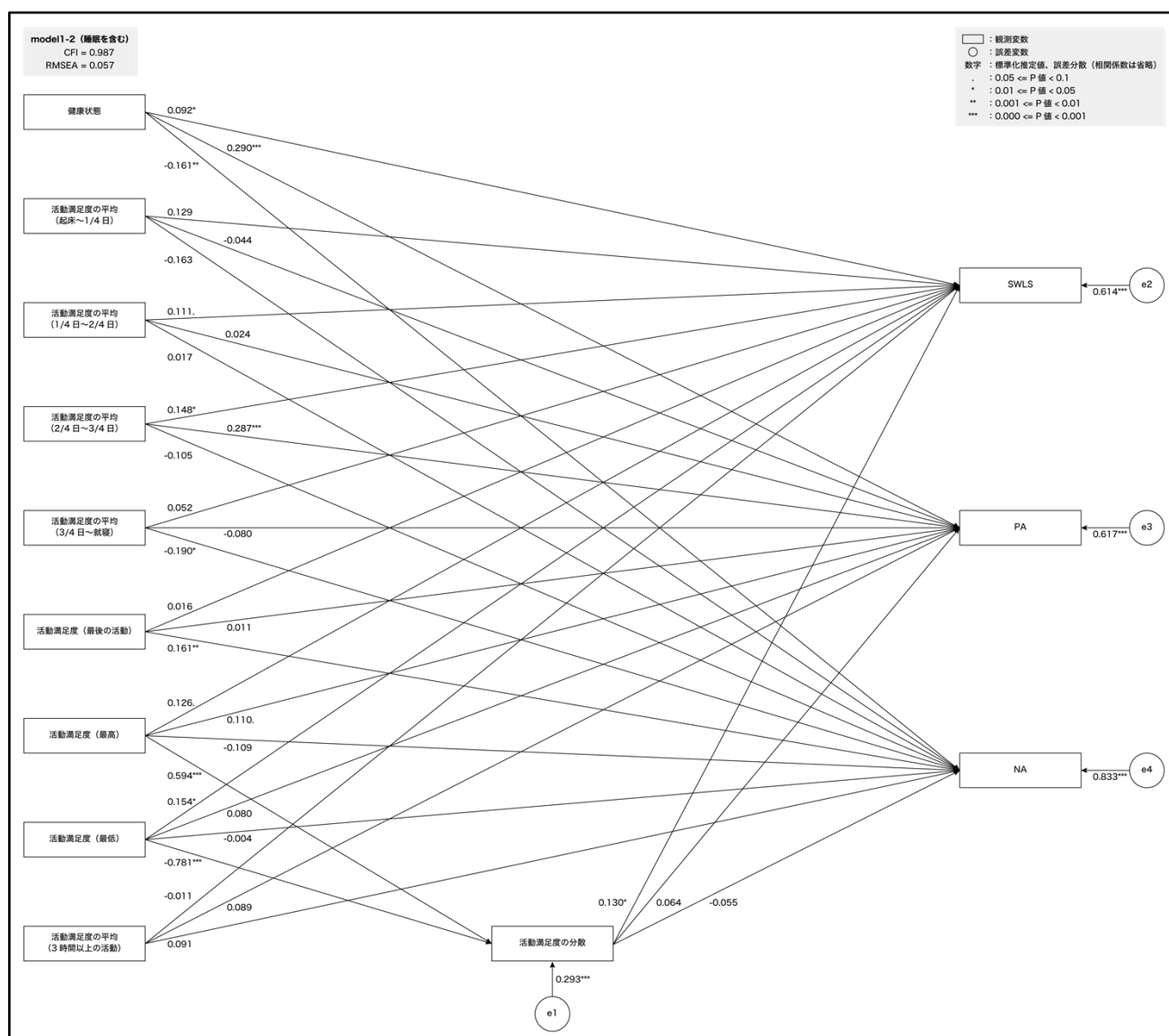


図 10 : model1-2 のパス図

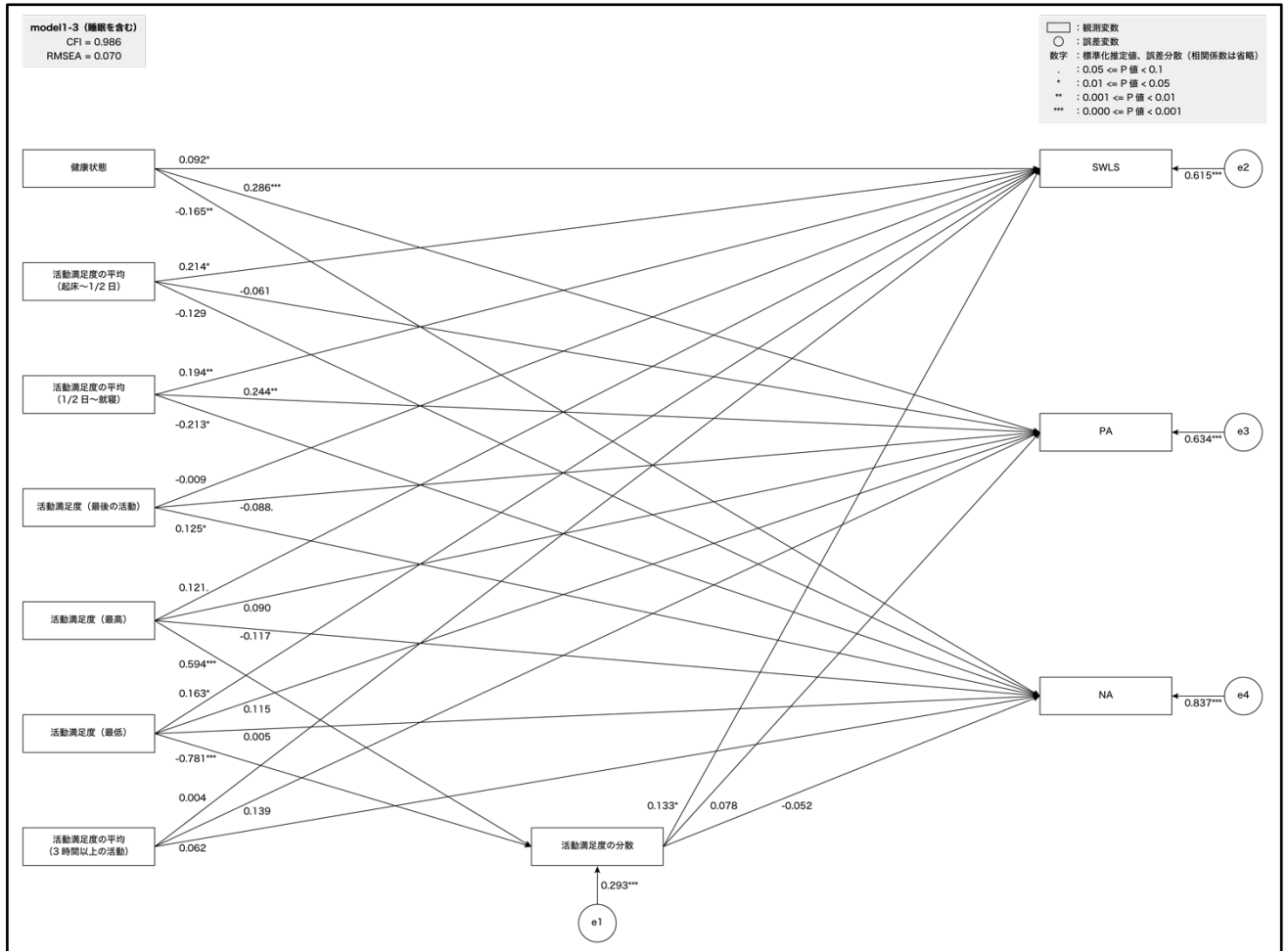


図 11 : model1-3 のパス図

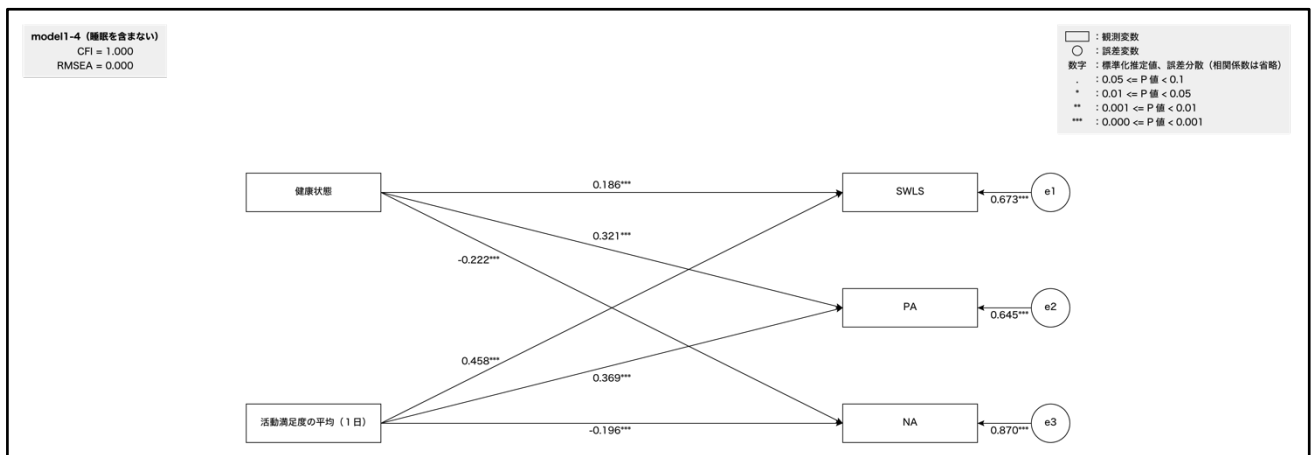


図 12 : model1-4 のパス図

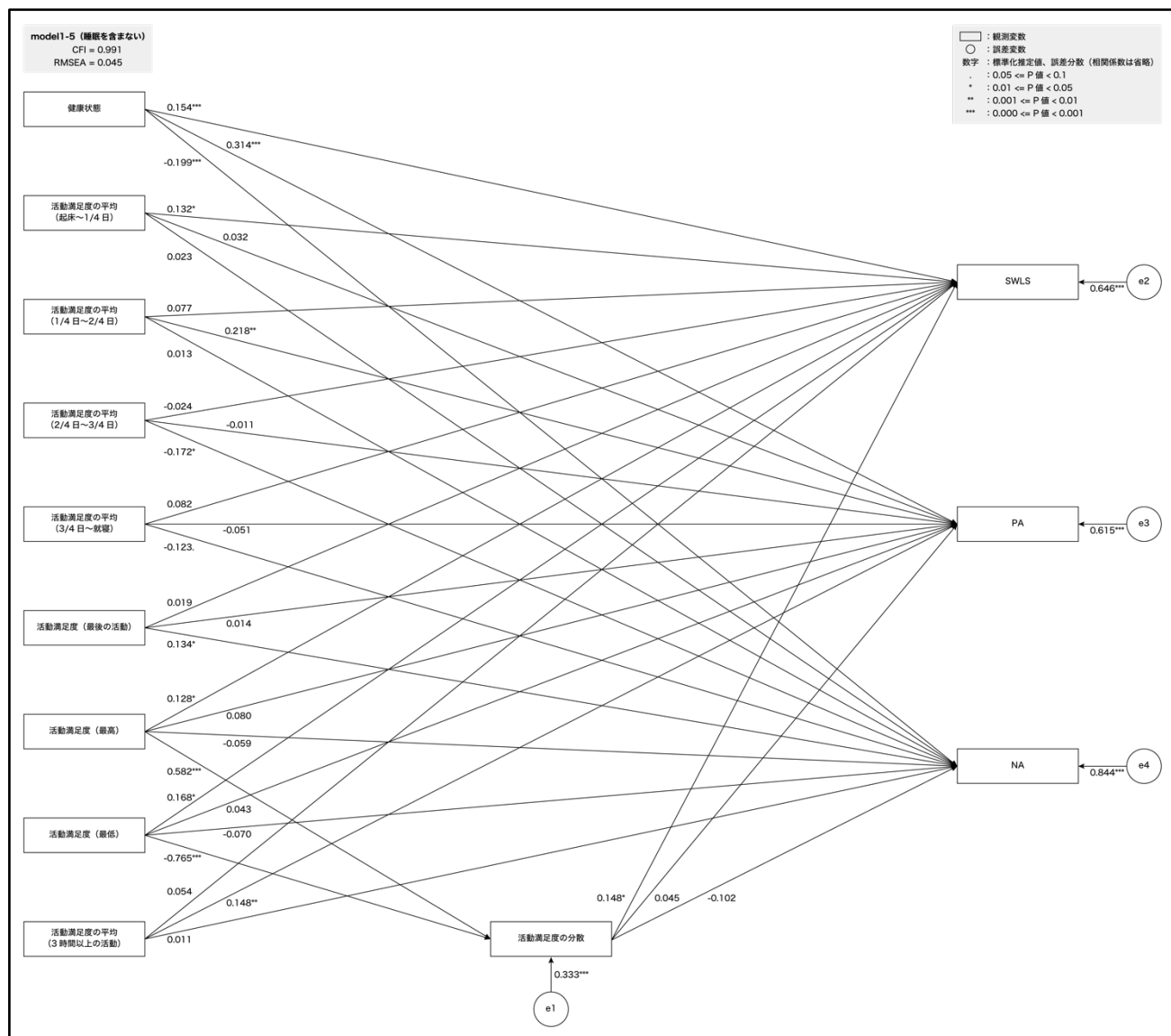


図 13 : model1-5 のパス図

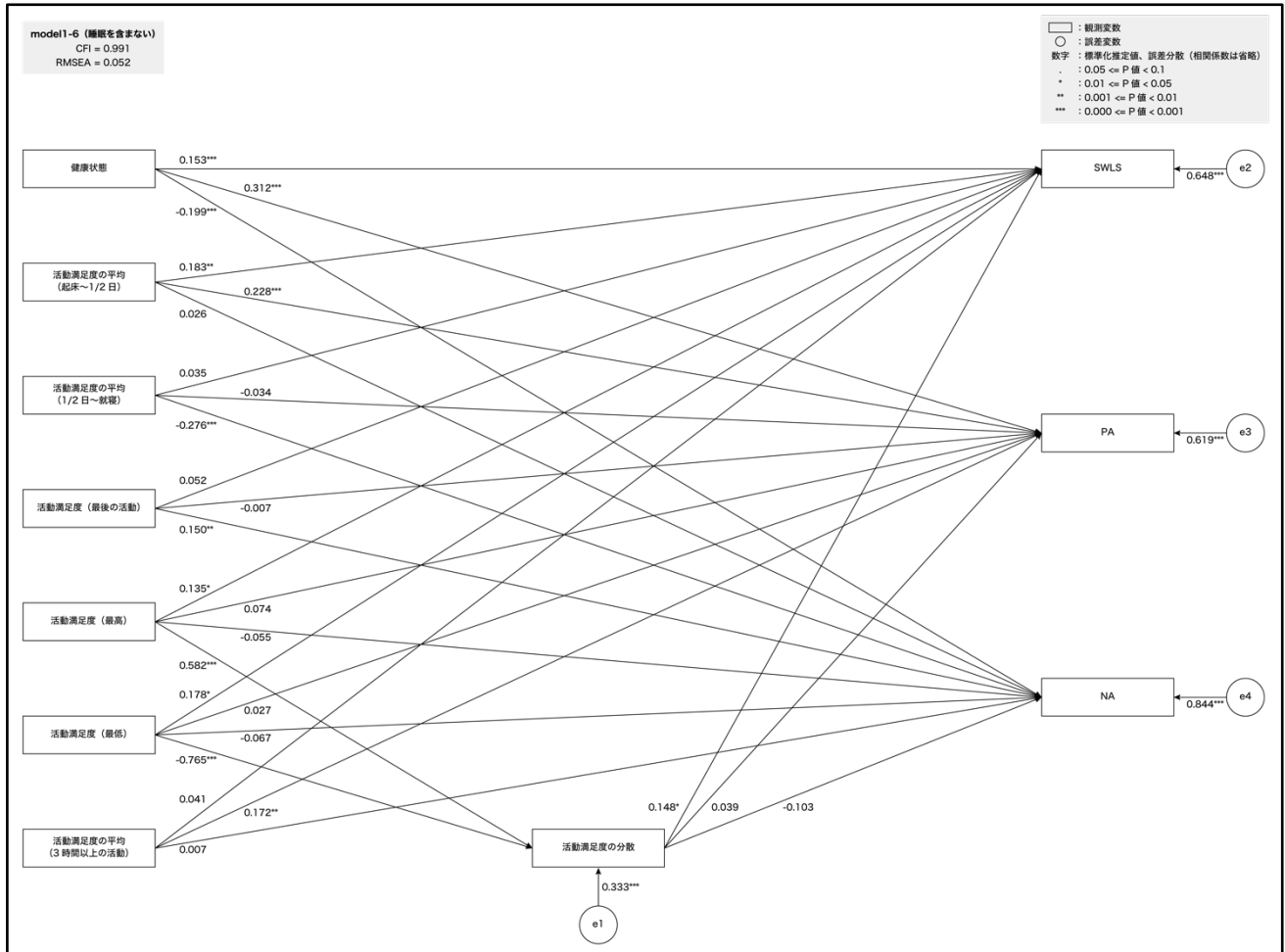


図 14 : model1-6 のパス図

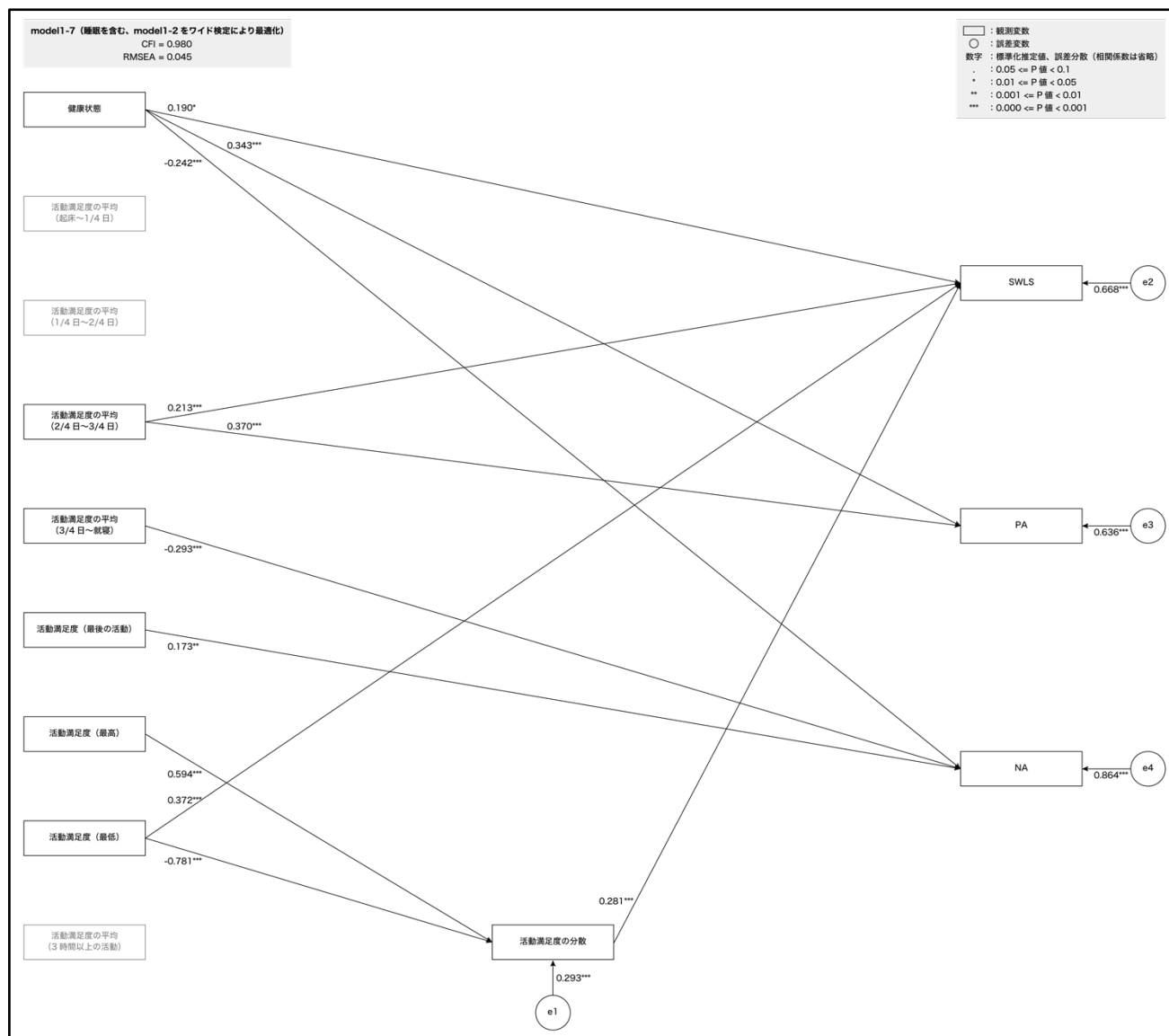


図 15 : model1-7 のパス図

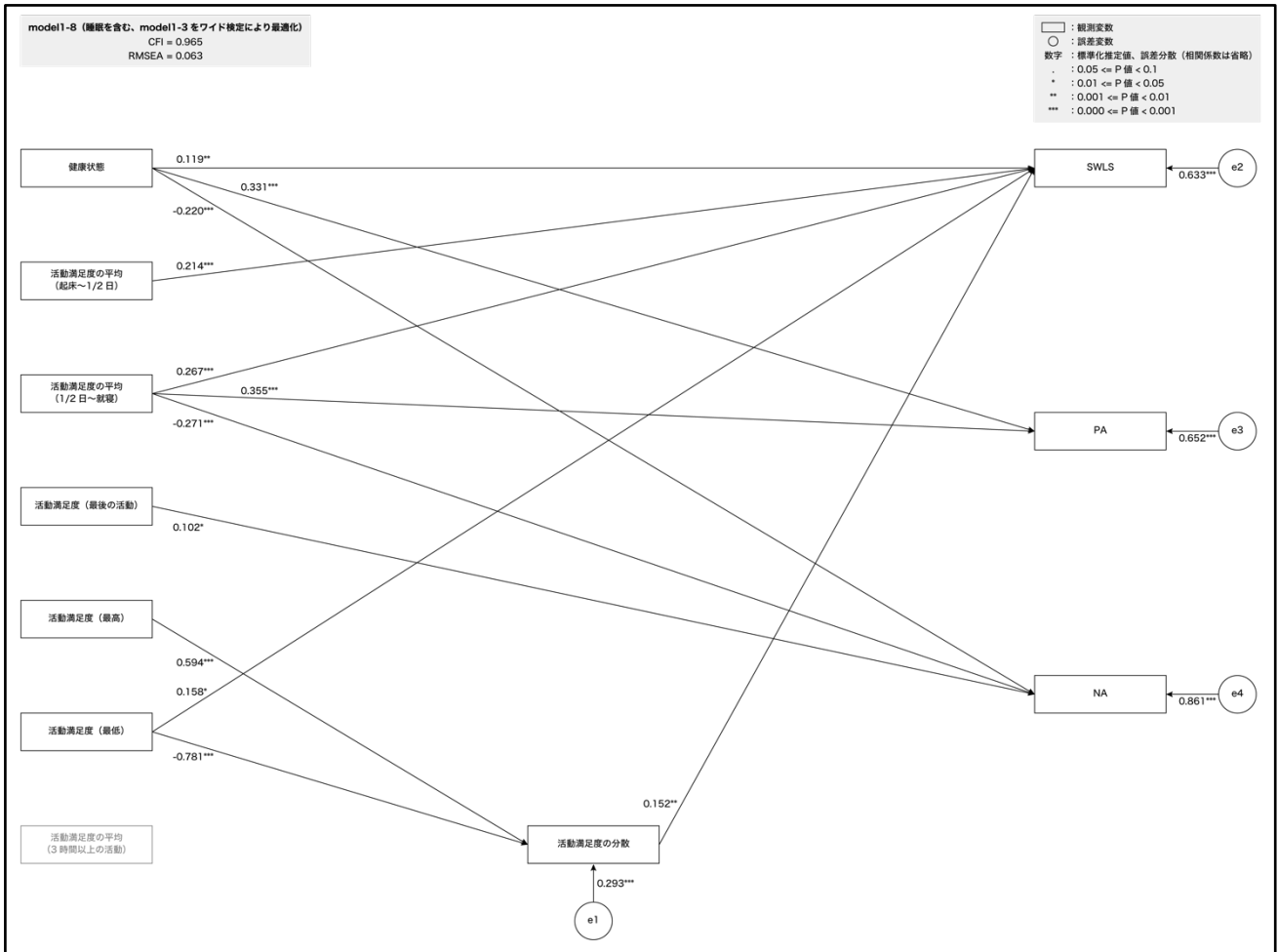


図 16 : model1-8 のパス図

第5章 『ActiveQoL』による都市評価の要件

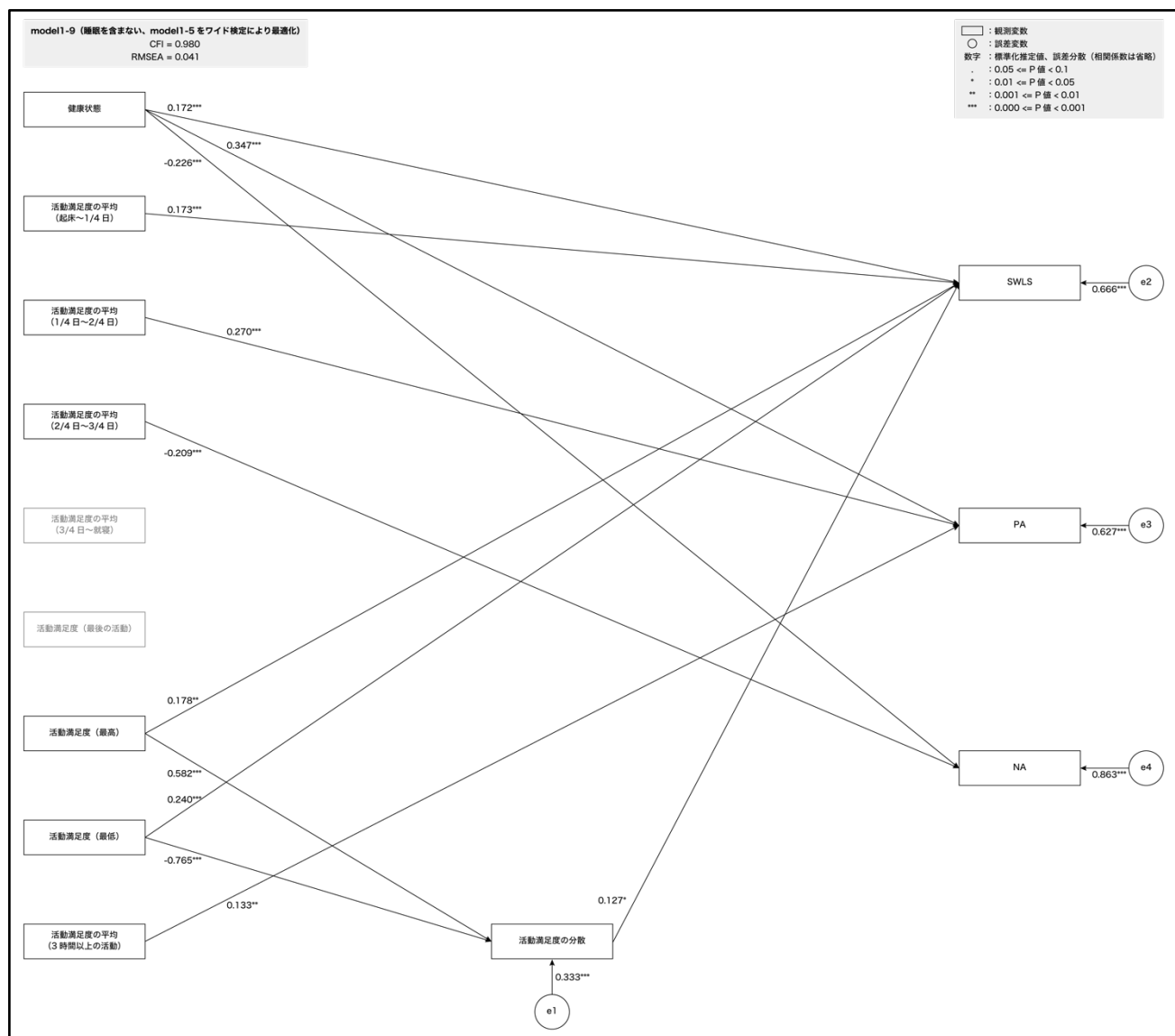


図 17 : model1-9 のパス図

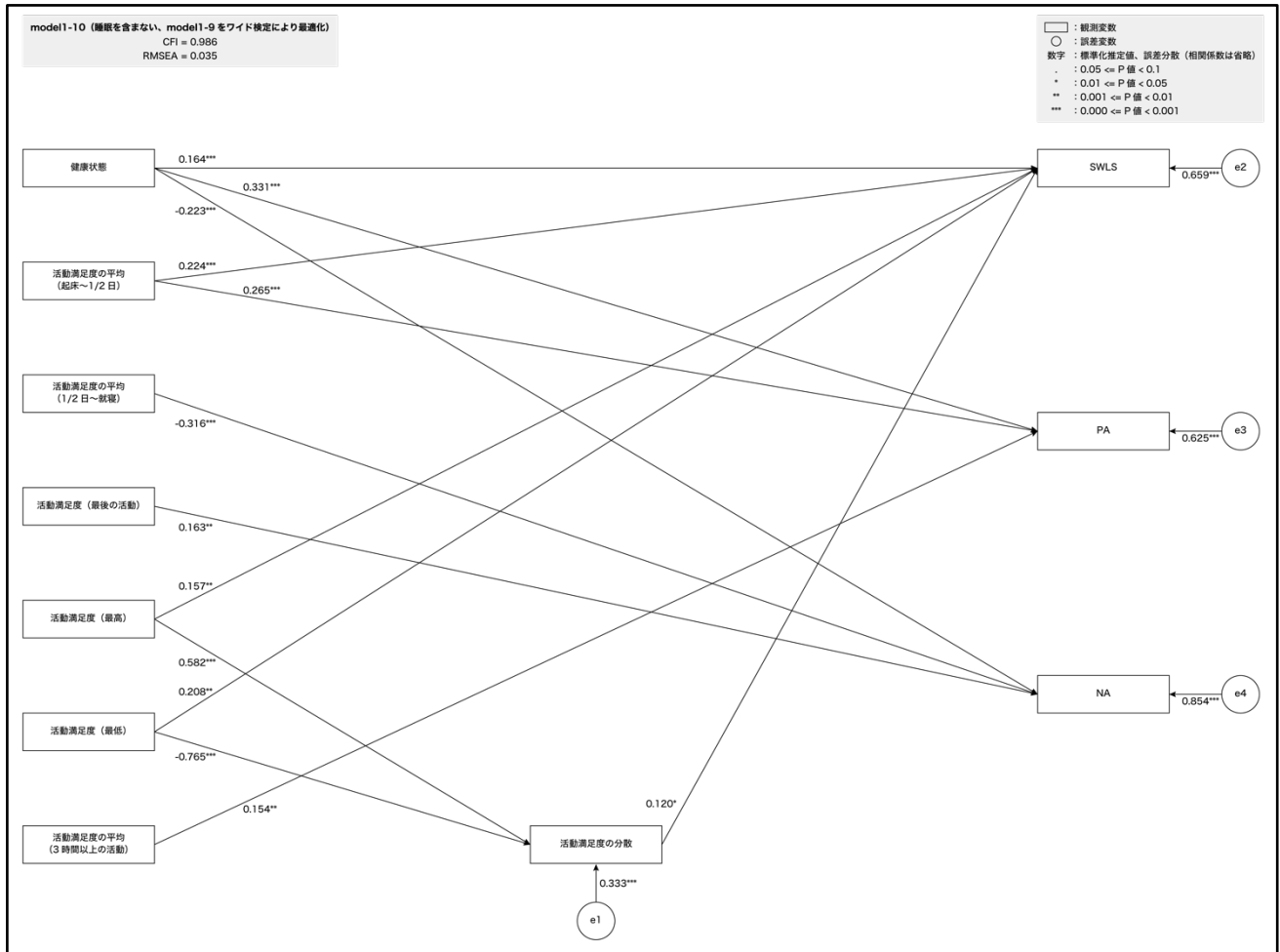


図 18 : model1-10 のパス図

		睡眠を含む	睡眠を含まない
健康状態、活動満足度と幸福感の関係を調査するシンプルなモデル		model1-1	model1-4
活動満足度が幸福感に与える影響を詳細に調査するモデル	1日を4分割	model1-2	model1-5
		model1-7	model1-9
		※ワルド検定によってmodel1-2を最適化	※ワルド検定によってmodel1-5を最適化
	1日を2分割	model1-3	model1-6
		model1-8	model1-10
		※ワルド検定によってmodel1-3を最適化	※ワルド検定によってmodel1-6を最適化

表 32 : 作成モデル早見表

3) 健康状態、活動満足度と幸福感の関係の考察

model1-4 (図 12) および model1-10 (図 18) は共に十分な適合を示しており、標準化推定値も全て有意である。

活動満足度と幸福感の関係を調査するシンプルなモデルである model1-4 を見ると、「健康状態」と「活動満足度の平均 (1 日)」は共に「SWLS」、「PA」に正の影響、「NA」に負の影響を与えている。すなわち、健康状態と活動満足度の両方が認知的幸福感および感情的幸福感に影響を与えており、幸福感を推定する際は健康状態と活動満足度共に変数として用いることが望ましい。一方で、「健康状態」は「SWLS」よりも「PA」、「NA」に大きな影響を、「活動満足度の平均」は「PA」、「NA」よりも「SWLS」に大きな影響を与えており、認知的幸福感は活動満足度に比較的大きな影響を受けるが、感情的幸福感は健康状態にも比較的大きな影響を受けることが明らかになった。

次に、活動満足度が幸福感に与える影響を詳細に調査する model1-10 に目を向ける。まず、「SWLS」について注目すると、「健康状態」、「活動満足度の平均 (起床～1/2 日)」、「活動満足度 (最高)」、「活動満足度 (最高)」、「活動満足度の分散」の 5 変数に正の影響を受けている。後述の「PA」や「NA」とは違い、「活動満足度 (最高)」、「活動満足度 (最高)」といった 1 日の活動の中で記憶に残りやすい活動に影響を受けるのが特徴と言える。また、「活動満足度の分散」からも影響を受けており、認知的幸福感は活動満足度の上下が大きい生活の方が高くなると言えるだろう。一方「PA」や「NA」は、「健康状態」、「活動満足度の平均 (起床～1/2 日)」、「活動満足度の平均 (1/2 日～就寝)」、「活動満足度 (最後の活動)」、「活動満足度の平均 (3 時間以上の活動)」の 5 変数と関連しており、活動の時間帯による影響を受けやすいことが分かる。また、「PA」は「活動満足度の平均 (起床～1/2 日)」の影響を受けているのに対し、「NA」は「活動満足度の平均 (1/2 日～就寝)」の影響を受けており、ポジティブ感情は 1 日の前半の活動が、ネガティブ感情は 1 日の後半の活動の方が影響する可能性がある。

4) デモグラフィックデータおよびサイコグラフィックデータ毎の健康状態、活動満足度と幸福感の関係の考察

次に、上記の結果が、デモグラフィックデータやサイコグラフィックデータによってどのように変化するのかを調査するため、model1-4 および model1-10 に対して「性別」、「一人暮らしか否か」、「性格タイプ」毎にパス解析を行なった（図 19～24）。図 19～24 より、デモグラフィックデータやサイコグラフィックデータの違いによって、健康状態、活動満足度が幸福感に与える影響が異なることが分かった。すなわち、幸福感を推定する際は、性別、一人暮らしか否か、性格タイプなどのデモグラフィックデータおよびサイコグラフィックデータを媒介変数として用いるべきである。

model1-4、model1-10 について「性別」毎にパス解析を行なった結果は図 19、図 20 である。図 19 を見ると、男女共に、活動満足度の方が健康状態より認知的幸福感に対して与える影響が大きいことが分かる。一方で、感情的幸福感に関しては、男性のネガティブ感情に与える影響のみ、健康状態の方が大きいことが分かる。すなわち、男性は健康状態が悪いと、ネガティブな感情を持つ傾向にあると言える。また、男女間で比較すると、男性は健康状態が幸福感に与える影響が比較的大きいのに対し、女性は活動満足度が与える影響が比較的大きいことが分かった。

model1-4、model1-10 について「一人暮らしか否か」毎にパス解析を行なった結果は図 21、図 22 である。図 21 を見ると、一人暮らしの人は認知的幸福感に対しては活動満足度の影響が、感情的幸福感に対しては健康状態の影響がより大きいことが分かる。一方一人暮らしでない人は、認知的幸福感、感情的幸福感ともに、活動満足度の影響が大きい傾向にある。つまり、一人暮らしだと感情の浮き沈みが体調に大きく左右されると言える。また、一人暮らしの人と一人暮らしでない人を比較すると、一人暮らしの人は健康状態が幸福感に与える影響が比較的大きいのに対し、一人暮らしでない人は活動満足度が与える影響が比較的大きいことが分かった。

model1-4、model1-10 について「性格タイプ」毎にパス解析を行なった結果は図 23、図 24 である。性格のタイプの違いによって、健康状態、活動満足度が認知的幸福感、感情的幸福感それぞれに与える影響が様々であることが分かった。ただし、「性格タイプ」毎の解析では、標本数が少ないタイプも多く、結果の信頼性が低いことに留意が必要である。

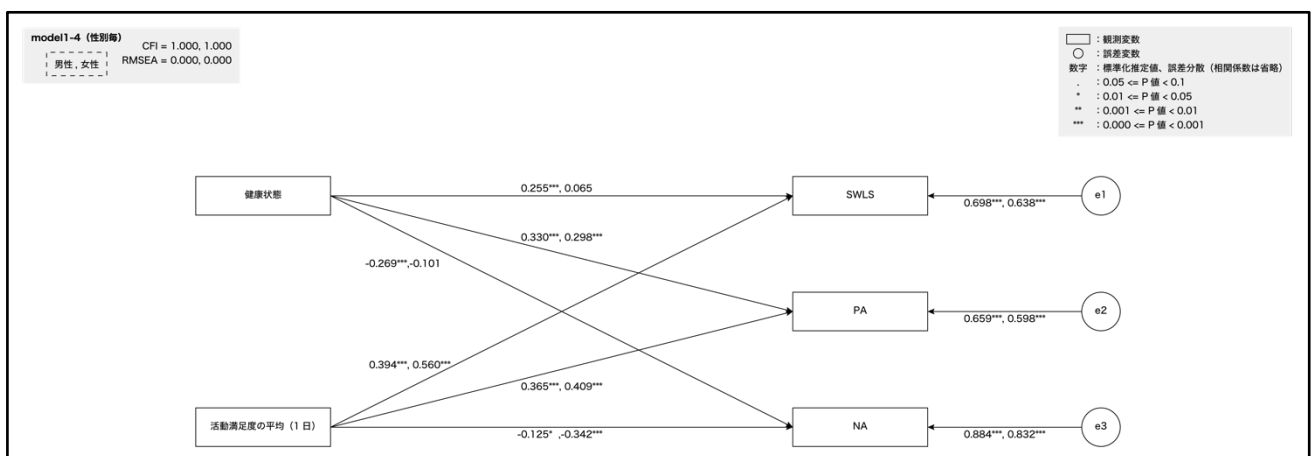


図 19 : model1-4 (性別毎) のパス図

第5章 『ActiveQoL』による都市評価の要件

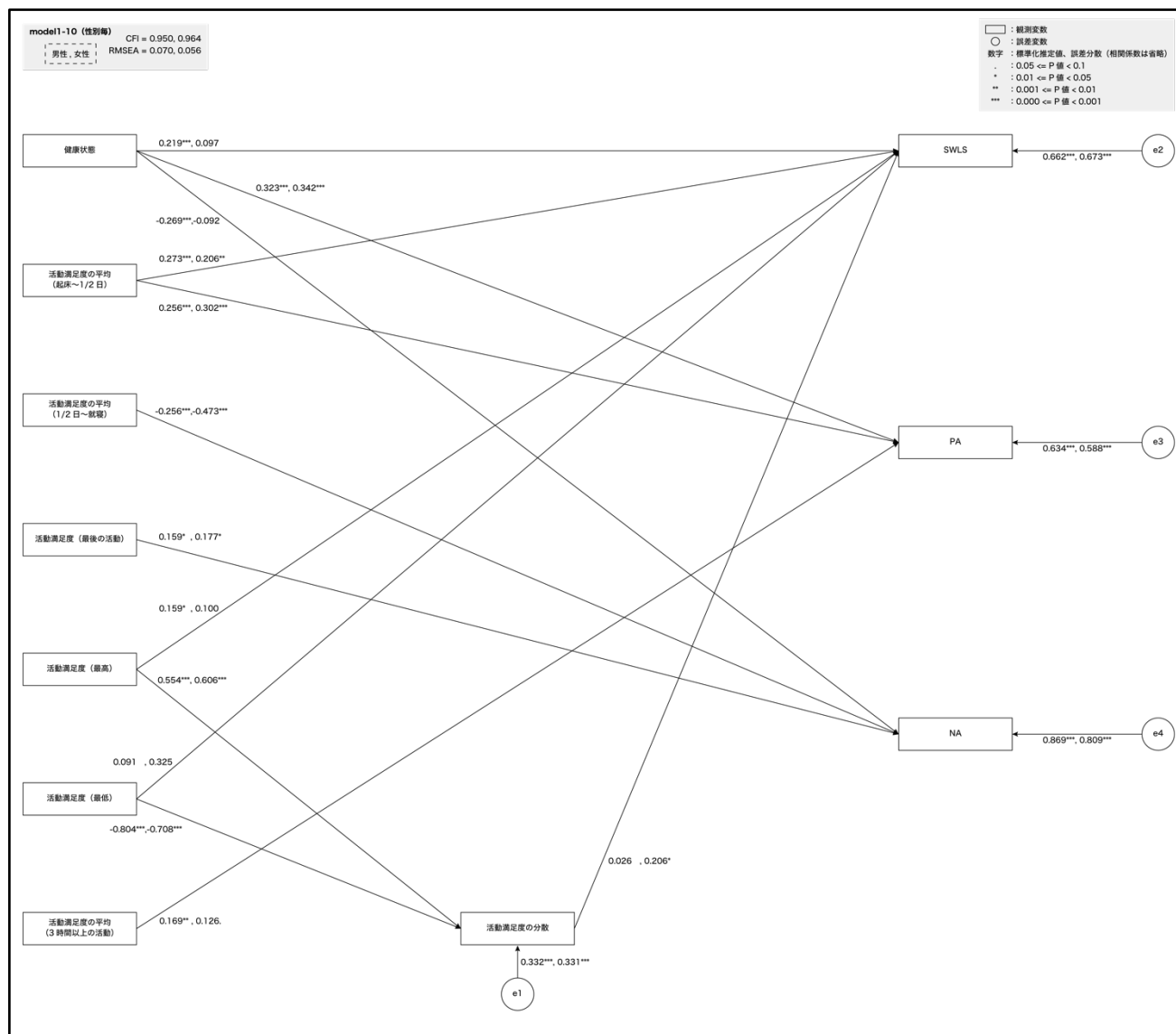


図 20 : model1-10 (性別毎) のパス図

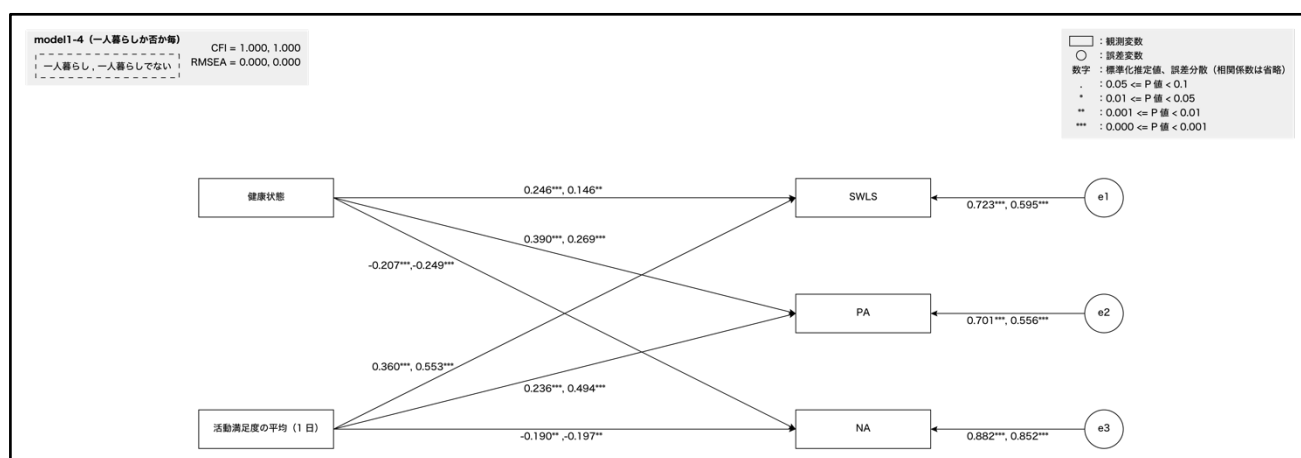


図 21 : model1-4 (一人暮らしか否か毎) のパス図

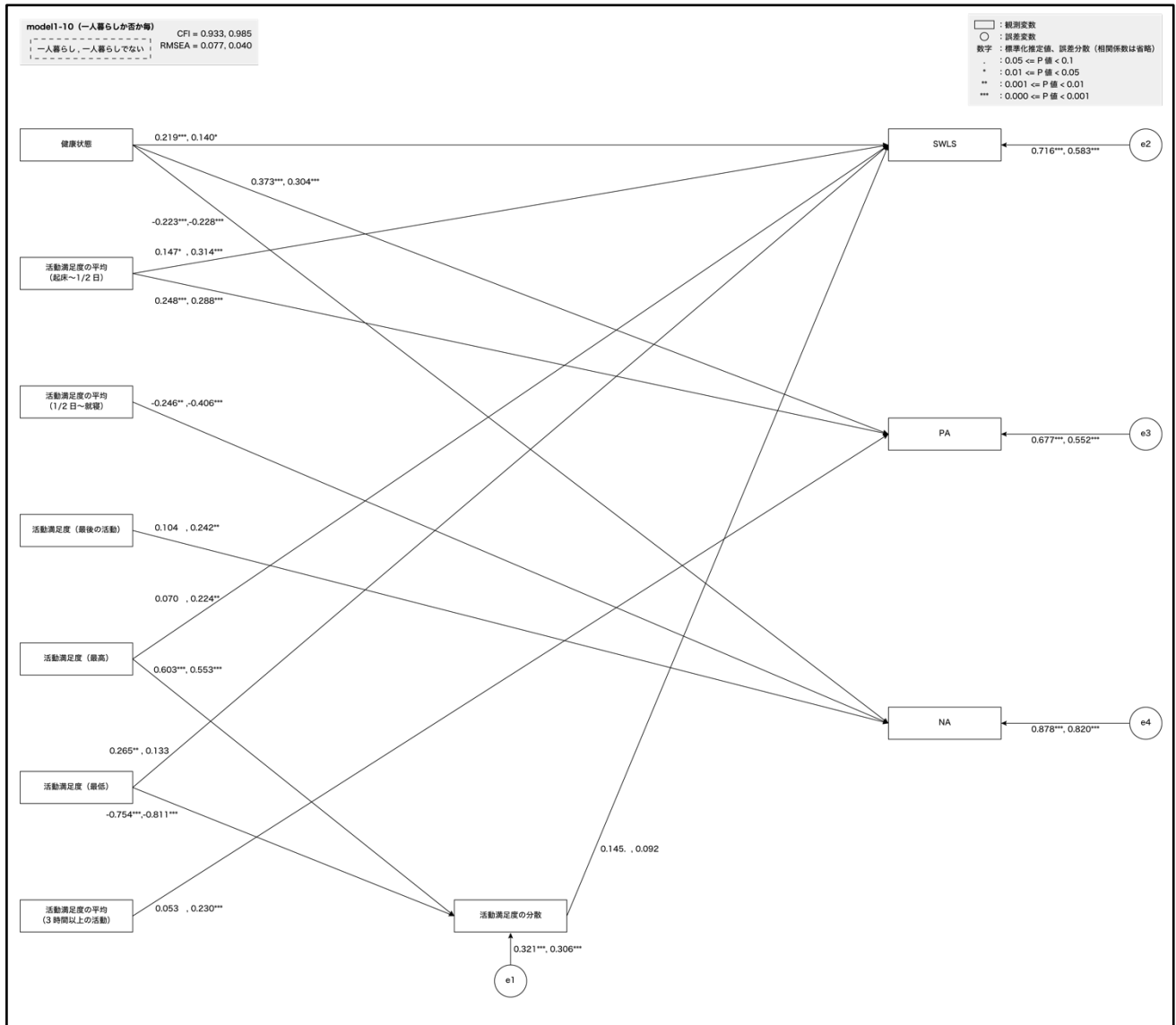


図 22 : model1-10 (一人暮らしか否か毎) のパス図

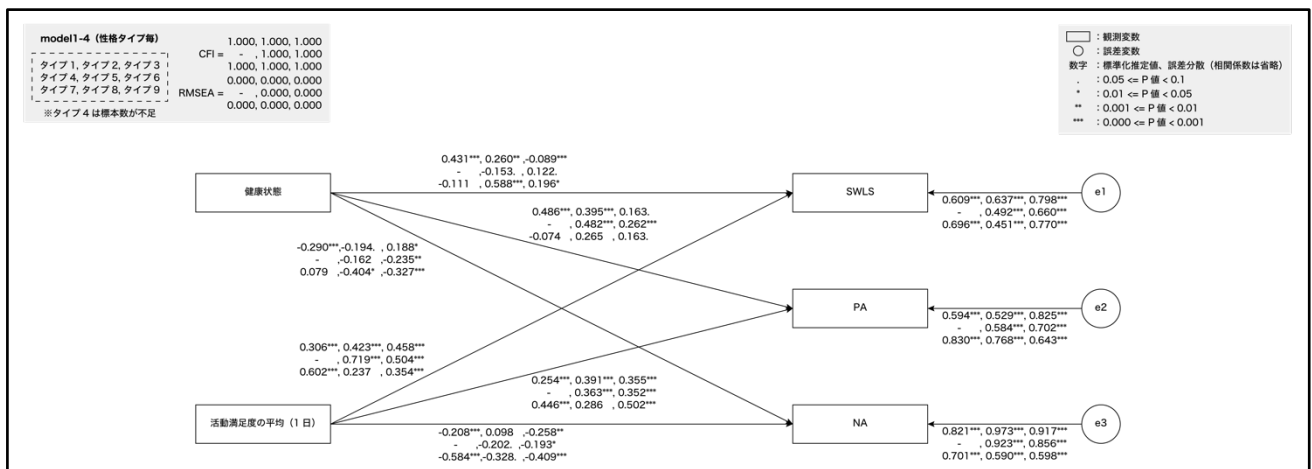


図 23 : model1-4 (性格タイプ毎) のパス図

第5章 『ActiveQoL』による都市評価の要件

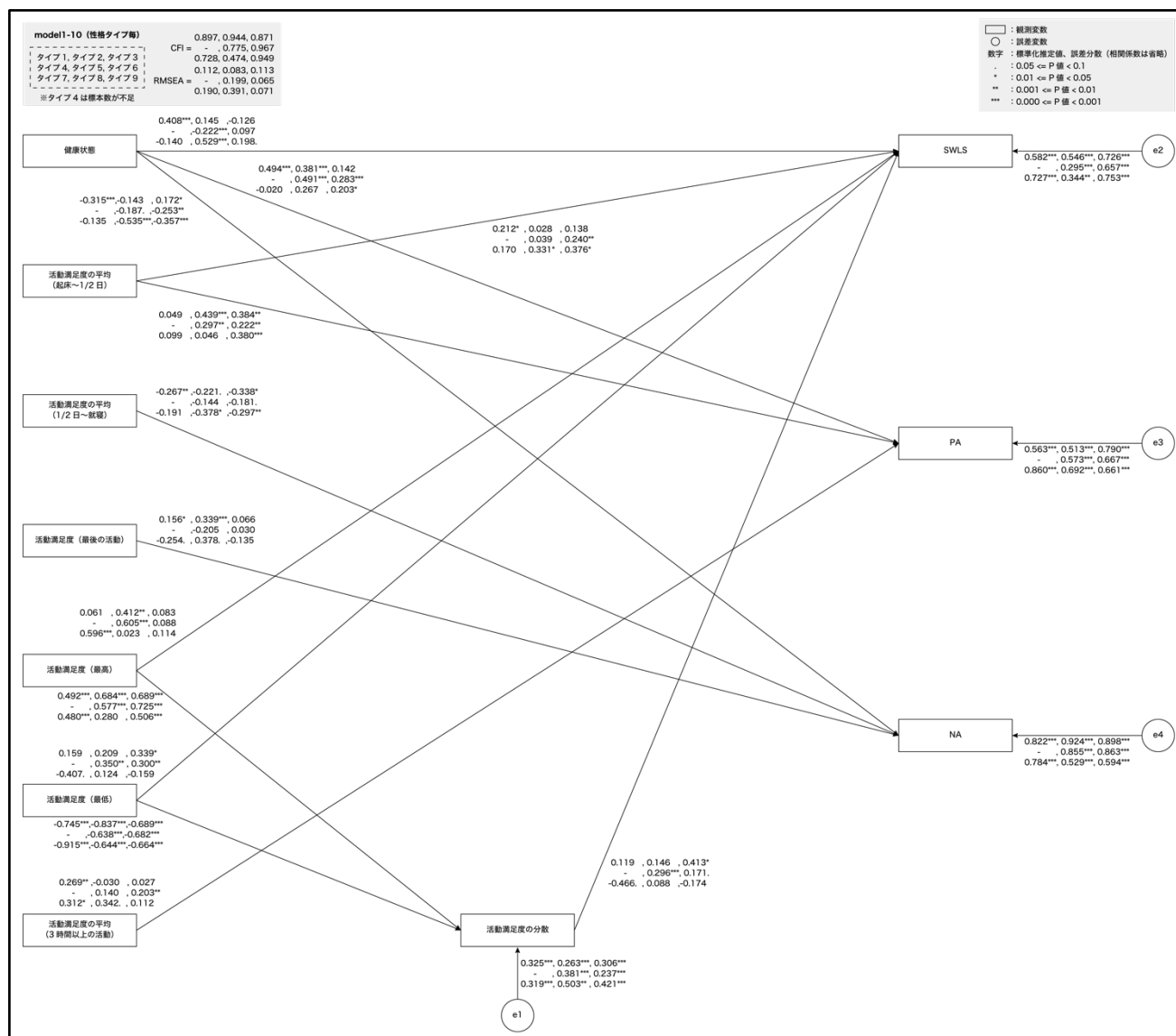


図 24 : model1-10 (性格タイプ毎) のパス図

5-2-2. 活動内容の満足度、周囲の環境の満足度、他人との関係の満足度と活動満足度の関係についての分析・考察

次に、活動内容の満足度、周囲の環境の満足度、他人との関係の満足度と活動満足度の関係について考察する。

1) データの加工

初めに、活動内容の満足度、周囲の環境の満足度、他人との関係の満足度と活動満足度の関係について分析するため、アンケート結果のデータを加工し、以下の変数を作成した。なお、デモグラフィックデータおよびサイコグラフィックデータについては、56 人分のデータが収集された。活動満足度、活動内容の満足度、周囲の環境の満足度、他人との関係の満足度については、8,306 活動分のデータが収集された。

デモグラフィックデータ

- ・「性別」：アンケート調査の「性別」項目の結果を利用した。
- ・「一人暮らしか否か」：アンケート調査の「同居している家族構成」項目の結果から回答者が一人暮らしか否かを抽出した。

サイコグラフィックデータ

- ・「性格タイプ」：アンケート調査の「性格タイプ」項目の結果を利用した。

活動満足度

- ・「活動満足度」：アンケート調査の「活動満足度」項目の結果を利用した。

活動内容の満足度

- ・「活動内容の満足度」：アンケート調査の「活動満足度」項目の結果を利用した。

周囲の環境の満足度

- ・「活動を行なった場所・環境の満足度」：アンケート調査の「活動を行なった場所・環境の満足度」項目の結果を利用した。
- ・「初対面の人との活動だったか否か」：アンケート調査の「活動を行なった場所・環境の満足度」項目の結果を利用した。

他人との関係の満足度

- ・「一緒に活動を行なった人に対する満足度」：アンケート調査の「活動を行なった場所・環境の満足度」項目の結果を利用した。
- ・「初対面の人との活動だったか否か」：アンケート調査の「初対面の人との活動だったか否か」項目の結果を利用した。

全9変数のヒストグラム、平均、分散、歪度、尖度および相関係数は図25、表33の通りである。

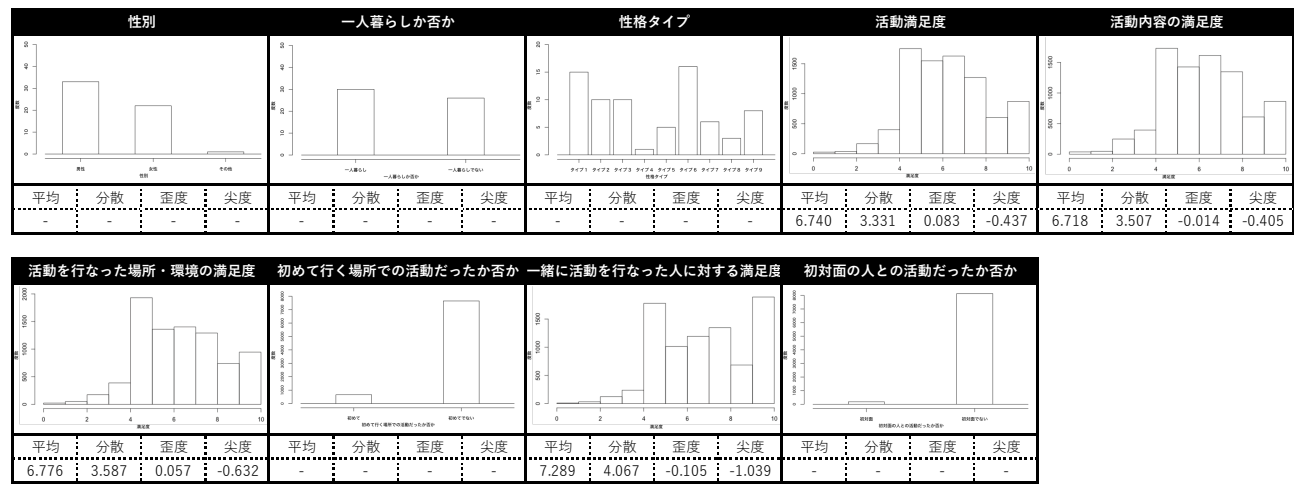


図 25：各変数のヒストグラム、平均、分散、歪度、尖度

	活動満足度	活動内容の満足度	活動を行なった場所・環境の満足度	一緒に活動を行なった人に対する満足度
活動満足度	1.000	0.930	0.779	0.664
活動内容の満足度	0.930	1.000	0.768	0.637
活動を行なった場所・環境の満足度	0.779	0.768	1.000	0.677
一緒に活動を行なった人に対する満足度	0.664	0.637	0.677	1.000

表 33：各変数間の相関係数

2) モデルの作成および選定

「活動満足度」、「活動内容の満足度」、「活動を行なった場所・環境の満足度」、「一緒に活動を行なった人に対する満足度」、「初めて行く場所での活動だったか否か」、「初対面の人との活動だったか否か」の6変数について、model2-1～model2-3の3つのモデルを作成し、統計解析環境Rのパッケージlavaanによるパス解析（最尤推定法）を行なった（図26～28）。それぞれのモデルのCFIおよびRMSEAを比較すると、model2-1が最も適合度の高いモデルであったが、更にmodel2-1に対してワルド検定を用いた結果、「初対面の人との活動だったか否か」を削除したよりシンプルなmodel2-4が作成された（図29）。以下では、model2-4について考察を行う。

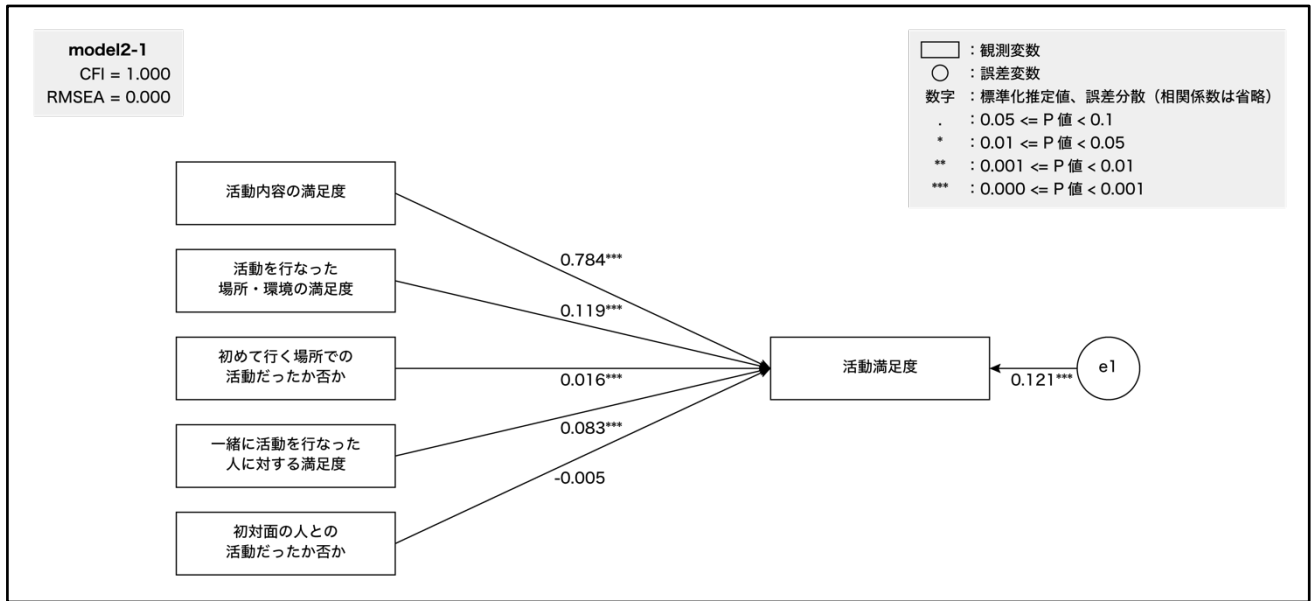


図 26 : model2-1 のパス図

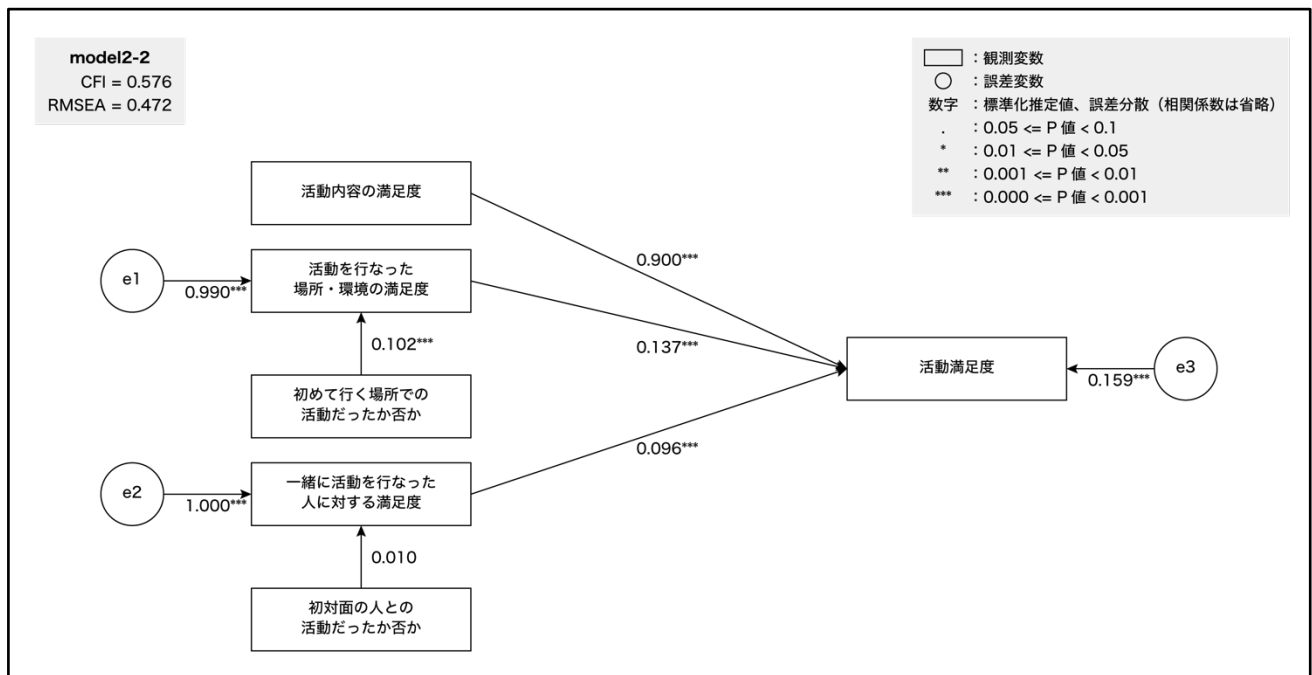


図 27 : model2-2 のパス図

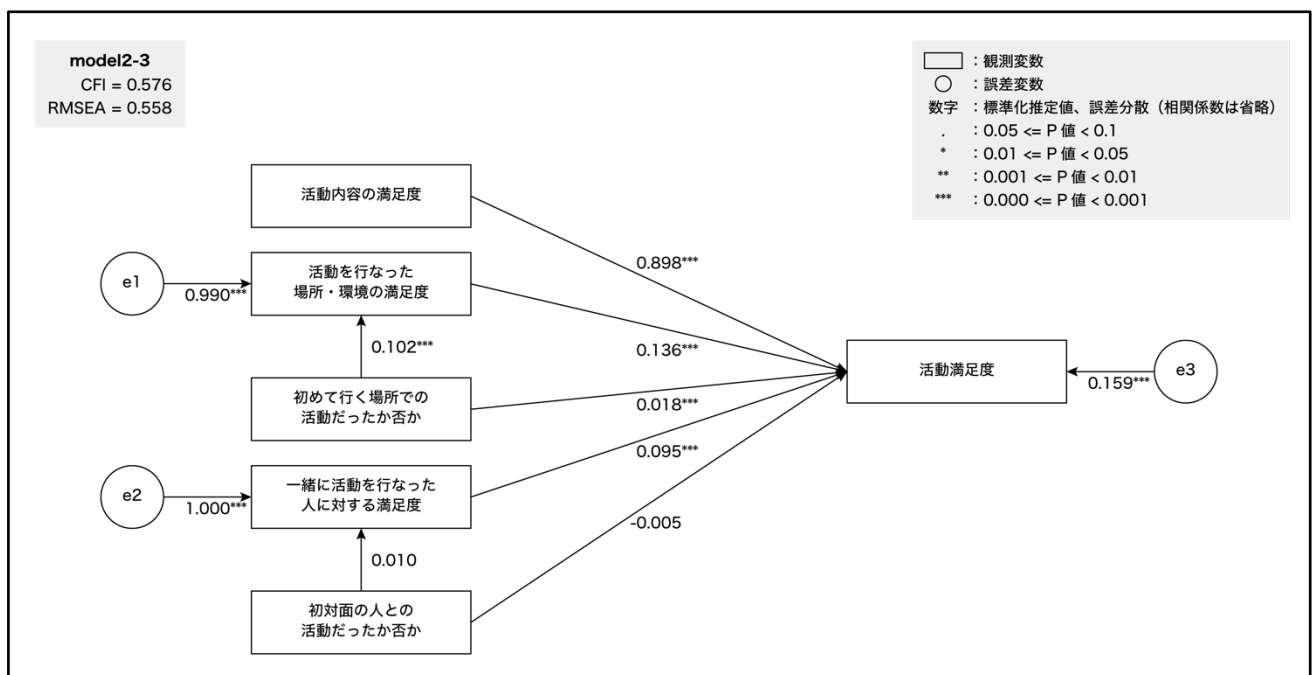


図 28 : model2-3 のパス図

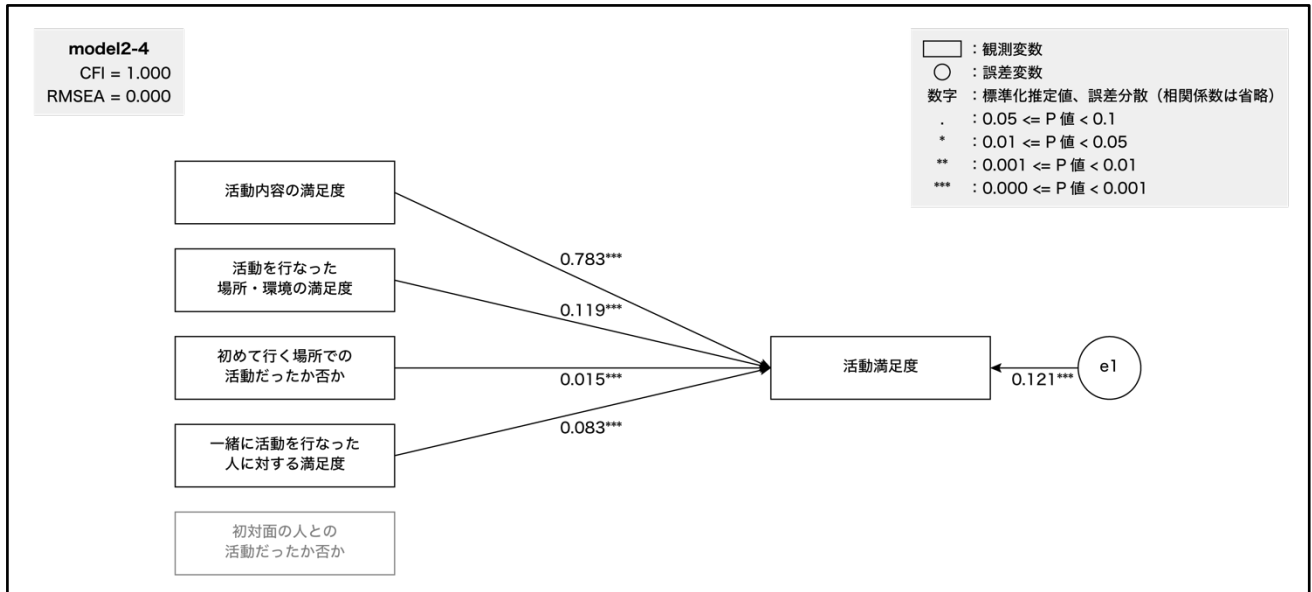


図 29 : model2-4 のパス図

3) 活動内容の満足度、周囲の環境の満足度、他人との関係の満足度と活動満足度の関係の考察

model2-4 では、CFI = 1.000, RMSEA = 0.000 と十分な適合を示している。また、標準化推定値は全て有意である。model2-4 の分析結果から、「活動満足度」は「活動内容の満足度」、「活動を行なった場所・環境の満足度」、「初めて行く場所での活動だったか否か」、「一緒に活動を行なった人に対する満足度」に影響を受けること明らかになった。また、ワルド検定により、「初対面の人との活動だったか否か」は「活動満足度」に有意な影響を与えないことも明らかになった。すなわち、活動満足度を計算する際は、活動内容、活動を行なった場所・環境、一緒に活動を行なった人の満足度および、初めて行く場所での活動だったか否かを変数として用いることが望ましい。また、それぞれの変数の影響の大きさについては、「活動内容の満足度」が非常に大きな正の影響を及ぼしており、以下、「活動を行なった場所・環境の満足度」、「一緒に活動を行なった人に対する満足度」、「初めて行く場所での活動だったか否か」の順で正の影響を受けることが分かった。

4) デモグラフィックデータおよびサイコグラフィックデータ毎の活動内容の満足度、周囲の環境の満足度、他人との関係の満足度と活動満足度の関係の考察

次に、上記の結果が、デモグラフィックデータやサイコグラフィックデータによってどのように変化するかを調査するため、model2-4 に対して「性別」、「一人暮らしか否か」、「性格タイプ」毎にパス解析（最尤推定法）を行なった（図 30～32）。5-2-1 と同様に、デモグラフィックデータやサイコグラフィックデータの違いによって「活動内容の満足度」、「活動を行なった場所・環境の満足度」、「初めて行く場所での活動だったか否か」、「一緒に活動を行なった人に対する満足度」が「活動満足度」に与える影響が異なることが分かった。すなわち、活動満足度を計算する際は、性別、一人暮らしか否か、性格タイプなどのデモグラフィックデータおよびサイコグラフィックデータを媒介変数として用いるべきである。

「性別」毎にパス解析を行なった結果は図 30 の通りである。男女共に活動満足度に対する「活動内容の満足度」の正の影響が最も大きいことが分かった。一方、男性は「一緒に活動を行なった人に対する満足度」よりも「活動を行なった場所・環境の満足度」の正の影響が大きいのに対して、女性は「活動を行なった場所・環境の満足度」よりも「一緒に活動を行なった人に対する満足度」の方が正の影響が大きいことが分かった。また、男性は初めての場所だと「活動内容の満足度」が高いのに対し、女性では有意な結果となっていない。

「一人暮らしか否か」毎にパス解析を行なった結果は図 31 の通りである。「一人暮らしか否か」では「活動内容の満足度」、「活動を行なった場所・環境の満足度」、「初めて行く場所での活動だったか否か」、「一緒に活動を行なった人に対する満足度」が「活動満足度」に与える影響に「性別」ほどの違いが見られなかった。

「性格タイプ」毎にパス解析を行なった結果は図 32 の通りである。全てのタイプにおいて、「活動内容の満足度」の正の影響が最も大きいことが分かった。一方、タイプ 1、タイプ 2、タイプ 3、タイプ 4、タイプ 6、タイプ 8、タイプ 9 の人は「活動内容の満足度」に次いで、「活動を行なった場所・環境の満足度」の正の影響が大きいのに対し、タイプ 5、タイプ 7 では「一緒に活動を行なった人に対する満足度」の正の影響が大きいことが分かった。また、タイプ 8 では、初めて行く場所でない方が「活動内容の満足

度」が高いことも分かった。以上のように、性格のタイプによって活動満足度に各変数が与える影響が異なることが明らかになった。ただし、「性格タイプ」毎の解析では、標本数が少ないタイプも多く、結果の信頼性が低いことに留意が必要である。

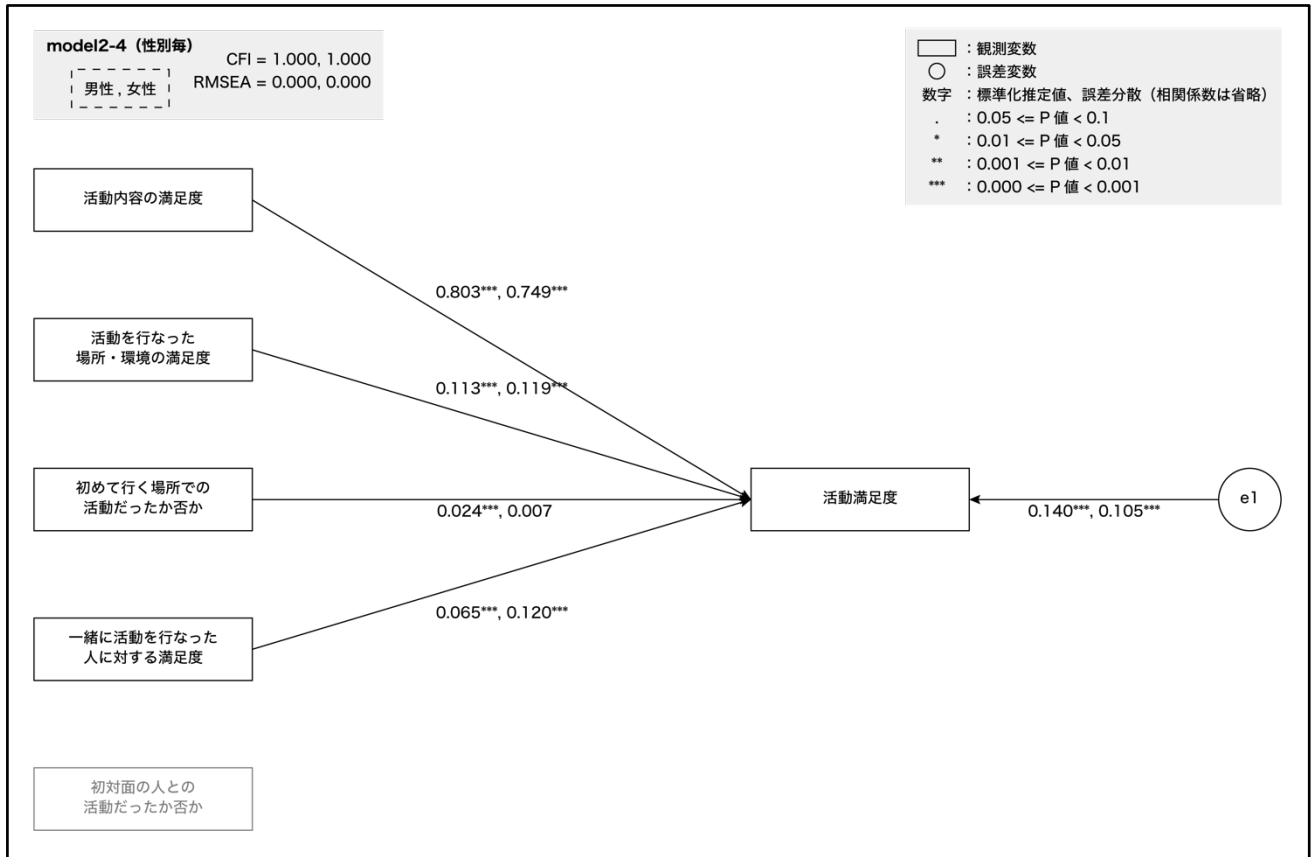


図 30 : model2-4 (性別毎) のパス図

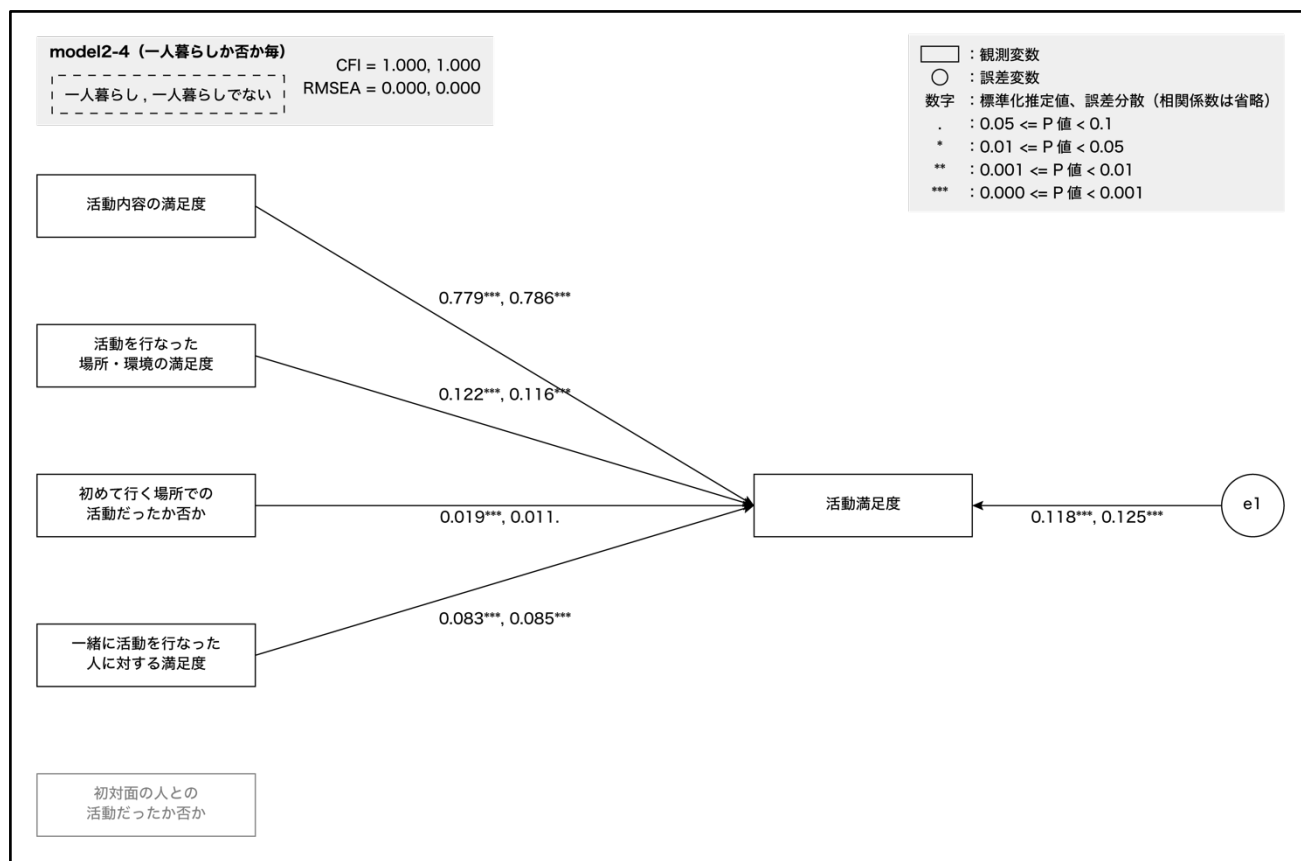


図 31 : model2-4 (一人暮らしか否か毎) のパス図

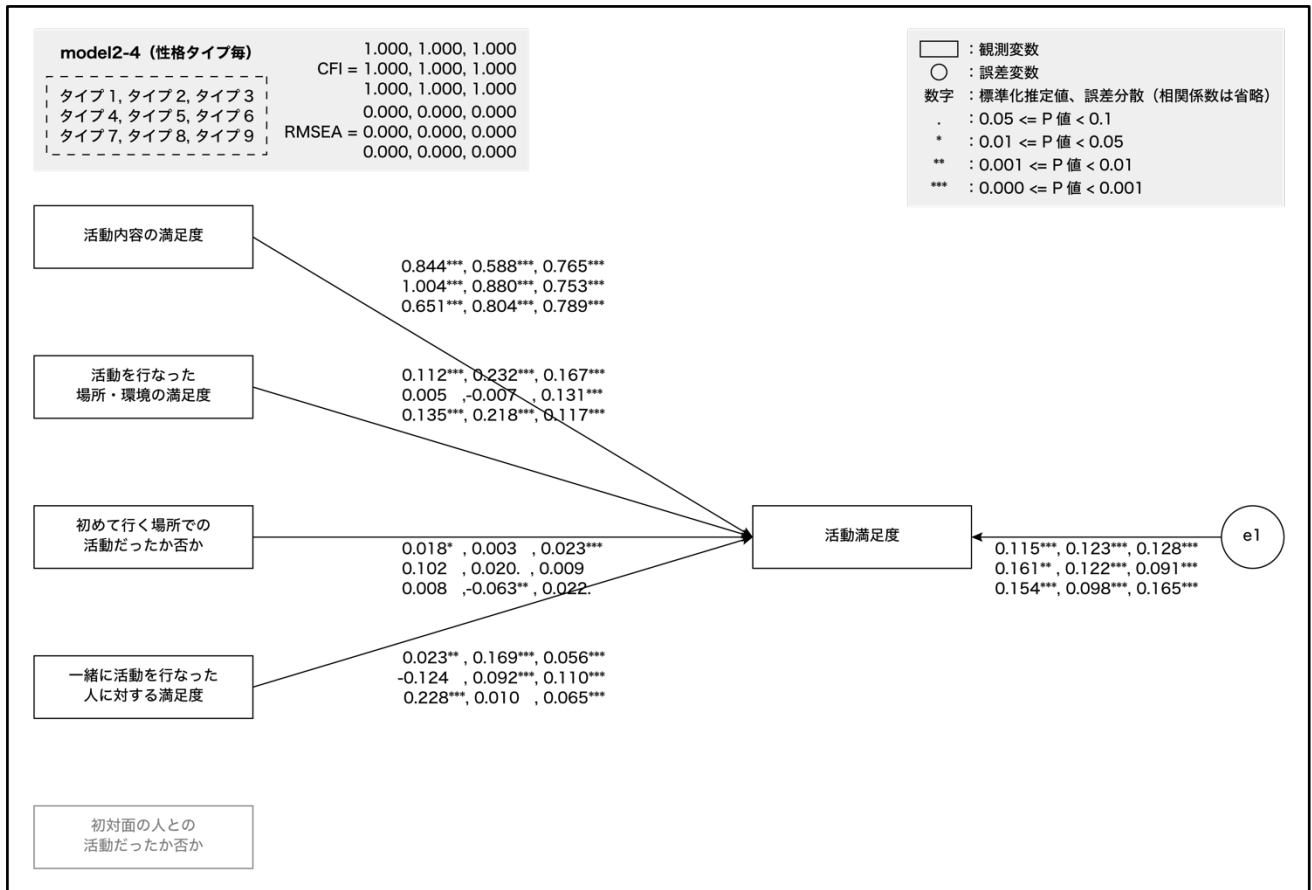


図 32 : model2-4 (性格タイプ毎) のパス図

5-3. 『ActiveQoL』による都市評価の要件

本節では変数間の関係についての考察を踏まえ、活動満足度『ActiveQoL』の計算および幸福感の推定の際にどのようなデータが必要か、計算式および推定式の係数はいくつになるのかについて明らかにする。

まず、5-2-1での考察より、幸福感を推定する際には以下の要件を満たすことが望ましいことが明らかになった。1つ目に、健康状態と活動満足度の両方を変数として用いることが望ましい。2つ目に、活動満足度については「活動満足度の平均（起床～1/2日）」、「活動満足度の平均（1/2日～就寝）」、「活動満足度（最後の活動）」、「活動満足度（最高）」、「活動満足度（最低）」、「活動満足度の平均（3時間以上の活動）」、「活動満足度の分散」の7変数（睡眠は活動に含まない）を用いて幸福感を推定することが望ましい。3つ目に、デモグラフィックデータおよびサイコグラフィックデータを媒介変数として用いることが望ましい。4つ目に、これらの変数から幸福感を推定する際には図12、18および、デモグラフィックデータ、サイコグラフィックデータに応じた、図19～24に記載の係数を用いることが望ましい。

次に、5-2-2での考察より、各活動の活動満足度『ActiveQoL』を計算する際には以下の要件を満たすことが望ましいことが明らかになった。1つ目に、「活動内容の満足度」、「活動を行った場所・環境の満足度」、「初めて行く場所での活動だったか否か」、「一緒に活動を行った人に対する満足度」の4変数を用いて活動満足度を計算することが望ましい。2つ目に、デモグラフィックデータおよびサイコグラフィックデータを媒介変数として用いることが望ましい。3つめに、これらの変数から幸福感を推定する際には図29および、デモグラフィックデータ、サイコグラフィックデータに応じた、図30～32に記載の係数を用いることが望ましい。

5-2-1での考察および5-2-2での考察の両方を踏まえ、『ActiveQoL』による都市評価²⁰の要件をまとめると以下の通りである。また、要件をまとめて図にしたものが、図33である。

1) 幸福感の推定に必要なデータ

『ActiveQoL』による都市評価において幸福感を推定するためには、以下のデータを収集することが必要である。

- ・活動嗜好：STEP①のアンケート調査において住民の活動嗜好（理想の活動）のデータを収集することが必要である。その際、後述の実際の活動内容とのギャップから「活動内容の満足度」、「活動を行った場所・環境の満足度」、「一緒に活動を行った人に対する満足度」の3変数を計算することができるように、活動嗜好のデータには、活動内容、活動を行う場所・環境、一緒に活動を行う人のそれぞれに対しての嗜好が含まれている必要があることが明らかになった。

- ・実際の活動内容：STEP②のウェアラブルデバイスによって住民の実際の活動データを収集する必要がある。その際、前述の活動嗜好とのギャップから、「活動内容の満足度」、「活動を行った場所・環境の満足度」、「一緒に活動を行った人に対する満足度」の3変数を計算することができるように、実際の活動データには、活動内容、活動を行った場所・環境、一緒に活動を行った人、のそれぞれの活動データが含まれている必要があることが明らかになった。また、「初めて行く場所での活動だったか否か」も変数として用いるため、活動を行った場所・環境については、過去に行った場所か否かを判別する必要がある。

・デモグラフィックデータおよびサイコグラフィックデータ：STEP①のアンケート調査において、住民の活動嗜好（理想の活動）だけでなく、デモグラフィックデータおよびサイコグラフィックデータも収集することが望ましい。調査する項目に関しては、本研究では性格、一人暮らしか否か、エニアグラムによる性格タイプの3項目を用いたが、その他にも幸福感に影響を与える項目が存在する可能性があり、今後の課題である。

・健康状態：STEP②のウェアラブルデバイスによって、住民の実際の活動データだけでなく、健康状態のデータも収集することが必要である。実際にどこまで健康状態を把握できるかは不明だが、近年では皮膚温度、脈拍、血中酸素濃度を測定することで体温や心肺機能の異常といった身体的健康状態から、ストレス値などの精神的健康状態までを測ることができるデバイスが開発されている。

2) 幸福感の推定式

上記で挙げた収集データから、幸福感を求める推定式は、図 33, 18 の通りである。また、住民のデモグラフィックデータおよびサイコグラフィックデータに応じて、図 19～24 および図 30～32 を用いることが望ましい。

3) 本章で明らかにできなかった要件

本章では、活動嗜好と実際の活動内容から「活動内容の満足度」、「活動を行った場所・環境の満足度」、「一緒に活動を行った人に対する満足度」の3変数を計算する際の係数については明らかにすることができなかったため、今後の課題である。また、幸福感を推定する際の変数として、本章では「健康状態」、「活動満足度の平均（1日）」、「活動満足度の平均（起床～1/4日）」、「活動満足度の平均（1/4日～2/4日）」、「活動満足度の平均（2/4日～3/4日）」、「活動満足度の平均（3/4日～就寝）」、「活動満足度の平均（起床～1/2日）」、「活動満足度の平均（1/2日～就寝）」、「活動満足度（最後の活動）」、「活動満足度（最高）」、「活動満足度（最高）」、「活動満足度の平均（3時間以上の活動）」、「活動満足度の分散」の13変数を用いた。しかし、各活動の相乗効果や相殺効果、日常的に行う活動か否かなど、他にも幸福感に影響を与える変数は考えられる。他の変数の存在やそれらを用いた時の係数などを調査することも今後の課題である。更に、本章ではデモグラフィックデータおよびサイコグラフィックデータとして、性格、一人暮らしか否か、エニアグラムによる性格タイプの3項目を用いたが、その他にも幸福感に影響を与える項目が存在する可能性があり、今後調査する必要がある。特に本章で実施したアンケート調査では年齢分布に偏りがあり、年齢による幸福感の影響の違いを調査することができなかった。そのため、より広い年齢範囲の人々に同様の調査を実施し、世代による幸福感の影響の違いを調査する必要がある。そして、本章で実施したアンケート調査では標本数が少なかったことも課題である。そのため、より大人数の人々に対して調査を実施し、結果の信頼性を高める必要がある。

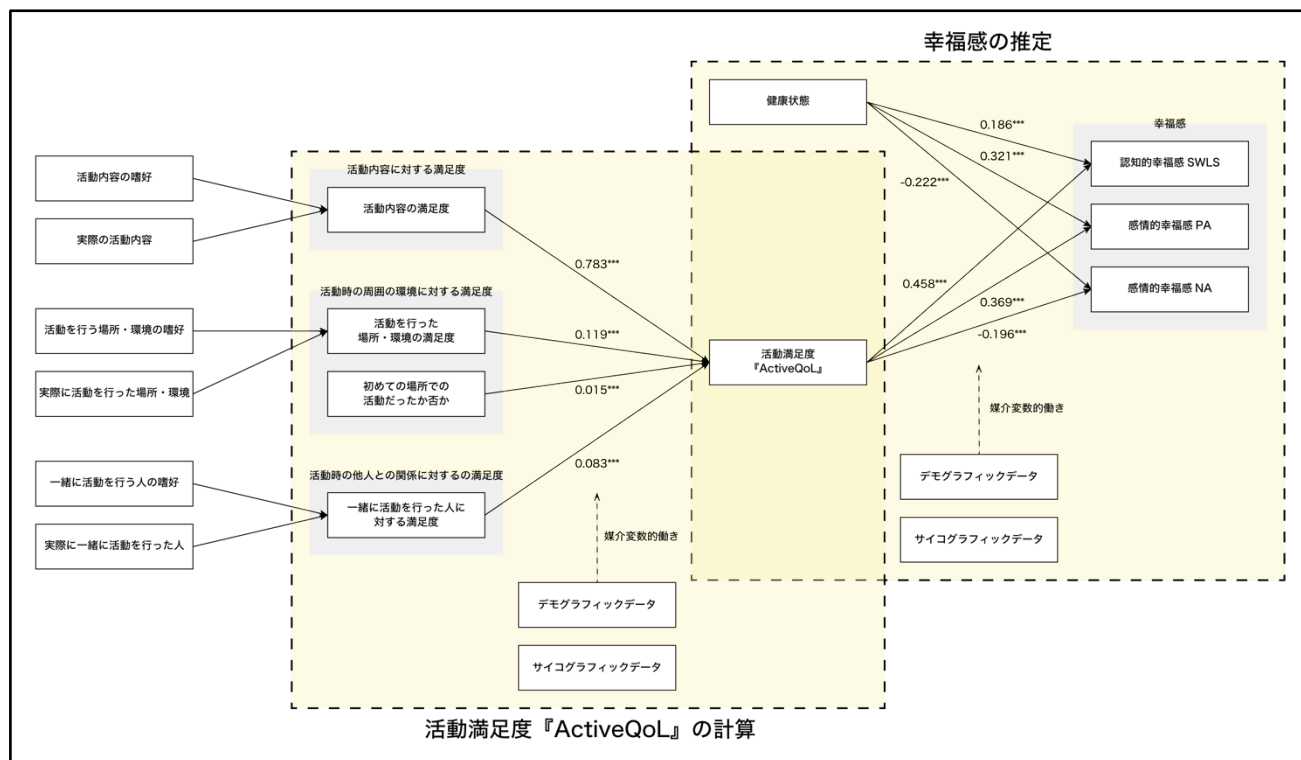


図 33 : 『ActiveQoL』による都市評価の要件

5-4. 小括

本章では『ActiveQoL』による都市評価²⁰の要件、具体的には、活動満足度『ActiveQoL』の計算および幸福感の推定の際にどのようなデータが必要か、計算式および推定式の係数はいくつになるのかについて明らかにした。

5-1 では、活動満足度『ActiveQoL』の計算および幸福感の推定にあたって、変数間の関係を把握するために実施したアンケート調査の概要を説明した。

5-2 では、実施したアンケート調査の結果に対して統計解析環境 R のパッケージ lavaan によるパス解析を行い、変数間の関係について考察した。健康状態、活動満足度と幸福感の関係についての考察では、幸福感を推定する際は、活動の満足度に関する変数に睡眠を含まない方が推定の精度が上がる可能性が高いこと、1 日の活動を 2 つの時間帯に分割した変数を設定する方が精度が上がる可能性が高いこと、健康状態と活動満足度共に変数として用いるのが望ましいこと、活動満足度については「活動満足度の平均（起床～1/2 日）」、「活動満足度の平均（1/2 日～就寝）」、「活動満足度（最後の活動）」、「活動満足度（最高）」、「活動満足度（最低）」、「活動満足度の平均（3 時間以上の活動）」、「活動満足度の分散」の 7 変数を用いるのが望ましいこと、性別、一人暮らしか否か、性格タイプなどのデモグラフィックデータおよびサイコグラフィックデータを媒介変数として用いるのが望ましいこと、更に、各変数間の係数について明らかにした。活動内容の満足度、周囲の環境の満足度、他人との関係の満足度と活動満足度の関係についての考察では、活動満足度を計算する際は、活動内容、活動を行なった場所・環境、一緒に活動を行なった人の満足度および、初めて行く場所での活動だったか否かを変数として用いるのが望ましいこと、性別、一人暮らしか否か、性格タイプなどのデモグラフィックデータおよびサイコグラフィックデータを媒介変数として用いるのが望ましいこと、更に、各変数間の係数について明らかにした。

5-3 では、変数間の関係についての考察を踏まえ、『ActiveQoL』による都市評価の要件、具体的には、活動満足度『ActiveQoL』の計算および幸福感の推定の際にどのようなデータが必要か、計算式および推定式の係数はいくつになるのかについて明らかにした。幸福感の推定に必要なデータとしては、活動嗜好、実際の活動内容、デモグラフィックデータおよびサイコグラフィックデータ、健康状態が挙げられ、活動嗜好のデータには、活動内容、活動を行う場所・環境、一緒に活動を行う人、のそれぞれに対しての嗜好が、実際の活動データには、活動内容、活動を行った場所・環境、初めての場所での活動か否か、一緒に活動を行った人、のそれぞれの活動データが含まれている必要があることが明らかになった。また、これらのデータから幸福感を推定する推定式（図 33, 18～24, 30～32）を明らかにした。一方で、本章で明らかにできなかった要件として、活動嗜好と実際の活動内容から「活動内容の満足度」、「活動を行った場所・環境の満足度」、「一緒に活動を行った人に対する満足度」の 3 変数を計算する際の係数、本章で検討した活動に関する変数以外で幸福感に影響を与える変数の可能性、性格、一人暮らしか否か、エニアグラムによる性格タイプ以外に幸福感に影響を与えるデモグラフィックデータおよびサイコグラフィックデータの項目、本章で実施したアンケート調査では調べられなかった年齢層や標本数、の 4 点について述べた。

第 6 章 結論

6-1. 各章の成果

6-2. 総括

6-3. 本研究の課題と今後の展望

6-1. 各章の成果

以下に、各章の成果を述べる。

第1章では、研究の背景について述べた上で、目的の設定および既往研究に対する位置づけを行い、研究の構成を示した。

第2章では、幸福感研究や幸福感調査の変遷および内容を明らかにするため、幸福感の分類、幸福感研究や幸福感調査の変遷、幸福感研究の内容、幸福感を規定する要因、これまでの幸福感調査の内容について順に整理を行なった。2-3では、既往研究から幸福感を規定する要因を抽出し、デモグラフィックデータ、サイコグラフィックデータ、健康状態、活動傾向、周囲の環境、他人との関係、の6つのカテゴリーに分類した。また、2-5では、国内の自治体による幸福感調査は、海外の主流とは異なり、主に主観的項目によって構成されているという特徴を明らかにした。

第3章では、幸福感調査を実施している国内自治体へのヒアリングを通し、自治体による既存の幸福感調査の課題を明らかにした。3-3にて明らかになった既存の幸福感調査の課題は、調査の負担が大きいこと、調査項目が主観的項目で構成されているため調査結果を具体的な都市政策に反映するのが難しいこと、回答者の細かい要望を把握するのが難しいこと、などであった。

第4章では、2021年に開発された2つの幸福感に基づく新たな都市評価方法（『QOL アクセシビリティ法』¹⁸と『ActiveQoL』による都市評価²⁰）と既存の幸福感調査とを比較検討した。その結果、新たな都市評価方法が、既存の幸福感調査に基づく都市評価方法と比べて多くの点で優れており、既存の課題を解決する有効な都市評価方法であることが明らかになった。特に、『SDGs (Sustainable Development Goals)』¹²や『Society 5.0』¹³の理念に沿って一人一人の要望を反映した都市評価を行いたい場合や、都市政策のフィードバックをリアルタイムに行うなど短期間でPDCAサイクルを回したい場合などは、『ActiveQoL』による都市評価が望ましいことを述べた。

第5章では、第4章で有効性が明らかになった『ActiveQoL』による都市評価²⁰を実現するため、『ActiveQoL』による都市評価の要件を明らかにした。具体的には、人々の活動満足度や幸福感などの関係を把握するアンケート調査から、『ActiveQoL』による都市評価において幸福感を推定するために必要なデータや推定式の係数を明らかにした。幸福感の推定に必要なデータとして、活動嗜好、実際の活動内容、デモグラフィックデータおよびサイコグラフィックデータ、健康状態が挙げられ、活動嗜好のデータには、活動内容、活動を行う場所・環境、一緒に活動を行う人、のそれぞれに対しての嗜好が、実際の活動データには、活動内容、活動を行った場所・環境、初めての場所での活動か否か、一緒に活動を行った人、のそれぞれの活動データが含まれている必要があることが明らかになった。また、これらのデータから幸福感を推定する推定式（代表的なものは図33）を明らかにした。

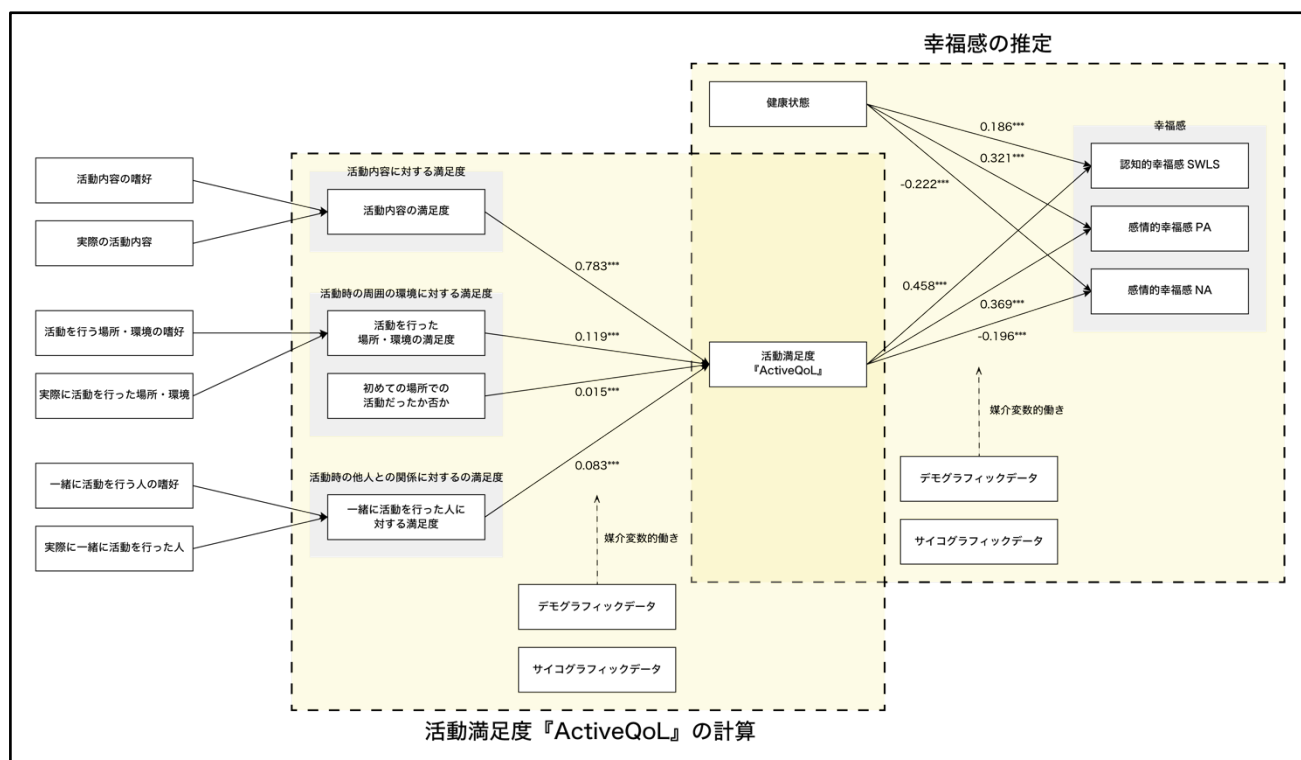


図 33 : 『ActiveQoL』による都市評価の要件 (再掲)

6-2. 総括

本研究の総括は以下の通りである。

今後の都市計画分野においては、ソフト事業の増加や多様な価値観への対応が求められていることから、住民の幸福感に基づく都市評価が重要となると予想されるが、現在実施されている幸福感調査には多くの課題が存在している。昨年発表された『QOL アクセシビリティ法』¹⁸や『ActiveQoL』による都市評価²⁰などの新たな都市評価方法は、これらの既存の課題を解決する有効な方法である。特に『ActiveQoL』による都市評価²⁰は、住民一人一人の活動データから幸福感をリアルタイムに推定しているため、住民の多様な価値観への対応や、都市事業の即時的な評価が可能で、今後の都市計画において大変有効な方法となる。この『ActiveQoL』による都市評価において幸福感を推定するのに必要なデータは、活動嗜好、実際の活動内容、デモグラフィックデータおよびサイコグラフィックデータ、健康状態などであり、特に活動嗜好のデータには、活動内容、活動を行う場所・環境、一緒に活動を行う人、のそれぞれに対しての嗜好が、実際の活動データには、活動内容、活動を行った場所・環境、初めての場所での活動か否か、一緒に活動を行った人、のそれぞれの活動データが必要である。また、これらのデータから幸福感を推定する推定式は図 33 の通りである。

6-3. 本研究の課題と今後の展望

6-1, 6-2 では、本研究で明らかにしたことを述べたが、『ActiveQoL』による都市評価²⁰を実現するにあたって克服しなければいけない課題が残されている。また、並行して、『ActiveQoL』による都市評価が実現した際に自治体が目指すべき都市像についても議論を重ねていく必要がある。本節では、それぞれについて順を追って説明していく。

第5章では、『ActiveQoL』による都市評価において住民の幸福感を推定する上で、どのようなデータが必要か、推定式の係数はいくつになるかを明らかにしたが、デモグラフィックデータおよびサイコグラフィックデータの項目が、性別、一人暮らしか否か、性格タイプの3項目のみに限られており、その他にも幸福感推定の係数に影響を与える要素が存在するかどうか調査する必要がある。特に、活動満足度と幸福感に関するアンケート調査の標本数は少なく、回答者の属性は20代に偏っていたため、実際に『ActiveQoL』による都市評価において幸福感を推定するためには、より広範囲の年齢層に対する調査も実施し、各世代の係数を明らかにしなければならない。

また、幸福感の推定に必要なデータや推定式の確立と並行して、どのように住民のデータを収集するかについても検討していく必要がある。住民の活動嗜好を調査するアンケートの作成や、実際の活動を記録するウェアラブルデバイスの開発などに加えて、住民の活動データを収集するには個人情報の取り扱いに関する倫理的な課題も残されており、『ActiveQoL』による都市評価の実現に向けて、これらの課題を克服しなければならない。

一方、『ActiveQoL』による都市評価が実現した際に自治体が目指すべき都市像についても議論を重ねていく必要がある。『ActiveQoL』による都市評価が実現すると、自治体は住民一人一人の嗜好を把握した上で、住民の幸福感を常にモニタリングしながら、都市政策を実施することが可能となる。このように住民一人一人の幸福感が情報として得られる場合、各自治体はどのような都市を目指すべきであろうか。

自治体が目指す目標として、従来のように多くの住民の幸福感が向上する政策を実施し、全住民の幸福感の平均を最大化する選択肢が考えられる。もしくは、幸福感が特に低い人の幸福感を向上する政策を実施し、従来見過ごされてきたマイノリティを救済する選択肢も考えられる。もしかすると、あらかじめターゲットとする住民像を宣言し、実施する都市政策に合わせた嗜好の持ち主を住民として迎え入れる自治体が出てくるかもしれない。しかし、あらかじめターゲットとする住民を宣言するような自治体では、自治体内の住民は幸せに住めても周囲の地域への悪影響を引き起こす可能性や、そもそも多様な価値観に対応していないなど、批判されうる点はいくつか存在する。この点を踏まえると、従来のように、住民の幸福感の平均を向上させつつ、マイノリティにも気を配り、幸福感が低すぎる人のための政策を並行して実施することが無難かもしれない。

『ActiveQoL』による都市評価の実現が重要であるのは本研究が示す通りだが、上記のような議論を踏まえて、『ActiveQoL』による都市評価の結果をどのように活用するか、どのような都市像を目指すかについても併せて提案することができれば、『ActiveQoL』による都市評価の普及がより一層早まると考えられる。

<謝辞>

本論文の執筆にあたり、今後の都市評価および人々の幸福感についての度重なる議論や、第5章において実施したアンケート調査の手助けをして頂いた、日立東大ラボの松岡様、鈴木様、田井様、笹尾先生、井桁様、杉本様には大変お世話になりました。この場を借りて感謝申し上げます。

第5章でアンケートを実施した回答者の皆様には、連日面倒くさい思いをさせたかと存じますが、最後までご協力して頂き大変助かりました。ありがとうございました。

指導教官の出口先生には、ゼミにてご指導賜り、研究を見直す貴重な機会を幾度も頂きました。また、自分の考えの甘さを痛感させられ、今後の人生の教訓を得ることができました。ありがとうございました。

副指導教官の小崎先生には、中間発表、論文提出前に相談に乗って頂き、これまでにアンケート調査を経験された視点からの貴重なご意見を数多く頂きました。ありがとうございました。

中村先生には、出口研のゼミに何度も参加して頂いただけでなく、個別で相談に乗って頂き、主に調査の分析方法について様々なご意見をいただきました。ありがとうございました。

出口研の尾崎先生、三浦先生、蔣さんにはゼミの場での確かなコメントを頂き、課題の発見や研究の方向性を決定するきっかけを頂きました。ありがとうございました。

出口研の先輩である岡田さんには、ことあるごとに的確なアドバイスを頂き、研究を進めていく上で大きな原動力を頂きました。ありがとうございました。

出口研の同期にはコロナでなかなか会えなく辛い状況ではありましたが、常に刺激を頂き、2年間を乗り越えることができました。ありがとうございました。

最後に、拙い僕の文章を読んで頂いた方に感謝申し上げます。